

授  
業  
概  
要  
  
SYLLABUS

# 授 業 概 要

SYLLABUS

2019

平成31年度



豊岡短期大学

平成三十一年度（二〇一九年）

豊岡短期大学

学籍 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

所 版  
有 権

平成31年度 授業概要

---

平成31年4月1日発行（非売品）

編集兼 豊岡短期大学  
発行者

〒668-8580 兵庫県豊岡市戸牧160番地  
発行所 豊岡短期大学  
電話 (0796) 22-6361

印刷所 喜多見印刷株式会社  
豊岡市中陰546番地の2  
電話 (0796) 23-3685(代)

# 目 次

## カリキュラム一覧

• 総合科目 .....	1
• 専門教育科目 .....	25
教科専門科目 .....	26
教職専門科目 .....	84



## カリキュラム一覧

授 業 科 目 名	開 講 期				担 当 者 名	頁	備 考
	1 年 次		2 年 次				
	前 期	後 期	前 期	後 期			
総 合 科 目							
生 命 倫 理	○				永 井 秀 和	2	
女 性 と 文 化	○				西 村 豊	4	
憲 法	○				野 畑 健太郎	6	
環 境 と 人 間	○				西 村 重 喜	8	
情報リテラシーと処理技術	○	○			西 村 重 喜	10	
健 康 科 学		○			今 野 賛	12	
ス ポ ー ツ (実 技)	○	○			今 野 賛	14	
キ ャ リ ア ア ッ プ I	○				担 当 教 員	16	
キ ャ リ ア ア ッ プ II		○			担 当 教 員	18	別に定める授業科目
キ ャ リ ア ア ッ プ III			○		担 当 教 員	20	別に定める授業科目
英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン		○			西 村 豊	22	別に定める授業科目



# カリキュラム一覧

授 業 科 目 名	開 講 期				担 当 者 名	頁	備 考
	1 年 次		2 年 次				
	前 期	後 期	前 期	後 期			
<b>教科専門科目</b>							
こども家庭福祉		○			室谷雅美	26	
社会福祉論		○			室谷雅美	28	
こどもの発達と家庭支援		○			室谷雅美	30	
人間関係論		○			原田敬文	32	
音楽表現論	○				茨木金吾	34	
表現とこどもの運動	○				今野 賛	36	別に定める授業科目
こどもと体育		○			今野 賛	38	
言葉とこどもの文化		○			和田典子	40	
保育原理	○				國光みどり	42	
社会的養護Ⅰ	○				室谷雅美	44	
障害児保育	○				稲田達也	46	別に定める授業科目
相談援助				○	室谷雅美	48	別に定める授業科目
保育相談支援				○	野口和也	50	
こどもと音楽			○		茨木金吾	52	
こどもと器楽・うた			○		茨木・田上・大江・大谷・榎	54	
こどもと器楽・うたⅡ				○	茨木・田上・大江・大谷・榎	56	
こどもと造形Ⅰ			○		岩田健一郎	58	
こどもと造形Ⅱ				○	岩田健一郎	60	別に定める授業科目
こどもと文学			○		和田典子	62	
こどもの保健Ⅰ			○		杉岡美佐子	64	
こどもの保健Ⅱ				○	杉岡美佐子	66	
こどもの保健Ⅲ				○	杉岡美佐子	68	
精神保健			○		野口和也	70	
こどもの食と栄養			○	○	岡崎典子	72	
地域ボランティア	○	○	○	○	西村 豊	74	
特別研究Ⅰ	○	○			担当教員	76	
特別研究Ⅱ		○			担当教員	78	別に定める授業科目
特別研究Ⅲ			○	○	担当教員	80	
特別研究Ⅳ			○	○	担当教員	82	

# カリキュラム一覧

授 業 科 目 名	開 講 期				担 当 者 名	頁	備 考
	1 年 次		2 年 次				
	前 期	後 期	前 期	後 期			
<b>教職専門科目</b>							
教 職 論	○				原 田 敬 文	84	※1・2年次合同授業
教 育 原 理	○				稲 田 達 也	86	
教 育 心 理 学		○			野 口 和 也	88	別に定める授業科目
発 達 心 理 学	○				野 口 和 也	90	
こ だ も と 文 化		○			渡 瀬 茂	92	別に定める授業科目
教 育 課 程 論	○				宿 南 久 美 子	94	※1・2年次合同授業
保 育 内 容 総 論	○				宿 南 久 美 子	96	
こどもの指導法「人間関係」		○			原 田 敬 文	98	別に定める授業科目
こどもの指導法「言葉」		○			和 田 典 子	100	別に定める授業科目
こどもの指導法「リズム表現」	○				茨 木 金 吾	102	別に定める授業科目
こどもの指導法「音楽表現」	○	○			國光・田上・大江・大谷・榎	104	
教 育 方 法 論	○				原田・大塚・稲田	106	※1・2年次合同授業
社 会 的 養 護 Ⅱ		○			室 谷 雅 美	108	
教 職 論			○		原 田 敬 文	84	※1・2年次合同授業
教 育 課 程 論			○		宿 南 久 美 子	94	※1・2年次合同授業
保 育 内 容 総 論				○	宿 南 久 美 子	110	
こどもと造形表現Ⅱ			○		岩 田 健 一 郎	112	別に定める授業科目
こどもと言語表現			○		和 田 典 子	114	
こどもと音楽表現			○	○	國 光 ・ 田 上	116	
教 育 方 法 論			○		原田・大塚・稲田	106	※1・2年次合同授業
教 育 相 談			○		原 田 敬 文	118	
乳 幼 児 保 育			○		國 光 み どり	120	別に定める授業科目
社 会 的 養 護 内 容			○		室 谷 雅 美	122	別に定める授業科目
教 育 実 習			実習		宿 南 久 美 子	124	
教育実習事前・事後指導		○	○	○	宿 南 久 美 子	126	
保 育 実 習 Ⅰ	実習				栗 岡 ・ 西 村 (重)	128	
保 育 実 習 指 導 Ⅰ	○	○	○		栗 岡 ・ 西 村 (重)	130	
保 育 実 習 Ⅱ			実習		栗 岡 あ け み	132	
保 育 実 習 指 導 Ⅱ			○	○	栗 岡 あ け み	134	別に定める授業科目
保 育 実 習 Ⅲ			実習		西 村 重 喜	136	
保 育 実 習 指 導 Ⅲ			○	○	西 村 重 喜	138	別に定める授業科目
保育・教職実践演習(幼稚園)				○	宿 南 ・ 國 光	140	別に定める授業科目



# ◎総合科目

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
生 命 倫 理	1 年・前期	講義	30時間 (2 単位)	永 井 秀 和
実務経験の概要				
授 業 概 要	人間を主人公とした生命科学を多角的な視点から講義し、生命にかかわる人間の行為について学生諸君とともに考察します。			
授 業 科 目 の 目 的	生命現象の奥に隠されている自然の法則を理解し、生命に関する人間の責任ある関わり方について、学生諸君の考えを表現できるようになることを目的とします。			
学 習 成 果	生命の在り方、生命に対する人間の責任あるかかわり方について、自らの言葉で考えを述べるができるようにします。			
テ キ ス ト				
参 考 書	基礎から学ぶ生命倫理学／村上喜良／勁草書房／2,700円 生命倫理と医療倫理／伏木信次／金芳堂／2,500円			
成 績 評 価 基 準	授業態度20%、 レポート10%、定期試験70%により総合的に評価します。			
メ ッ セ ー ジ	生命現象の基本的な仕組みを理解するとともに、生命の尊さと真摯に向き合い受講することを望んでいます。			
の 事 項				

## 授業内容進行表

1 回	生きていることの証と生命（生命と物質）
2 回	生命倫理とは何か【1】 渾沌と秩序・欲望と理性
3 回	生命倫理とは何か【2】 生命倫理とエコロジーや医療との関係
4 回	生殖生理（生む生まないは女性の権利か）
5 回	生殖補助技術（人工授精・受精卵移植）
6 回	遺伝子操作
7 回	脳死と臓器移植
8 回	安楽死と尊厳死
9 回	生命倫理と宗教の関係【1】
10 回	生命倫理と宗教の関係【2】
11 回	自己存在と自己決定
12 回	生命の誕生について考える 生まれること・生むこと
13 回	死について考える【1】
14 回	死について考える【2】
15 回	医療倫理
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
女性と文化	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	西村 豊
実務経験の概要				
授業概要	<p>現在、政府は一億総活躍社会の実現に向けた働き方改革に取り組んでいます。これは、男女共同参画社会の実現が叫ばれ、社会における女性の果たすべき役割が大きくなる中で、女性も男性も、それぞれが納得のいく働き方ができる社会の実現を目指したものです。しかしながら、依然として男性中心社会であり、多くの女性が社会においてどのように生き、どのような役割を果たしていけばいいのか悩み、迷っているのが現実です。女性が築いてきた文化の視点から、社会を見つめ直し、自分の将来のあり方を考察していきます。</p>			
授業科目の目的	<p>女性としての人権、地位が認められるようになったと言われるものの、実際には男女差別と思われる状況が存在します。「セクハラ」の問題もなくなる気配がありません。過去の歴史から学び、その知識や認識をふまえた上で、現代社会に生きる女性を俯瞰的に捉える視点や問題意識を持って、自らの生き方を考えることができるようになることを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 女性の人権、社会的地位など過去の歴史、及び身近な人たちからのこれまでの歴史を学び、女性を理解できるようにします。</li> <li>2. 具体的な女性を取り上げ、その生き方から学ぶ点を見出し、女性の理解について考えることができるようにします。</li> <li>3. 現代社会の女性が抱える問題点を認識し、現代社会に生きる女性の生き方を探求することができますようにします。</li> <li>4. 現代社会の男性が抱える問題点も認識しながら、男女にかかわる現代社会全体の問題を考えることができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	特に指定せず、教材プリントを配付します。			
参考書	<p>女性学入門／杉本貴代栄編著／ミネルヴァ書房／2,700円          女性の品格／坂東眞理子／PHP 新書／777円          男女共同参画白書平成29年版／内閣府男女共同参画局          ニッポン一億総活躍プラン／内閣官房一億総活躍推進室</p>			
成績評価基準	定期試験 60%、課題・発表 30%、授業態度 10%で総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>本授業では、これまで女性が抱えてきた問題点を、講義や調査・意見発表等で展開します。日頃からニュース等を見て、世の中の出来事に興味・関心を持つとともに、そのことが自分にどのように関わっているのかを常に考えるようにしてください。</p>			
その他事項				

## 授業内容進行表

1 回	<女性と歴史> 古代 中世 近世
2 回	<女性と歴史> 明治 大正 戦後
3 回	<平等とは> 男女共同参画社会 ニッポン一億総活躍プラン・働き方改革実現会議
4 回	<家族とは何か> なぜ人間は家族をつくるのか 近代家族 家族のゆくえ
5 回	<結婚1> 結婚観 配偶者
6 回	<結婚2> 日本の婚姻率 結婚しない女性・男性
7 回	<子育て1> 誰が担うのか、担ってきたか
8 回	<子育て2> 子育て政策と今後について
9 回	<身近な女性の生き方から学ぶ1> レポート作成
10 回	<身近な女性の生き方から学ぶ2> レポート作成
11 回	<身近な女性の生き方から学ぶ3> 発表
12 回	<家庭生活> 家事・地域とのふれあい
13 回	<困難を抱える女性> 貧困 暴力（男性の子ども・女性に対する） 性
14 回	<高齢者問題> 高齢者と介護 誰が担うのか、担ってきたのか
15 回	<まとめ> 女性の歴史と自分の将来像
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
憲法	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	野畑健太郎
実務経験の概要				
授業概要	<p>日本国憲法の全体像が理解できるように講義していきます。日本国憲法の基本原理と具体的な条文とを架橋する体系的な説明を行うことによって、日本国憲法の基本的事項・重要事項の理解をはかります。日本国憲法上の重要条文については、判例を参照しつつ通説的見解に基づいた偏りのない解釈と丁寧な解説を心掛けます。</p> <p>本授業では、憲法への理解を深め、親しみがわくよう、「パワーポイント」によるビジュアルな要素を取り入れた講義を行います。講義内容を理解する一助として、毎回、授業内容に関するプリントを配布します。毎回、授業内容についての確認テストを実施します。</p>			
授業科目の目的	<p>日本国憲法の基本原理と具体的な条文とを架橋する体系的な説明を行うことによって、日本国憲法の基本的事項・重要事項の理解をはかり、日本国憲法の主な特徴および人権保障・統治構造上の基本的事項について、他人への説明を可能とするレベルの理解度に到達することを目指します。</p> <p>日本国憲法の授業を通して、専門職業人としての基本的な倫理観を養うとともに、他人ないし他人の人権を思いやる心を培い、憲法を頂点とする法社会や憲法を基幹とする政治・社会制度に対する深い洞察力を身につけることを本授業科目の目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「憲法」の基本観念と「人権」の概念について概要を説明できるようにします。</li> <li>2. 日本国憲法の基本原理と人権保障・統治構造の概要を説明できるようにします。</li> <li>3. 日本国憲法の基本的な条文について通説・判例の見解を説明できるようにします。</li> </ol>			
テキスト	現代憲法概説／上田正一／嵯峨野書院／3,300円			
参考書	憲法（第六版）／芦部信喜(高橋和之補訂)／岩波書店／3,348円			
成績評価基準	定期試験70%、平常点30%（受講態度10%、確認テスト20%）で総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>憲法の受講者がよく口にするのが、憲法は「とっつきやすいが、難しい」、「よくわからない」、「好きになれない」といった言葉です。確かに「日本国憲法」は、社会科の教科書にも出てくる基本学習項目で、「とっつきやすい」科目といえますが、憲法は間口が広いとともに、法律科目の中でも、特に奥行きが深い科目です。憲法に関する多量で多様な事柄に接したとき、何を、どのように学べばよいのか、戸惑いを感じる受講者が少なくないと思います。</p> <p>そこで、受講者が憲法を理解し、少しでも憲法への親しみがわくよう、ビジュアルな要素を取り入れたパワーポイントによる授業を試み、理解の一助となるよう、毎回、パワーポイントの内容をプリント化したものを配付します。授業はテキストに沿って進めていきますので、テキストによる予習が可能であり、自主的な予習が望まれます。受講者は、憲法の授業を初めのうちは難しいと感じるかもしれませんが、授業に出席し、授業に専念すれば、徐々に分かるようになってくると思います。</p>			
その他	受講者の理解度に応じて授業を進めるため、予定した15回の授業内容と進度にずれが生じる場合があることを了解してください。受講者を置き去りにした授業はしないように心掛けていきます。			

## 授業内容進行表

1 回	<憲法と立憲主義> 1.憲法とは何か：憲法の意味／憲法の分類／憲法の特質 2.立憲主義、近代憲法、現代憲法
2 回	<日本憲法史> 1.明治憲法：特質 2.日本国憲法：憲法の制定／憲法制定の法理 <日本国憲法の構成と基本原理> 1.日本国憲法の構成 2.日本国憲法の基本原則
3 回	<象徴天皇制> 1.天皇の地位 2.天皇の権能 3.天皇の行為の種類 <平和主義の原理> 1.平和主義と平和的生存権 2.憲法9条の解釈と運用
4 回	<人権宣言の歴史> 1.近代的人権宣言の確立・歴史 2.明治憲法と日本国憲法の人権保障 <人権の観念とその類型> 1.人権の観念 2.人権の類型 3.新しい人権の問題
5 回	<人権の享有主体> 1.国民 2.未成年者 3.天皇・皇族 4.法人 5.外国人 <人権保障の限界と「公共の福祉」> 1.概念 2.権利制約の論理 <特別の法律関係にある者の人権> 1.公務員の人権 2.受刑者等
6 回	<私人間における人権の保障と限界> 1.学説 2.判例 <包括的基本権(1)> 1.生命、自由および幸福追求権の位置と性格 2.思想的源 3.個人の尊重・幸福追求権の法的性格
7 回	<包括的基本権(2)> 1.プライバシーの権利 2.名誉権 3.環境権 4.自己決定権 <法の下での平等> 1.歴史 2.意味 3.平等原則 4.不合理な差別の禁止 5.貴族制度の廃止
8 回	<精神的自由権(1)> 1.思想・良心の自由 2.信教の自由 3.国家と宗教の分離 4.学問の自由 5.大学の自治 <精神的自由権(2)> [表現の自由(1)] 1.規制 2.形態と内容 3.報道・取材の自由
9 回	<精神的自由権(3)> [表現の自由(2)] 1.性的表現の自由 2.名誉毀損表現 3.知る権利・アクセス権 4.集会・結社の自由 5.通信の秘密 <人身の自由(1)> 1.奴隷的拘束・苦役からの自由 2.適正手続の保障
10 回	<人身の自由(2)> 1.被疑者の権利 2.被告人の権利 3.拷問・虐待の禁止 <経済的自由権> 1.居住・移転の自由 2.職業選択の自由 3.外国移住・国籍離脱の自由 4.財産権
11 回	<社会権(1)> 1.生存権 2.生存権の法的性格 3.生存権の内容 4.環境権の憲法的根拠 5.環境権の内容と裁判例 6.教育を受ける権利の意義 7.教育を受ける権利の法的性格
12 回	<社会権(2)> 1.教育を受ける権利の内容 2.労働権の性格 3.労働権の内容 4.労働基準の法定 5.児童酷使の禁止 6.労働基本権の性格
13 回	<社会権(3)> 1.労働基本権の内容と限界 <国務請求権> 1.裁判を受ける権利 2.国家賠償権 3.刑事補償請求権 4.請願権
14 回	<参政権> 1.公務員の選定・罷免権 <国民の義務> 1.教育の義務 2.勤労の義務 3.納税の義務
15 回	<統治機構> 1.国会 2.内閣 3.裁判所 <財政・地方自治> 1.財政の基本原則 2.地方自治の本旨
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
環 境 と 人 間		1 年・前期	講義	30時間 (2 単位)	西 村 重 喜
実務経験の概要					
授 業 概 要	<p>幼児期の教育において、自然や動植物とのかかわりが欠かせません。自然や動植物とのかかわりは、その対象を命あるものとしてとらえ、心を動かし、多くのことに気付く経験につながります。本授業では、「自然や動植物」と関わろうとする幼児を支援するために必要な「自然や動植物」及び「自然環境」に関する基礎知識を習得することを目指します。</p>				
授 業 科 目 の 目 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会の一員として求められる環境分野の基礎的な知識を習得し、身近な環境に対する理解を深めます。</li> <li>・ 雑木林や水田など身近な自然環境の特徴や生息・生育する動植物について知識を深めます。</li> <li>・ 動植物の同定、危険の有無など、子どもたちと自然との関わりを促す上で必要な基礎知識の習得を図ります。</li> <li>・ 「20年、30年先の社会を担う子どもたちに自然への興味関心を抱かせる視点」を身に付けます。</li> </ul>				
学 習 成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 代表的な環境問題の仕組みについて説明する知識を身につけることができますようにします。</li> <li>・ 雑木林や水田に生息・生育する同植物について、種名、色、形、生息・生育場所などの基礎知識を深めることができますようにします。</li> <li>・ 身近な自然の変化に気づく視点を身につけることができますようにします。</li> <li>・ 子どもたちが自然に親しむきっかけを与える能力を身につけることができますようにします。</li> </ul>				
テ キ ス ト	授業内でプリント等を配付します。				
参 考 書	<p>改訂新版地球環境がわかる／技術評論社  くらべてわかる木の葉っぱ／林将之／山と溪谷社  自然観察ハンドブック／日本自然保護協会／平凡社  野外における危険な生物／日本自然保護協会／平凡社</p>				
成 績 評 価 基 準	定期試験60%、小テスト15%、レポート15%、授業態度10%により、総合的に評価します。				
メ 受 講 の セ ー ジ と 心 構 え と	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境分野の基礎的な知識には、近年話題になっている PM2.5や二酸化炭素の排出など、社会の一員として理解が求められる広域的な環境問題を含めます。</li> <li>・ 雑木林や水田で観察できる動植物は、春から夏にかけて観察できる種を対象とし、キャンパス内を中心とした野外観察を実施します。</li> <li>・ 図鑑や WEB ページを活用した情報収集と整理を必要とすることがあります。</li> <li>・ 対象とする動植物は代表的な種に限ることとし、詳細な分類には踏み込みません。</li> </ul>				
の そ の 他					



## 授業内容進行表

1 回	<p>&lt;環境と人間の関係について&gt; 人が自然に影響を及ぼしている事例について学び、「環境と人間」の目的を理解する</p>
2 回	<p>&lt;「里山」について&gt; 人が関わることによって環境が維持されている里山について学び、キャンパス内の生きもの観察を行う</p>
3 回	<p>&lt;こどもと自然体験について&gt; 子どもの豊かな人格形成に及ぼす自然体験の役割と、指導者の適切な関わり方について学ぶ</p>
4 回	<p>&lt;「コウノトリの野生復帰事業」について&gt; コウノトリの絶滅要因、絶滅要因への対応について学ぶ</p>
5 回	<p>&lt;「生物多様性」の事例について&gt; 水辺の生態系について学び、戸牧地区の農地の生きもの分析・評価を行う</p>
6 回	<p>&lt;「生物多様性の維持・保全・回復」について&gt; 河川の魚道、水田魚道、里山の裾刈り、ひょうご元気マツの開発等について学ぶ</p>
7 回	<p>&lt;里山・水田の生き物について&gt; 水田の生態系を学び、カエルの卵塊や幼生（オタマジャクシ）、ミジンコ等の観察を行う</p>
8 回	<p>&lt;「生物多様性」と関係条約について&gt; 生物多様性の重要性、絶滅の要因、ワシントン条約、ラムサール条約、生物多様性条約について学ぶ</p>
9 回	<p>&lt;広域的な環境問題について&gt; 地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、PM2.5について学ぶ</p>
10 回	<p>&lt;身近な樹木について&gt; 子どもと自然との関わりを支援する上で必要な樹木に関する基礎的な知識を学ぶ</p>
11 回	<p>&lt;身近に生育・生息する危険な生き物について&gt; 自然とふれあう活動を計画する上で必要な危険生物に関する基礎的な知識を学ぶ</p>
12 回	<p>&lt;アニマルトラッキングについて&gt; 足跡や残された糞、爪跡などのフィールドサインについて学び、キャンパス内のフィールドサインを分析・評価する</p>
13 回	<p>&lt;自然体験の指導・支援について&gt; 子どもの発達段階に応じた自然体験、幼児に望ましい自然体験、自然体験を支援するための留意点などについて学ぶ</p>
14 回	<p>&lt;フィールドマップの作成&gt; 「環境と人間」で習得し知識を活用して、キャンパス周辺の生き物地図を作成し、活用方法を考案する</p>
15 回	<p>&lt;フィールドマップの発表&gt; 完成したフィールドマップを発表し、質疑・応答を通して、情報交換を行う</p>
<p>【定期試験】 (有) ・ 無</p>	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
情報リテラシーと処理技術		1年・通年	演習	60時間 (2単位)	西村重喜
実務経験の概要					
授業概要	コンピュータのハードウェア及びソフトウェアに関する「基礎知識」、情報セキュリティ対策や著作権の保護などの「情報モラル」について学びます。さらに、パーソナルコンピュータを使用して、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等の活用技術の習得に向けた演習を行います。				
授業科目の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータのハードウェア及びソフトウェアに関する基礎的知識の習得を図ります。</li> <li>・情報セキュリティ対策や著作権の保護などの「情報モラル」について理解を深めます。</li> <li>・ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等を保育士や幼稚園教諭等の立場で活用する技術の習得を図ります。</li> </ul>				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. パソコンの仕組みと基本操作を理解することができるようにします。</li> <li>2. インターネットの基本概念を理解し、活用する能力を身につけることができるようにします。</li> <li>3. 情報倫理・情報管理、情報セキュリティについての知識と能力を身につけることができるようになります。</li> <li>4. ワープロソフトを活用し、文書や図を作成する能力を身につけることができるようになります。</li> <li>5. 表計算ソフトを活用し、表、グラフを作成する能力を身につけることができるようになります。</li> <li>6. ホームページの仕組みを理解することができるようにします。</li> <li>7. プレゼンテーションソフトを活用し、説明する能力を身につけることができるようになります。</li> </ol>				
テキスト	授業内でプリント等を配付します。				
参考書	改訂新版 よくわかる情報リテラシー（標準教科書）／技術評論社 TECHNICAL MASTER はじめてのHTML + CSS HTML5 対応／秀和システム 演習でまなぶ 情報処理の基礎／朝倉書店 情報リテラシー<改訂版>（Windows10・Office 2016対応）／FOM 出版 保育者のためのパソコン講座 Windows10/8.1/7対応版／萌文書林 図解チャートよくわかる実習情報／技術評論社 新・コンピュータ解体新書 [第2版]／サイエンス社				
成績評価基準	定期試験60%、提出課題等30%、学習態度10%により総合的に評価します。				
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な知識の習得を評価するショートテストを実施します。</li> <li>・パーソナルコンピュータを使用する演習では、文書、表、スライド等の提出を課します。</li> <li>・キーボードのブラインドタッチ習得を目指します。</li> </ul>				
その他					

## 授業内容進行表

1 回	<Windows 操作①> 起動、アカウント、エクスプローラ、フォルダ、リモートドライブの理解	16 回	<表計算ソフトの応用⑤> 棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ
2 回	<Windows 操作②> ブラウザ、印刷、コントロールパネル、コンピュータとソフトウェア	17 回	<表計算ソフトの応用⑥> 第2軸が設定されたグラフの作成、ソフトウェアのデータ互換性
3 回	<ワープロソフト基本①> 文字情報、フォント設定、レイアウト設定、ヘッダーの活用	18 回	<ワープロソフトと表計算ソフトの連携①> 差し込み印刷
4 回	<ワープロソフト基本②> 知的財産権、文書レイアウトの設定、文章入力、表、罫線処理	19 回	<ワープロソフトと表計算ソフトの連携②> エクセルオブジェクトのリンク貼り付け
5 回	<ワープロソフト基本③> 情報セキュリティ、図形挿入、画像挿入	20 回	<プレゼンテーションソフト①> 入力、印刷、スライドショー
6 回	<表計算ソフト基本①> 情報漏えい対策、基本操作（フォント、シート、罫線、ヘッダー活用）	21 回	<プレゼンテーションソフト②> アニメーション、画面切り替え、オブジェクトの活用
7 回	<表計算ソフト基本②> 個人情報、情報モラル、セルの書式設定	22 回	<プレゼンテーションソフト③> テーマに沿ったプレゼンテーションの作成(1)
8 回	<表計算ソフト基本③> インターネットの悪用、図形挿入、画像挿入、表の作成	23 回	<プレゼンテーションソフト④> テーマに沿ったプレゼンテーションの作成(2)
9 回	<ワープロソフト応用①> 文書体裁関連用語、文書体裁、文字体裁、オートコレクト	24 回	<マルチメディア①> 音声のデジタル化とファイルの種類、音声ファイルの再生
10 回	<ワープロソフト応用②> 長文の作成、テキストボックスの活用	25 回	<マルチメディア②> 画像のデジタル化とファイルの種類、動画のデジタル化とファイルの種類
11 回	<ワープロソフト応用③> 公文書のスタイル、「おたより」の作成	26 回	<マルチメディア③> 画像解像度、マルチメディアファイルの変換
12 回	<表計算ソフト応用①> 計算式と関数	27 回	<Web ページ①> HTML、HTTP、ブラウザの活用
13 回	<表計算ソフト応用②> 表の作成と関数を使った集計	28 回	<Web ページ②> Web サーバ、HTML エディタの活用
14 回	<表計算ソフト応用③> 児童台帳の作成	29 回	<Web ページ③> HTML と CSS、テーマに沿った HTML ファイルの作成
15 回	<表計算ソフトの応用④> データベース機能の活用、ワード文書への貼り付け	30 回	<ICT活用の展望> VR、IoT、クラウドコンピューティング
		【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
健 康 科 学		1 年・後期	講義	15時間 (1 単位)	今 野 賛
実務経験の概要					
授 業 概 要	健康科学のテキストと健康に関する視聴覚教材を使用した講義と演習で科学的な根拠に根ざした健康づくりを学びます。				
授 業 科 目 の 目 的	生涯にわたって健康で勉学や仕事に打ち込むには、心身ともに健康でなければなりません。今日、私たちを取り巻く社会や環境、生活の変化は、私たちの健康に多大な影響を及ぼしています。本講義では、それらのことについて客観的に分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康づくり及び幼児から高齢者までの健康づくりの指導ができるようになることを目的としています。				
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の体力増進や健康管理ができるとともに、指導者として自己や周囲の人への運動処方を考えることができるようになります。</li> <li>2. 救命救急措置や熱中症などの知識を深め、その対策や指導力を身につけるとともに、生涯における健康な生活設計(薬物・アルコール・たばこ・エイズ等)への自己の認識を確立し、実践できるようにします。</li> </ol>				
テ キ ス ト	健康科学/長谷川定宣/豊岡短期大学				
参 考 書					
成 績 評 価 基 準	<p>授業態度20%、小レポート30%、定期試験50%により総合的に評価します。その評価基準は、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーや周りへの配慮ができているか。</li> <li>2. 小レポートでは課題について丁寧に記述でき、自分の考えを述べられているか。</li> <li>3. 定期試験では、知識の習得・理解ができているか。</li> </ol>				
メ ッ セ ー ジ と	日頃からの自己の健康管理を考え実践してください。また、予習・復習としては、学外でのスポーツやレクリエーションに取り組み、科学的健康づくりを実践することを求めます。				
の 其 他 項					

## 授業内容進行表

1 回	健康な生活設計 自己の健康管理について、喫煙・飲酒が及ぼす身体影響を考える
2 回	運動の基礎理論 トレーニング方法及び現代人の運動不足と健康管理について学ぶ
3 回	運動生理学 運動と呼吸、運動と筋肉、運動と神経について知識を深める
4 回	救命救急 救命救急処置についての知識と処置法、AEDの取り扱い方を学ぶ
5 回	運動処方1 運動処方について学ぶとともに、毎夏に運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ
6 回	運動処方2 ウォーミングアップとクーリングダウンについて
7 回	健康日本21 「健康日本21」から自己の健康への課題を探る
8 回	生活と運動 自己のライフスタイルでの健康づくりを学ぶ
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
スポーツ(実技)	1年・通年	実技	45時間 (1単位)	今野 賛
実務経験の概要				
授業概要	各種のスポーツを仲間とともに体験し、スポーツをする・みる・ささえるなど様々な関わり方を学びます。仲間と身体活動を行う中で自己の体力向上及び健康の保持増進を図り、保育者や指導者としての子ども達への指導法や競技の運営についても学びます。			
授業科目の目的	生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身につけることを目的とします。健康と安全に留意しながら個人的・集团的スポーツを楽しむことができ、作戦の立て方や審判の仕方、競技運営方法を学びます。各種のスポーツを仲間とともに楽しみ、自己の体力向上及び健康の保持・増進を図ることを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球を仲間とともに楽しみ、技能向上を図ることができるようにします。</li> <li>2. 各スポーツのルールを理解し審判ができるようになるとともに試合運営ができるようにします。</li> <li>3. ニュースポーツについて体験し、指導者としての知識・技能を獲得できるようにします。</li> </ol>			
テキスト	健康科学／長谷川定宣／豊岡短期大学			
参考書				
成績評価基準	<p>授業態度20%、技能獲得30%、定期試験50%により総合的に評価します。その評価の基準は、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーシップや周りへの配慮ができているか。</li> <li>2. 小レポートでは課題について丁寧に記述でき、自分の考えを述べられているか。</li> <li>3. 技能獲得では、技能が発揮できるとともに、チームメイトへの指導力も備えているか。</li> <li>4. 定期試験では、知識の習得・理解ができているか。</li> </ol>			
受講の心構えとメッセージ	本授業を通して、スポーツをすることの意味をあらためて考えてみましょう。また、スポーツの新たな魅力や関わり方を発見することが大切です。スポーツ(実技)は参加してこそ、そのスポーツの本来の楽しさを味わうことができます。見学・欠席しないように日頃の健康管理を実践してください。また、予習・復習としては、余暇を使ってスポーツやレクリエーションに取り組み、健康づくりを行ってください。			
その他事項	実技では運動のできる服装・シューズを準備し、指導者(保育士)の心構えを身につけよう。			

## 授業内容進行表

1 回	ガイダンス 受講の心構えとスポーツについて学ぶ	16 回	スポーツを観る 1 スポーツ映画を観る
2 回	ニュースポーツ 1 バルシューレを楽しむ	17 回	スポーツを観る 2 スポーツ映画を観る
3 回	バレーボール 1 基本練習とルールについて学ぶ	18 回	ニュースポーツ 3 テーパーボールを楽しむ
4 回	バレーボール 2 応用練習でゲームを楽しむ	19 回	卓球 1 基本練習とルールについて学ぶ
5 回	バレーボール 3 審判方法について学び、ゲームを楽しむ	20 回	卓球 2 ダブルスのルールを学び、ゲームを楽しむ
6 回	バレーボール 4 作戦を立ててゲームを楽しむ	21 回	卓球 3 審判方法について学び、ダブルスでゲームを楽しむ
7 回	ニュースポーツ 2 アルティメットを楽しむ	22 回	卓球 4 ダブルスで作戦を立ててゲームを楽しむ
8 回	バスケットボール 1 基本練習とルールについて学ぶ	23 回	まとめ 授業のまとめ
9 回	バスケットボール 2 応用練習でゲームを楽しむ	24 回	
10 回	バスケットボール 3 審判方法について学び、ゲームを楽しむ	25 回	
11 回	バスケットボール 4 作戦を立ててゲームを楽しむ	26 回	
12 回	バドミントン 1 基本練習とルールについて学ぶ	27 回	
13 回	バドミントン 2 ダブルスのルールを学び、でゲームを楽しむ	28 回	
14 回	バドミントン 3 審判方法について学び、ダブルスでゲームを楽しむ	29 回	
15 回	バドミントン 4 ダブルスで作戦を立ててゲームを楽しむ	30 回	
		【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
キャリアアップⅠ		1年・前期	演習	30時間 (1単位)	担 当 教 員
実務経験の概要					
授 業 概 要	<p>「マナー」は、社会人・保育者として基本的な礼儀・作法を実践的に学びます。「一般教養」は、社会科学、人文科学、自然科学の分野から問題集等をもとに学習します。「作文」は、観察から文章を書く学習と、発表することを通して教養と文章表現・コミュニケーション力の習得を目指して展開していきます。</p>				
授 業 科 目 の 目 的	<p>学生一人ひとりが、将来の自分をイメージしながら、社会で活動するための力を養うことが目的です。社会人・保育者として必要なマナーや教養を身につけることを目指します。</p>				
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会人・保育者として基本的な礼儀・作法を身につけることができますようにします。</li> <li>2. 社会人・保育者として必要な教養を身につけることができますようにします。</li> <li>3. 文章表現力と発表力等のコミュニケーション力の習得ができるようになりますようにします。</li> </ol>				
テ キ ス ト	<p>授業の中で紹介します。</p>				
参 考 書					
成 績 評 価 基 準	<p>上記の3つの学習成果について、実技、小テスト、レポート提出、授業態度・意欲により達成度を評価します。</p> <p>「マナー」は、授業態度・意欲30%、実技テスト70%として総合的に評価します。</p> <p>「一般教養」は、授業態度・意欲30%、小テスト・課題等70%として総合的に評価します。</p> <p>「作文」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。</p> <p>※総合評価基準は、マナー50%、一般教養25%、作文25%の割合で評価します。</p>				
メ ッ セ ー ジ と 受 講 の 心 構 え	<p>「マナー」、「一般教養」と「作文」は社会人・保育者として必要な教養です。主体的にこつこつと学習を積み重ねていく習慣をつけてください。</p>				
の そ の 他					



## 授業内容進行表

1 回	オリエンテーション 建学の理念に基づく教養的学習成果（有用な社会人、保育者になるために） マナー・一般教養・作文の授業内容 一般常識テスト
2 回	図書館の利用について（説明及び検索の仕方） マナー 1 服装・身だしなみ
3 回	マナー 2 敬語の使い方（理論と実践） 敬語の意義、敬語の種類、保育教育の場での敬語実践
4 回	マナー 3 表情・挨拶（お辞儀の仕方）・歩き方（会釈も含む）
5 回	マナー 4 電話のかけ方・受け方 電話のかけ方の基本（実習依頼の仕方）
6 回	マナー 5 掃除の仕方 清掃の基本（雑巾のしぼり方・拭き方、箒の使い方 実践）
7 回	マナー 6 聞き取りやすい話し方（理論と実践）
8 回	マナー 7 食事のマナー（箸の使い方）、お茶の入れ方、出し方
9 回	一般教養 1 一般常識テスト・解説等(1) 作文 1 表記について 観察記録について
10 回	一般教養 2 一般常識テスト・解説等(2) 作文 2 観察したことを記録する「絵本」
11 回	一般教養 3 一般常識テスト・解説等(3) 作文 3 観察したことを記録する「動画……3分間クッキング」
12 回	一般教養 4 一般常識テスト・解説等(4) 作文 4 観察したことを記録する「動画……園児の生活」
13 回	一般教養 5 一般常識テスト・解説等(5) 作文 5 自己分析をする（長所、短所を文章にする 自己及び他人からの分析）
14 回	一般教養 6 一般常識テスト・解説等(6) 作文 6 自己紹介文の作成
15 回	一般教養 7 まとめ テスト・解説等 作文 7 自己紹介の実践（実習での職員に向けたもの、子どもに向けたもの 時間：約100秒）
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
キャリアアップⅡ	1年・後期	演習	15時間 (1単位)	担当教員
実務経験の概要				
授業概要	<p>社会人・保育者として求められる一般教養を身につける学習を行っていきます。具体的には、「一般教養」は、社会科学、人文科学、自然科学の分野から問題集等をもとに学習し、一般常識模擬試験を実施することにより自己の力を客観的に分析します。「作文」は、自己分析をし、表現していくなど文章を書く学習と発表することを通して教養と文章表現・コミュニケーション力の習得を目指して展開していきます。さらに、「保育」は、保育者としての保育観察等を通して実習や専門職に就くための力をつける授業を展開します。</p>			
授業科目の目的	<p>キャリアアップⅠの学習をさらに深め、学生自身が、将来を見据えて、就職に必要な知識とスキルを高め、社会人・保育者としての質の向上を目指します。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会人・保育者として基本的な知識と技能を身につけることができますようにします。</li> <li>2. 社会人・保育者として必要な教養を身につけることができますようにします。</li> <li>3. 文章表現力と発表力等のコミュニケーション力の習得することができますようにします。</li> </ol>			
テキスト	<p>授業の中で紹介します。</p>			
参考書				
成績評価基準	<p>上記の3つの学習成果について、実技、小テスト、レポート提出、授業態度・意欲により達成度を評価します。</p> <p>「保育」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。</p> <p>「一般教養」は、授業態度・意欲30%、小テスト・課題等70%として総合的に評価します。</p> <p>「作文」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。</p> <p>※総合評価基準は、保育50%、一般教養25%、作文25%の割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>「保育」、「一般教養」、「作文」は社会人・保育者として必要な教養です。短期間では身につけませんので、主体的にこつこつと学習を積み重ねていく習慣をつけてください。</p>			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	オリエンテーション
2 回	一般教養1 一般常識テスト・解説等(1) 作文1 テーマをもとに作文を書く(200字程度 時間内に書く)
3 回	一般教養2 一般常識テスト・解説等(2) 作文2 テーマをもとに作文を書く(400字程度 時間内に書く) 1
4 回	一般教養3 一般常識テスト・解説等(3) 作文3 テーマをもとに作文を書く(400字程度 時間内に書く) 2
5 回	保育1 保育観察・理解(1) 0歳～2歳(1)
6 回	保育2 保育観察・理解(2) 0歳～2歳(2)
7 回	保育3 模擬保育(1) 0歳～2歳児(1)
8 回	保育4 模擬保育(2) 0歳～2歳児(2)
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
キャリアアップⅢ	2年・前期	演習	15時間 (1単位)	担当教員
実務経験の概要				
授業概要	<p>社会人・保育者として求められる一般教養を身につける学習を行っていきます。具体的には、「一般教養」は、社会科学、人文科学、自然科学の分野から問題集等をもとに学習します。「作文」は、自己分析をし、表現していくなど文章を書く学習と発表することを通して教養と文章表現・コミュニケーション力の習得を目指して展開していきます。さらに、「保育」は、模擬保育を行い、実践的学習を通して、保育者としての資質を高める内容を実施します。</p>			
授業科目の目的	<p>社会人・保育者に求められる「自ら考え、行動し、協力し合える力」の向上を目指します。学生一人ひとりが将来に向けて、目標を持ち、計画を立てて、この演習での学びを充実させ自分自身のキャリアアップを図ることが目的です。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会人・保育者として基本的な知識と技能を身につけることができますようにします。</li> <li>2. 社会人・保育者として必要な一般教養を身につけることができますようにします。</li> <li>3. 文章表現力と発表力等のコミュニケーション力の習得ができるようになりますようにします。</li> </ol>			
テキスト	<p>授業の中で紹介します。</p>			
参考書				
成績評価基準	<p>上記の3つの学習成果について、実技、小テスト、レポート提出、授業態度・意欲により達成度を評価します。</p> <p>「保育」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。</p> <p>「一般教養」は、授業態度・意欲30%、小テスト・課題等70%として総合的に評価します。</p> <p>「作文」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。</p> <p>※総合評価基準は、保育50%、一般教養25%、作文25%の割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>学生一人ひとりが、卒業後の進路希望の実現をめざす授業内容です。就職することで各自のキャリアがスタートしますが、その就職活動に実際に取り組む際に必要な基本的知識と技術を身につけ、就労意識を高めて、適切な職業選択に役立てましょう。</p>			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	オリエンテーション
2 回	保育1      模擬保育(1)    3歳～5歳児(1)
3 回	保育2      模擬保育(2)    3歳～5歳児(2)
4 回	保育3      模擬保育(3)    3歳～5歳児(3)
5 回	保育4      保育者としてのマナー
6 回	一般教養1    一般常識テスト・解説等(1) 作文1      小論文とは 小論文の書き方の基本(原稿用紙の使用方法を含む)
7 回	一般教養2    一般常識テスト・解説等(2) 作文2      テーマをもとに小論文を書く(600字程度) 1
8 回	一般教養3    まとめ テスト・解説等(3) 作文3      テーマをもとに小論文を書く(600字程度) 2
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 有 ・ (無)	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
英語コミュニケーション		1年・後期	演習	30時間 (2単位)	西 村 豊
実務経験の概要					
授業概要	テキストは保育園での生活を題材にしたものです。保育園での1年間の様子が描かれた英文を読み、園生活のさまざまな場面での保育者と子どもや保護者との会話に使われる英語表現を学習します。				
授業科目の目的	急速にグローバル化が進む現代社会において、幼稚園や保育所に日本語を母語としない外国人の園児が入園してくることもあり、英語を使う機会も増えています。保育の現場に必要な基本的な英語表現を身につけることを目的とします。また、英語を学ぶことを通じて、日本語の表現力の向上も目指します。				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育園での生活に関する英文を読み、保育園に関する理解を深めることができますようにします。</li> <li>2. 保育者と子どもや保護者との会話に使われる英語表現を身につけることができますようにします。</li> <li>3. 保育者と子どもや保護者との会話に使われる英語表現を学ぶとともに、日本語との違いや日本語に対する意識も高め、表現力が向上するようにします。</li> <li>4. 「将来の職場」である園生活の具体的な場면을学習していく中で、未来の保育者という能動的な態度・意識を身につけることができますようにします。</li> </ol>				
テキスト	新・保育の英語／森田和子／三修社／2,052円				
参考書	保育の英会話／赤松直子、久富陽子／萌文書林／2,160円				
成績評価基準	定期試験 60%、課題・小テスト 30%、授業態度 10%で総合的に評価します。				
受講の心構えと メッ ッの セー ーの セー ーの セー ーの	<p>学習の効果を上げるためには、テキストを使った家庭での学習が不可欠です。</p> <p>テキストと英和辞書、ノートを持参し、積極的に授業に取り組んでください。</p> <p>辞書は電子辞書ではなく紙の辞書を持参してください。</p> <p>ノートは新しいA4版のノートを用意してください。授業ノートのつくりかたについては最初の授業で指導します。</p>				
の そ の 事 項 他					

## 授業内容進行表

1 回	<The School Year Begins> 本文の読解、基本表現、演習
2 回	<Arrival> 本文の読解、基本表現、演習
3 回	<Playtime in the Classroom> 本文の読解、基本表現、演習
4 回	<In the Sandbox> 本文の読解、基本表現、演習
5 回	<Grammar 1> 一般動詞・be動詞
6 回	<Lunchtime> 本文の読解、基本表現、演習
7 回	<Changing Clothes and Story Time> 本文の読解、基本表現、演習
8 回	<Nap Time> 本文の読解、基本表現、演習
9 回	<A Sick Child> 本文の読解、基本表現、演習
10 回	<Grammar 2> 疑問文・否定文・命令文
11 回	<Preparation for Sports Day> 本文の読解、基本表現、演習
12 回	<The Sports Day> 本文の読解、基本表現、演習
13 回	<Going for a Walk> 本文の読解、基本表現、演習
14 回	<Discovering Autumn> 本文の読解、基本表現、演習
15 回	<Grammar 3> 前置詞
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	





◎專門教育科目

○教科專門科目

○教職專門科目

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こども家庭福祉	1年・後期	講義	30時間 (2単位)	室谷雅美
実務経験の概要				
授業概要	子ども虐待・子どもの貧困など親子関係が不安定な状況のなかにおいて、保育士として子どもの支援について考えます。保育士が特性を活かす主な児童福祉施設についてや具体的な支援のあり方を学び、実践につなげます。			
授業科目の目的	現代社会では、子どもや家庭を取り巻く環境は複雑です。保育者として子どもたちのおかれている環境を理解するとともに、子育て支援・子どもの貧困への取り組みなどを学び、保育士として必要な基本的知識の理解を深めます。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解することができるようにします。</li> <li>2. 子どもの人権擁護について理解することができるようにします。</li> <li>3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解することができるようにします。</li> <li>4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解します。</li> <li>5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解することができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	子ども家庭福祉専門職のための子育て支援入門／才村純・芝野松次郎・新川泰弘・宮野安治著／ミネルヴァ書房			
参考書	新・基本保育シリーズ 子ども家庭福祉／新保幸男・小林理編集／中央法規			
成績評価基準	定期試験（60％）、提出物（25％）、講義への参加の態度等（15％）により総合的に評価します。			
受講の心構えとセー	<p>子ども家庭福祉は、保育者になる皆さんが、子どもたちのおかれている環境を理解し、子ども家庭福祉に寄与できることを目的に学習を進めます。そのためには、日ごろから子どもを取り巻くニュースなどに関心を持つことが必要です。テレビや新聞などから、現在の子どもたちに関するニュース情報を集め、どのような施策や支援が必要かを考える習慣を身につけてほしいと思います。</p> <p>また、授業の予習復習のほかに、日常で子ども家庭福祉に関心を持つよう心掛けてください。</p>			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	<現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷> 子ども家庭福祉の理念と概念
2 回	<子ども家庭福祉の歴史の変遷> 現代社会と子ども家庭福祉
3 回	<子どもの人権擁護> 児童の権利に関する条約の理解
4 回	<子ども家庭福祉の制度と実施体系> 子どもの福祉に関する法律
5 回	<子ども家庭福祉の専門職> 児童福祉施設の種類
6 回	<子ども家庭福祉の現状と課題> 少子化と地域子育て支援
7 回	<母子保健と児童の健全育成> 母子保健の意義
8 回	<多様な保育ニーズへの対応> 多様な保育ニーズに対応するためのしくみ
9 回	<児童虐待・ドメスティックバイオレンスの防止> 児童虐待・ドメスティックバイオレンスについて
10 回	<社会的養護> 社会的養護とは
11 回	<障害のある子どもへの対応> 障害児の福祉
12 回	<少年非行等への対応> 少年非行の状況
13 回	<貧困・外国籍の子どもとその家庭への支援等> 貧困の現状
14 回	<次世代育成支援と子どもの家庭福祉の推進> 次世代育成支援としての子ども家庭福祉
15 回	<地域における連携・協働とネットワーク> 保育の実践場面における「連携・協働」
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
社会福祉論		1年・後期	講義	30時間 (2単位)	室谷雅美
実務経験の概要					
授業概要	2000(平成12)年には社会福祉事業法が改正(社会福祉法)、介護保険制度もスタートし、その後、障害者自立支援法(現:障害者総合支援法)の施行、次世代育成支援対策、高齢者医療保険改革など、我が国の社会福祉制度は大きな変革を辿っています。このような現状において社会福祉の意義や理念、法体系などの全体像が把握できるよう、近年の社会状況を踏まえながら講義を進めていきます。				
授業科目の目的	一人ひとりの幸せを目指す社会福祉政策、生活の質およびフィールドにおける実践の内実は、決して十分とは言えませんが、私たちは社会福祉の実現を目指していく努力を惜しんではならないと考えます。このような視点に立って、現代社会における社会福祉の意義、理念、そして、社会福祉の制度、法体系および行財政の要旨などについて理解をします。そして、多様化する福祉ニーズに対する専門職としての役割や援助方法について学びます。				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会福祉の意義、歴史の変遷を理解することができるようになります。</li> <li>2. 社会福祉の法体系、制度及び行財政の要旨を理解することができるようになります。</li> <li>3. 社会福祉における公私の役割を理解することができるようになります。</li> <li>4. 相談援助方法及び福祉専門職の役割を理解することができるようになります。</li> <li>5. 社会福祉関連領域の概要を把握できるようになります。</li> <li>6. 利用者保護の制度、活動を理解できるようになります。</li> </ol>				
テキスト	社会福祉/新川泰弘・宮野安治著/青踏社/2019年 福祉小六法/社会福祉法人大阪ボランティア協会編集/中央法規				
参考書	新・基本保育シリーズ 社会福祉/松原康雄・坪 洋一・金子 充編集/中央法規/2019年				
成績評価基準	定期試験(60%)、提出物(25%)、講義への参加の態度等(15%)により総合的に評価します。				
受講の心構えとセージ	社会福祉は、人間が幸せに暮らすための学習でもあります。児童家庭福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など多岐にわたっての学習になります。また、法令や制度の学習もあり、情報量が多くなりますが、ひとりひとりの生活を豊かにする「福祉」という考えを深めていけるよう、日ごろから予習・復習に努め、理解を深めましょう。				
その他					

## 授業内容進行表

1 回	〈現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷〉 社会福祉の理念と概念
2 回	〈子ども家庭支援と社会福祉〉 子ども家庭支援の必要性
3 回	〈社会福祉の制度と実施体系〉 社会福祉の制度と法体系
4 回	〈社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等〉 社会福祉施設とは
5 回	〈社会福祉の専門職〉 社会福祉に関する資格の種類
6 回	〈社会福祉の法律〉 社会福祉法、福祉六法、関連した法律について
7 回	〈社会保障および関連制度の概要〉 社会保障制度とは
8 回	〈相談援助の理論〉 相談援助理論の特徴
9 回	〈相談援助の意義と機能〉 相談援助の特徴
10 回	〈相談援助の対象と過程〉 保育における相談援助
11 回	〈社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ〉 情報提供と第三者評価
12 回	〈少子高齢化社会における子育て支援〉 少子化の現状
13 回	〈共生社会の実現と障害者施策〉 障がい者福祉の制度および概要について
14 回	〈在宅福祉・地域福祉の推進〉 社会福祉の概念
15 回	〈諸外国の動向〉 社会福祉と福祉国家
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもの発達と家庭支援		1年・後期	講義	30時間 (2単位)	室 谷 雅 美
実務経験の概要					
授業概要	生涯発達と心理、家族・家庭の意義や役割、子育て家庭を取り巻く状況や構成員のライフコース、多様な家庭の理解、子どもの精神保健についての学びを深めます。生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性や発達課題等について学びます。家族・家庭の意義や機能を把握するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得します。子育て家庭を取り巻く社会的状況と課題についても学びます。				
授業科目の目的	<p>子どもの発達、学びの過程や特性に関する内容を体系的に理解させるとともに、子どもと家庭に関して包括的に理解させることを目的とします。また、各発達段階においての特徴を知り、それぞれの時期に必要な保育者とのかわりについて理解を深めることを目的とします。</p> <p>さらに、家族や家庭の概念、意義と機能について学び、家族・家庭の理解や子育て家庭に関する現状と課題を理解することを目的とします。</p>				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解することができるようにします。</li> <li>2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得することができるようにします。</li> <li>3. 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解することができるようにします。</li> <li>4. 子どもの精神保健とその課題について理解することができるようにします。</li> </ol>				
テキスト	新・基本保育シリーズ 子ども家庭支援の心理学／白川佳子・福丸由佳編集／中央法規				
参考書	授業内で紹介します。				
成績評価基準	定期試験（60％）、課題・小テスト（30％）、授業態度（10％）により総合的に評価します。				
受講の心構えとメッセージ	生涯発達の観点から発達のプロセスや初期発達の重要性について理解し、保育との関連性について考え、子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題について理解を深めましょう。子育て家庭に関する現状と課題を把握し、子育てを取り巻く社会的状況と課題について理解を深めます。授業の予習復習のほかに、日常でも子育てを取り巻くニュース等に関心を持つよう心掛けましょう。				
その他					

## 授業内容進行表

1 回	<乳児期の発達> 新生児から乳児期にかけての発達
2 回	<乳児期の発達> 幼児期の発達段階における基本的な発達の特徴
3 回	<学童期の発達> 学童期の発達を学ぶ意義
4 回	<青年期の発達> 青年期の発達のな変化
5 回	<成人期・中年期の発達> 成人期・中年期とは
6 回	<高齢期の発達> 生涯発達における高齢期とは
7 回	<家族・家庭の理解> 家族・家庭の意義と機能
8 回	<親子関係・家族関係の理解> 家族のライフサイクル
9 回	<子育ての経験と親としての育ち> 子どもをもつことについての意義
10 回	<子育てを取り巻く社会的状況> 子ども・子育て支援新制度
11 回	<ライフコースと仕事・子育て> ライフコースとは
12 回	<多様な家庭とその理解> 子どもと家庭を取り巻くさまざまな課題
13 回	<子育て家庭に関する現状と課題> 特別な配慮を要する家庭
14 回	<子どもの生活・生育環境とその影響> 子どもの育ちの基本
15 回	<子どもの精神保健> 子どもの心の健康に関わる問題
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
人間関係論	1年・後期	講義	15時間 (1単位)	原田敬文
実務経験の概要				
授業概要	領域「人間関係」の考え方について理解を深め、人間関係の成立と展開に関する発達心理学的基盤について理解する。保育実践において、人間関係を育む際の保育者の役割について理解し、こどもの発達に応じた保育のあり方を考える。			
授業科目の目的	現代のこどもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児（保育）教育で保証すべき教育内容に関する知識を身につける。こどもを取り巻く他者との関係、集団との関係から、こどもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関わりを通じて育つことを理解する。			
学習成果	1. 領域「人間関係」の基礎理論を理解し、関係発達論的な視点から論じることができるようにします。 2. こどもを取り巻く環境の変化について理解し、こどもが人間関係をつむぎながら成長する過程を理解することができるようにします。			
テキスト	人間関係論／豊岡短期大学			
参考書	「幼稚園教育要領解説」（最新版）／フレーベル館 「保育所保育指針解説」（最新版）／フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）／フレーベル館			
成績評価基準	定期試験（60%）、レポート（25%）、講義への参加の態度等（15%）により総合的に評価します。			
受講の心構えとセージ	こどもの人間関係を学ぶには、常日頃から、こどもの様子を観察する必要があります。その、観察によって得た事例をもとに、学習を進めることが有意義です。実習でのこどもの様子、身近にいるこどもの様子を記録しておくことをおすすめします。 授業では、毎回予習、復習に心がけてください。			
その事項	授業で配布する資料は、各自ファイルに綴じておくこと。			



## 授業内容進行表

1 回	領域「人間関係」 ねらいと内容 領域の相補性（保育活動の総合性とは）
2 回	人間関係と取り巻く社会環境① 少子高齢化 家族の変化
3 回	人間関係と取り巻く社会環境② 身近な環境の変容 メディアの変化
4 回	人間関係をつむぐこどもの発達 規範意識と道徳性の芽生え（育ち） ルール、決まり事の意味と意義
5 回	人間関係をつむぐこどもの発達 自立心、協同性の芽生え（育ち） 自己発揮と自己抑制の芽生え（育ち）
6 回	人間関係とこどもの遊び 遊びの中で育つ乳児の人間関係 遊びの中で育つ幼児の人間関係
7 回	人間関係とこどもの生活 家庭とのかかわりとこどもの発達 地域とのかかわりとこどもの発達
8 回	今日的な人間関係の課題（多様な文化のこどもと気に留めたいこども）
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
音楽表現論	1年・前期	講義	15時間 (1単位)	茨木金吾
実務経験の概要				
授業概要	<p>感性と表現に関する領域「表現」における音楽表現に視点を置き、子どもが遊びや生活の中で、子どもの素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる保育者としての感性を養います。また、子どもが表現する事の楽しさを生み出す過程を理解し、子どもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むための具体的指導法の習得と音楽的技能を身に付けます。さらには家庭及び小学校以降の学びへの接続を理解し、その具体的な方法を習得します。</p>			
授業科目の目的	<p>感性と表現に関する領域「表現」を理解し、子どもの音楽表現の姿やその発達を促す要因、子どもの音楽的感性や創造性をゆたかにする様々な音楽表現遊びや環境構成など、音楽表現指導に関する専門的知識・技能・表現力を身に付けることを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感性と表現に関する領域「表現」のねらいと内容、その取扱いを理解することができるようにします。</li> <li>2. 音楽表現に必要な音楽要素を理解することにより、子どもの表現活動を援助するための実践力を身に付けることができるようにします。</li> <li>3. ポートフォリオなどによる音楽表現の可視化と指導案の立案を通して、現場に求められる実践力を身に付けることができるようにします。</li> <li>4. 音楽表現活動及び小学校教科「音楽」への繋がりなど繋がり的重要性を理解することができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	<p>音楽表現論／豊岡短期大学音楽担当教員／豊岡短期大学  幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館  幼稚園教育要領解説／文部科学省、フレーベル館  保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館  保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館  幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>			
参考書	<p>対話から生まれる乳幼児の学びの物語／大豆生田啓友編著／Gakken  こどものうた「簡易伴奏曲付き」／田中常雄監修 平島美穂、木村鈴代、小杉裕子編著／圭文社  かんたんメソッド「コードで弾きうたい」／細田淳子、笹井邦彦、西海聡子、悠木昭宏著／カワイ出版  手あそび百科／植田光子編著／ひかりのくに株式会社</p>			
成績評価基準	<p>授業態度 (10%)、定期試験 (50%)、実践課題の内容 (40%) により、総合的に数量化して評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>この「音楽表現論」で展開する授業内容は感性と表現に関する領域「表現」として、保育者を目指す皆さんにとって身に付けなければならない大変重要なものです。ただ、7.5コマというあまりにも少ない時間内でそれらを十分に理解するためには授業外での復習と予習が重要となります。使用するテキスト及び参考書を有効に活用し、復習と予習（自主練習、自主学習）を怠らないでください。</p>			
その他	<p>各自、五線ノートとプリント保管用ファイル（クリアファイルノートなど）を用意してください。</p>			

## 授業内容進行表

1 回	<p>&lt;感性と表現に関する領域「表現」について、その概要&gt;            領域「表現」の理解と音楽表現における乳幼児の発達過程・音楽表現の基礎知識            音楽表現に必要な音楽要素の理解と乳幼児の発達に伴う声域についての理解</p>
2 回	<p>&lt;音と表現、音と音階&gt;            「自然が生み出す音」「目で見える世界に存在する音」を取り入れ、表現する過程の理解            イメージを表現する為の音や音階の理解</p>
3 回	<p>&lt;こどもの歌（童謡など）、音符と休符&gt;            日本のこどもの歌と歴史的背景の理解            時代を象徴している童謡などについて、音符や休符に視点を置いた分析</p>
4 回	<p>&lt;5領域の関連を考慮した音環境、拍とリズム&gt;            領域「表現」と他の領域との関連を考慮した音環境の理解            身体及び言葉の中のリズム、生き物に見られる拍とリズムの理解と実践</p>
5 回	<p>&lt;豊かな表現を引き出す援助、幼児用楽器&gt;            保育実践における豊かな表現を引き出す援助のあり方についての理解            幼児用楽器の取扱いと正しい演奏法の理解と実践</p>
6 回	<p>&lt;指導案の理解と立案、和音（コード）&gt;            部分指導案「身近な音をみつけて遊ぼう」の理解と立案            身近な自然や身の周りの音を様々な和音（コード）で表現する方法と実践</p>
7 回	<p>&lt;音楽表現及び保育の可視化、和音（コード）による音楽表現&gt;            乳幼児の音楽表現を可視化するための手法と理解            ポートフォリオなどを活用した保育の可視化と保育現場に応じた音楽を和音（コード）で表現</p>
8 回	<p>&lt;音楽表現活動及び小学校教科「音楽」への繋がり、器楽演奏&gt;            家庭と園生活における乳幼児の音楽表現活動の繋がり及び小学校に繋がる学びの理解とまとめ            園行事等での器楽演奏を表現豊かなものにするための理解と実践</p>
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
<p>【定期試験】 (有) ・ 無</p>	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
表現とこどもの運動		1年・前期	演習	15時間 (1単位)	今 野 賛
実務経験の概要					
授業概要	こどもの表現活動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊びや運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びや運動が展開できる知識及び実践力を理論的に深めます。				
授業科目の目的	本授業では、子どもたちが自分の思いや考えを他者に伝えることができるための様々な表現ができる環境設定が大切であることを理解します。また、年齢や環境に応じた動きや運動遊びと身体表現を通して子ども同士がどう工夫し、表現し、仲間とよりよくなかかわっていくことができるかを、発達段階に応じて展開させることを学びます。さらに、子どもたちが楽しく表現することができる安全面の配慮についても認識を深めます。				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどもの表現活動における援助者の役割について理解し、人的環境について説明するとともに、身体表現遊びや運動の留意点について理解することができるようにします。</li> <li>2. 日常におけるこどもを取り巻く生活環境が大きく関係し、表現活動が豊かな感性に関連していることを理解するとともに、表現遊びや表現運動が5つの領域に相互に関わり成り立っていることを理解することができるようにします。</li> <li>3. 子ども同士での運動遊びにおける表現や心身の健康など、援助者として発達段階に応じた援助の在り方を理解することができるようにします。</li> </ol>				
テキスト	表現とこどもの運動／豊岡短期大学				
参考書	幼稚園教育要領解説／フレーベル館 保育所保育指針解説／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／フレーベル館				
成績評価基準	授業態度20%、小レポート30%、定期試験50%により総合的に評価します。 その評価基準は、以下のようになります。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーや周りへの配慮ができていますか。</li> <li>2. 小レポートでは課題について丁寧に記述でき、内容とともに自分の考えを述べられているか。</li> <li>3. 定期試験では、指導者として運動遊びの知識を習得・理解できているか。</li> </ol>				
受講の心構えとメッセージ	この演習は参加し、実践を通じた授業を受けてこそ意味があります。見学・欠席が無いように日頃の健康管理をしてください。予習・復習として、授業外で家族や近隣の幼児と接し、表現とこどもの運動の課題を探る意識をもつことを望みます。				
その他事項					

## 授業内容進行表

1 回	こどもを取り巻く環境の変化について こどもを対象とした運動遊びのねらい
2 回	こどもの発達と運動について 心身の発育発達と運動の意義
3 回	運動遊びの基本的な動き 基本動作と調整力
4 回	身体コントロール能力の向上 調整力を高める運動遊びや体づくり運動
5 回	こどもの表現運動Ⅰ こどもの身体表現の教育的意義
6 回	こどもの表現運動Ⅱ 身体表現運動のねらいと指導上の留意点
7 回	表現運動の実践 年齢別発達における表現遊びや運動
8 回	表現運動における安全指導 安全管理について
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと体育	1年・後期	演習	30時間 (1単位)	今野 賛
実務経験の概要				
授業概要	こどもたちにとっての運動遊びの必要性を発育発達の面から理解しながら、安全に楽しく運動遊びを展開するための指導方法と援助の仕方を学びます。グループごとに様々な運動遊びを考案し、発表を通して指導方法を学ぶとともに保育者として必要な運動遊びを習得します。			
授業科目の目的	こどもの運動遊びは、第一に楽しくなければなりません。訓練的にならずに、こどもたちが主体的に取り組み、多くの動きが体験できるような環境構成ができることが大切です。この演習で多くの運動遊びの指導法を具体的に習得し、年齢や環境に応じてこどもたちに指導ができ、こどもの発育・発達に即した運動遊びの指導法を身につけることを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動遊び(グループ遊び・競争遊び・素材を使った遊び・用具器具を使った遊び)などを考え、グループで考案した運動遊びの指導ができるようにします。</li> <li>2. こどもにとって望ましい活動や運動遊びを引き出すために、遊具の安全性についての認識を深め、こどもたちが安全に遊べる指導や環境づくりができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	こどもと体育Ⅰ／長谷川定宣／豊岡短期大学			
参考書				
成績評価基準	<p>授業態度20%、小レポート30%、定期試験50%により総合的に評価します。その評価基準は、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーや周りへの配慮ができているか。</li> <li>2. 小レポートでは課題について丁寧に記述でき、内容とともに自分の考えを述べられているか。</li> <li>3. 定期試験では、指導者として運動遊びの知識を習得・理解できているか。</li> </ol>			
受講の心構えとメッセージ	この演習は参加し、実践を通じた授業を受けてこそ意味があります。見学・欠席が無いように日頃の健康管理をしてください。予習・復習として、授業外で家族や近隣の幼児と接し、こどもと体育の課題を探る意識をもつことを望みます。			
その他事項	演習のできる服装で参加し、授業を通して指導者(保育士)の心構えを身につけましょう。			

## 授業内容進行表

1 回	こどもの運動遊びについて こどもにとっての運動遊びの必要性について
2 回	こどもの発育発達と運動 こどもの発育発達における運動の意義
3 回	こどもの運動遊びの環境と言葉かけ こどもが意欲的に運動遊びに取り組むための環境と言葉かけ
4 回	安全な運動遊びの環境づくり 安全面に配慮した環境構成の在り方について考える
5 回	発達段階に応じた運動遊びを考える 1歳から5歳児までのグループでの遊びを考え・発表しよう
6 回	発達段階に応じた運動遊びを発表する 1歳から5歳児までの競争遊びを考え・発表しよう
7 回	操作性遊具を使った遊びを考える ボール・縄・フープ・竹馬などを使って発育発達にあった運動遊びを考える
8 回	操作性遊具を使った遊びを発表する ボール・縄・フープ・竹馬などを使って発育発達にあった運動遊びを考え・発表・体験しよう
9 回	身近な素材を使った遊びを考える 新聞紙を使って遊ぼう
10 回	身近な素材を使った遊びを発表する 新聞紙を使った遊びを発表しよう
11 回	こどもの体操を考える リズム体操・こどもの体操・親子体操を創作しよう
12 回	こどもの体操を発表する リズム体操・こどもの体操・親子体操を発表しよう
13 回	器具を使った遊びを考える マット運動遊びの基本を学ぼう
14 回	器具を使った遊びを発表する マット・跳び箱運動遊びの基本を学ぼう
15 回	振り返りとまとめ グループ発表の振り返りと授業のまとめ
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
言葉とこどもの文化		1年・後期	講義	15時間 (1単位)	和田典子
実務経験の概要					
授業概要	言葉の機能を理解し、絵本・紙芝居・おはなし・ことば遊び等、子どもの言葉を育む言語教材である児童文化財への専門的知識を深めると共に、児童文化財の研究をとおして、その利用の仕方について理解します。さらに学童期へ繋がる言葉について理解を深めます。また、グローバル時代を生きていく子どもたちに日本の伝統文化の豊かさを伝え、日本語の美しさや豊かさを育む感性を、文化財を通して養います。外国との文化の違いを理解し、その違いを共に楽しめる保育のあり方を考えます。				
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針の「言葉」の内容を踏まえた上で、児童文化財が子どもの言葉の習得にどのように役立つのかを理解します。</li> <li>2. 保育の現場で使用される絵本、紙芝居、おはなし、ことば遊び等の児童文化財の特質にあった活用法を学びます。</li> <li>3. 日本独自の文化やその文化を育んできた日本語の美しさや豊かさを知り、保育に活用できる方法を学びます。</li> <li>4. 日本の文化を知ると共に、外国の文化との違いが、子どもの生活にどう影響しているかに気づき、言葉の発達に遅れがある子どもも共に楽しめる環境を整えられる工夫を考えます。</li> </ol>				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針における「言葉」の内容が理解でき、ことばを育む児童文化財について説明することができるようにします。</li> <li>2. ことばを育む文化財を使った指導法及び指導案の作成することができるようにします。</li> <li>3. 児童文化財の特色と扱いを知り、保育に生かせるようにします。</li> <li>4. 日本の伝統文化と外国の文化の違いなどを知り、国際的な視野を持って保育活動することができるようにします。</li> </ol>				
テキスト	ことばと表現力を育む児童文化／川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子 編／萌林書林／2,000円＋税 保育所保育指針（最新版）／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説書（最新版）／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼稚園教育要領（最新版）／文部科学省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説（最新版）／文部科学省／フレーベル館				
参考書	絵本の事典／中川素子 他編集／朝倉書店 昔話入門／小澤俊夫／ぎょうせい 絵本を読む 新装版／松居直／日本エディタースクール出版部 保育における子ども文化／松本峰雄編著／わかば社 新訂事例で学ぶ保育内容 領域言葉／無藤隆監修、宮里暁美編／萌文書林 演習 児童文化／保育内容としての実践と展開／小川清美／萌文書林				
成績評価	定期試験60%、授業・課題、提出物に取り組む姿勢20%、課題・提出物20%で総合的に評価します。				
受講の心構えとメッセージ	日本の児童文化は、非常に豊かな児童文化財を持っています。それらは、日本語という独特の美しく繊細な言語によって育まれてきました。その伝統の豊かさ、美しさを知り、グローバル時代を生きる子ども達の言語を豊かに育むことが出来るように、保育者自身が感性を磨き、子どもとの関わりの中で使っていきましょう。聞くこと、共に楽しむことによって、子どもは言葉を獲得していきます。児童文化財を通して、子どもの言葉を引き出す方法を考えていきましょう。まず、あなたたちが楽しむこと、ワクワクすることが大切です。積極的な授業参加を望みます。				
その他					



## 授業内容進行表

1 回	<p>&lt;ことばの機能と言葉の発達&gt; 人間とことば、幼児とことば 乳幼児期のことばの発達と保育者の役割</p>
2 回	<p>&lt;領域〈言葉〉のねらい及び内容&gt; 幼稚園教育要領、保育所保育指針における「言葉」の目的と内容 児童文化財とは。児童文化財を使った指導案の作成法</p>
3 回	<p>&lt;ことばを育てる児童文化財①&gt; わらべ唄、唱え歌 想像力と絵本</p>
4 回	<p>&lt;ことばを育てる児童文化財②&gt; ごっこ遊び、劇あそび 紙芝居の歴史と扱い、実演</p>
5 回	<p>&lt;ことばを育てる児童文化財③&gt; ペープサート DVD 視聴 シアター (パネルシアター・エプロンシアターなど)</p>
6 回	<p>&lt;ことばを育てる児童文化財④&gt; ことばに対する感覚を養う児童文化財 文字と音韻、ことばあそび</p>
7 回	<p>&lt;小学校国語につながる言葉の力&gt; おはなし、文字環境と小学校国語につながる教材 日本語の美しさと伝統の豊かさを楽しむ感性と文化</p>
8 回	<p>&lt;グローバル時代における子どもの文化、共に楽しむ意識&gt; グローバル時代を生きる子どもと多文化共生 言語に遅れがみられる子どもと共に楽しむ意識と方法 学習のまとめと振り返り</p>
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
<p>【定期試験】 (有) ・ 無</p>	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
保 育 原 理		1 年・前期	講義	30時間 (2 単位)	國 光 みどり
実務経験の概要		・國光……幼稚園に14年、幼保連携型認定こども園に2年勤務した実務経験があります。 その間、クラス持ち主任(2年)、専任の副園長(4年)、園長(2年)に従事。			
授業概要	「保育とは?」「子どもとは?」「保育士とは?」という問いかけに皆さんはどのように答えますか。誰もが子ども時代を過ごしましたが、今すぐにこれらについて論じることは難しいでしょう。これからの学習によって、専門的知識・技術として「保育」について学びます。この科目は「原理」という名称になっており、保育に関する基礎的な事柄を学習します。				
授業科目の目的	保育原理では、保育・教育に携わる者に求められる保育に関する基本的な知識を学び、保育者としての視点を養い、保育・幼児教育の根幹をなす原理を追究します。現代の子どもを取り巻く状況や課題について考察し、子どもや保護者と向き合い、乳幼児の特性に応じた保育を実践する基礎的な力を培うことを目的とします。				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の意義及び目的について理解することができるようにします。</li> <li>2. 保育所に関する法令及び制度を理解することができるようにします。</li> <li>3. 保育所保育指針における保育の基本について理解することができるようにします。</li> <li>4. 保育の思想と歴史の変遷について理解することができるようにします。</li> <li>5. 保育の現状と課題について理解することができるようにします。</li> </ol>				
テキスト	保育者養成シリーズ「新版 保育原理」/石橋哲成(編著)/一藝社				
参考書	保育所保育指針解説/厚生労働省/フレーベル館 幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーベル館				
成績評価基準	定期試験60%、授業態度・グループワークへの貢献度20%、課題レポート20%で総合的に評価します。				
受講の心構えとメッセージ	保育者は乳幼児や家庭を支える貴重な役割を担っています。保育原理は、保育者としての資質を身につける基礎となりますので、確実に学習内容を習得しましょう。日本の保育の制度は大きな転換期にあります。新聞やニュースを通して、社会の中で求められる保育のニーズについて自ら学ぶ姿勢を持ち、考察し、積極的に学んでいきましょう。 15回の授業で学習する内容は多くあります。復習によって学習内容を定着させましょう。 前期の授業が終わるときには、「保育とは」について述べるできるようになりましょう。				
その他					

## 授業内容進行表

1 回	<保育とは何か 1> 保育の意義と目的
2 回	<保育とは何か 2> (1)子どもの最善の利益を考慮した保育 (2)生活と遊びを通じた保育
3 回	<保育とは何か 3> (1)保育の社会的意義 (2)子ども家庭福祉と保育
4 回	<保育所保育指針における保育の基本 1> (1)保育の目標と内容 (2)養護と教育の一体性
5 回	<保育所保育指針における保育の基本 2> (1)環境による保育 (2)発達過程に応じた保育
6 回	<保育所保育指針における保育の基本 3> (1)子どもの健康と安全と保育計画 (2)計画・実践・記録・省察・改善の循環
7 回	<保育に関する法令及び制度 1> 子ども家庭福祉の法体系における保育の位置づけと関係法令
8 回	<保育に関する法令及び制度 2> 子ども・子育て支援新制度
9 回	<保育に関する法令及び制度 3> (1)保育の実施体系 (2)認定こども園について
10 回	<保育の思想と歴史的変遷 1> 欧米の保育思想の展開と保育施設の発展
11 回	<保育の思想と歴史的変遷 2> わが国における保育の歴史的変遷
12 回	<保護者との連携> (1)保護者との関係性 (2)保護者に対する支援 (3)連携の方法
13 回	<保育における個と集団> 個別の配慮と集団への配慮と具体的な方法
14 回	<生きる力を作り出す保育> (1)生きる力とは何か (2)生きる力を培う保育の内容
15 回	<保育の現状と課題> (1)諸外国の保育の現状と課題 (2)日本の保育の現状と課題
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
社会的養護 I	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	室谷雅美
実務経験の概要				
授業概要	社会的養護の基本と、里親など家庭養護と児童養護施設など施設養護の概要を知り、社会的養護に関する理論、歴史、政策、原理(原則)等について修得することを目的として学習します。そして、その中で保育士として身につけておかなければならない「子どもの権利擁護」の為に必要な視点・姿勢・専門知識について深く理解します。児童福祉施設での日常的な子どもとのかかわり・自立支援・子ども家庭サービスのあり方等についても学習します。			
授業科目の目的	まず、社会的養護の概念と基本的な理念について学びます。子どもとその家庭の理解を踏まえ、理念や制度等の基礎的事項と援助に当たり必要となる実践力を効果的に習得します。また、現場で働く専門職や実施者の業務内容、求められる専門性についても学ぶことを目的としています。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解することができるようになります。</li> <li>2. 児童の権利擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解することができるようになります。</li> <li>3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解することができるようになります。</li> <li>4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解することができるようになります。</li> <li>5. 社会的養護の現状と課題について理解します。</li> </ol>			
テキスト	新・基本保育シリーズ 社会的養護 I / 新保幸男・小林理編集 / 中央法規 / 2019年			
参考書	図解で学ぶ保育 社会的養護 I / 原田旬哉・杉山宗尚編著 谷俊英・藪一裕・太田敬志著 / 萌文書林 / 2018年			
成績評価基準	定期試験(60%)、提出物(25%)、講義への参加の態度等(15%)により総合的に評価します。			
受講の心構えとセージ	現代社会では、児童虐待など子どもに関わる問題が深刻化され、それに伴い、児童福祉施設や里親など社会的養護のもとで生活する子どもたちが増えています。社会的養護で暮らす子どもたち背景を知ること大切であり、日々の社会の変化にも敏感であって欲しいです。そのためには、ニュースや本などから情報を得ることも大事なことです。			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	〈現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷〉 社会的養護の理念と概念
2 回	〈社会的養護の歴史の変遷〉 諸外国における社会的養護の歩み
3 回	〈子どもの人権擁護と社会的養護〉 子どもが家庭で育つ権利保障
4 回	〈社会的養護の基本原則〉 児童福祉法の改正
5 回	〈社会的養護における保育士等の倫理と責務〉 倫理とは
6 回	〈社会的養護の制度と法体系〉 社会的養護の制度の根幹
7 回	〈社会的養護のしくみと実施体系〉 社会的養護の基本的しくみ
8 回	〈社会的養護とファミリーソーシャルワーク〉 ソーシャルワークの定義
9 回	〈社会的養護の対象と支援のあり方〉 社会的養護の対象となる子どもや家庭について
10 回	〈家庭養護と施設養護〉 家庭養護の要件
11 回	〈社会的養護に関わる専門職〉 社会的養護の施設に設置すべき職員の種類
12 回	〈社会的養護に関する社会的状況〉 現代社会における養護問題
13 回	〈施設等の運営管理の現状と課題〉 施設等の運営管理
14 回	〈被措置児童等の虐待防止の現状と課題〉 被措置児童等虐待とは
15 回	〈社会的養護と地域福祉の現状と課題〉 社会的養護関係の施設と地域とのかかわり
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
障 害 児 保 育		1 年・前期	演習	30時間 (2 単位)	稲 田 達 也
実務経験の概要					
授 業 概 要	近年、保育の現場では、発達への支援を必要とする子どもたちに対応する力が求められています。保育者は、様々な障害の特性と、子どもたちの個性に応じた「可能性」を引き出す関わり方について深く理解することが必要です。発達の遅れや障害の実態は、個々のケースによって多様です。それぞれの障害について学んだことを基礎として、応用力を持って一人ひとりに対応していく力を習得していきます。				
授 業 科 目 の 目 的	障害児保育を支える理念や歴史の変遷を踏まえ、発達の遅れや障害のある子どもに対する理解を深めます。さらに基本的な療育の実際、家庭への支援、関係機関との連携について、具体的に考察し習得することを目的とします。				
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害児その他の配慮を要する子どもの特性を理解し、具体的な援助や保育における計画の作成が理解することができるようにします。</li> <li>2. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解することができるようにします。</li> <li>3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解することができるようにします。</li> </ol>				
テ キ ス ト	保育者養成シリーズ「新版 障害児保育」／青木豊・藤田久美（編著）／一藝社				
参 考 書	保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館				
成 績 評 価 基 準	定期試験60%、授業態度・グループワークへの貢献度20%、課題レポート20%で総合的に評価します。				
メ 受 講 の セ ー 心 構 え と ジ	<p>保育者による障害のある子どもへの適切な対応は、その子どもの生涯の生活をより良いものにしていきます。さらに特別な支援を必要とする子どもへの適切な保育は、他の子どもにとっても質の高い保育となります。</p> <p>また、新聞やニュースを通して、障害児をとりまく社会環境の実態や変化に自ら関心を持つことも必要です。演習やグループワークも含めて、主体的に学び取る姿勢を持ち、予習・復習により学び深めてください。</p>				
の 其 他 項					

## 授業内容進行表

1 回	<障害の概念> 「障害」の概念と障害児保育の歴史の変遷
2 回	<障害児保育の基本> 障害のある子どもの地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解と障害児保育の基本
3 回	<肢体不自由児の理解と援助> 肢体不自由児の特性と必要な援助
4 回	<知的障害児の理解と援助> 知的障害児の特性と必要な援助
5 回	<視覚障害児の理解と援助> 視覚障害児の特性と必要な援助
6 回	<聴覚障害・言語障害児等の理解と援助> 聴覚障害・言語障害児等の特性と必要な援助
7 回	<発達障害児の理解と援助①> PDD - 広汎性発達障害等の特性と必要な援助
8 回	<発達障害児の理解と援助②> ADHD - 注意欠陥多動性障害、LD - 学習障害等の特性と必要な援助
9 回	<重症心身障害児、医療的ケア児の理解と援助> 重症心身障害児、医療的ケア児の特性と必要な支援
10 回	<その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助> 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題
11 回	<計画に基づいた支援> 個別の指導計画及び個別の支援計画の作成
12 回	<保育の場における障害児への対応> 個々の発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士の育ちあい、健康と安全
13 回	<保護者や家族に対する理解と支援> 保護者・兄弟等への支援と、保護者間の交流
14 回	<障害児支援の制度と関係機関の連携・協働> 障害児支援の制度の理解と地域の関係機関、保健・医療との連携・協働
15 回	<支援の場の広がり> 職員間の連携と、小学校その他との協働
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
相 談 援 助		2 年・後期	演習	15時間 (1 単位)	室 谷 雅 美
実務経験の概要					
授 業 概 要	「相談援助（ソーシャルワーク）」は、社会福祉援助の方法（ケースワーク・グループワーク・コミュニティワークなど）に基づいて、クライアント（生活上の困難を抱えている人）の抱えている生活困難に対処するための専門的な援助技術である。本科目では、その基本的知識および技術を講義します。				
授 業 科 目 の 目 的	次の3点で、目指すべき保育士像に近づくことを目的とします。 1. ソーシャルワークを行う観点から保育士の意義を理解することで使命感や倫理観を高めます。 2. ソーシャルワークに関する学習を通して人間力を育みます。 3. ソーシャルワーカーとしての保育実践の基礎を培います。				
学 習 成 果	1. 相談援助の概要について理解することができるようにします。 2. 相談援助の方法と技術について理解することができるようにします。 3. 相談援助の具体的展開についてすることができるようにします。 4. 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象 への理解を深めるようにします。 5. 保育士として必要なソーシャルワークの理論と方法が理解することができるようにします。 6. ソーシャルワークの技術を習得することができるようにします。				
テ キ ス ト	随時プリントを配付します。				
参 考 書	保育実践を高める相談援助・相談支援／西尾祐吾監修、立花直樹・安田誠人・波田埜英治編／晃洋書房／2017年				
成 績 評 価 基 準	定期試験（60％）、提出物（25％）、講義への参加の態度等（15％）により総合的に評価します。				
メ 受 講 の セ ー ジ ー の 心 構 え と	相談援助は、クライアント（生活上の困難を抱えている人）の抱えている生活困難に対処するための専門的な援助技術です。生活上の困難をどのように解決していくのか、また、どのように支援するべきかについては、援助資源を理解しておく必要があります。授業での予習・復習はもとより、日常から問題意識をもってください。そのうえで、援助計画を立て、スーパービジョンを受けることで、援助技術は高まります。少しでも、世の中を明るくできるよう、知識を蓄え、援助技術を高めましょう。				
の 其 他 項					



## 授業内容進行表

1 回	<p>〈相談援助の概要〉 ソーシャルワークの誕生と展開、ソーシャルワークの理論・機能・意義・専門性、ソーシャルワークを行う前に…</p>
2 回	<p>〈相談援助の方法・技術1〉 直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術、ジェネラリスト・ソーシャルワーク</p>
3 回	<p>〈相談援助の方法と技術2〉 ソーシャルワークが必要とされる背景、保育が行われる場とソーシャルワーク</p>
4 回	<p>〈面接技法〉 コミュニケーションの本質、バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション</p>
5 回	<p>〈相談援助における対象・プロセス〉 ソーシャルワークの対象、ソーシャルワークの展開過程</p>
6 回	<p>〈スーパービジョン〉 スーパービジョンの機能、スーパービジョンの形態</p>
7 回	<p>〈相談援助における詳説〉 計画・記録・評価、関係機関との連携</p>
8 回	<p>〈相談援助事例演習〉 ソーシャルワーク事例を活用したロールプレイ演習</p>
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
<p>【定期試験】 (有) ・ 無</p>	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
保育相談支援		2年・後期	演習	30時間 (1単位)	野口和也
実務経験の概要					
授業概要	<p>保護者への相談支援は、保育者の専門性を生かした大切な業務として位置づけられています。そのため、この科目では、保育相談支援の具体的な内容と方法を学び、実践力を習得します。さらに、保護者の気持ちを受けとめながら、保護者との信頼関係の構築や養育力の向上を目指す支援の在り方について、演習を通して学んでいきます。科目「相談支援」「家庭支援論」との関連性について考慮しながら学習を進めます。</p>				
授業科目の目的	<p>保護者への支援を保育者の重要な役割として認識し、支援スキルについて学ぶことを目的とします。保護者支援について、内容・方法・技術を具体的に理解し、計画・記録・評価・カンファレンスの実際を知り、保育所だけでなく児童養護・障害児・母子生活支援施設での保育相談支援についても理解を深めます。</p> <p>相談技術においては、カウンセリングの要素が含まれており、各家庭における様々な悩みごとの個人情報等の守秘義務等の倫理綱領を遵守することや記録と評価を通してのケースカンファレンスの在り方について学ぶことを目的とします。</p>				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育相談支援の意義と原則について説明できるようにします。</li> <li>2. 保育相談支援の基本的スキルが修得できるようにします。</li> <li>3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法が論じられるようにします。</li> <li>4. 保育所やその他の児童福祉施設における保護者支援の実際について述べられるようにします。</li> </ol>				
テキスト	<p>保育者養成シリーズ 保育相談支援／高玉和子・和田上貴昭 編／一藝社            保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館</p>				
参考書	<p>必要に応じて、プリント・資料を配付します。</p>				
成績評価基準	<p>定期試験60%、授業態度・グループワークへの貢献度20%、課題レポート20%を総合的に評価します。</p>				
受講の心構えとセージ	<p>相談支援においては、人のところに触れ、人を支えるという姿勢が必要です。保育者自身もまた重要な「人的環境」であることを認識し、表情に加えてことば遣いやふるまい等を意識的に整えていくよう心がけてください。家庭や子育てに関するニュースや新聞記事に関心を持ち、自らの力や意識を高めましょう。予習復習にも、しっかり取り組んでください。</p> <p>演習以外にもグループディスカッションを行います。積極的な取り組みで実践力を高めましょう。</p>				
その他					

## 授業内容進行表

1 回	<保育相談支援の意義 1> 保育相談支援とは オリエンテーション (既習内容の理解度のアンケートを含む)
2 回	<保育相談支援の意義 2> 保育士の専門性を生かした支援
3 回	<保育相談支援の実際 1> 演習(1)
4 回	<保育相談支援の実際 2> 演習(2)
5 回	<子どもの権利> 子どもの最善の利益
6 回	<保護者への支援 1> 保護者とのパートナーシップ
7 回	<保護者への支援 2> 特別な対応を要する家庭への支援
8 回	<保護者への支援 3> 保護者のエンパワメント
9 回	<保護者への支援 4> 信頼関係を基本とした関わり
10 回	<関係機関との連携> 社会資源の活用と関係機関
11 回	<要保護児童の家庭に対する支援 1> 演習(1)
12 回	<要保護児童の家庭に対する支援 2> 演習(2)
13 回	<保護者支援の実際 1> 保護者に伝わる保育指導
14 回	<保護者支援の実際 2> 保護者支援の方法と技術
15 回	<保護者支援の実際 3> 保護者支援の内容
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと音楽	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	茨木金吾
実務経験の概要				
授業概要	<p>日々の保育に音楽を活かすために必要な基礎的となる知識や技術を学びます。</p> <p>幼児教育者として、こども達とともに豊かな音楽経験を積み、感動が共感できるように、個々の課題を見出し、音楽の楽しさを一層こども達に伝えられるように、基礎力を養います。そのためには音楽理論(基礎知識)の習得が必修条件であり、本授業は、この知識の習得を中心に授業を展開していきます。またグループワークとして、幼児用楽器を使った楽器あそびのあり方を理解すると同時に、グループでの指導案作成の意義を考えていきます。</p>			
授業科目の目的	<p>保育の内容を理解し、こどもの音楽表現遊びを展開するために必要な基礎的な知識や技術を学び、保育に携わる者として、こども達とともに豊かな音楽経験を積み、感動が共感できるように個々の課題を見出し、音楽の楽しさを一層こども達に伝えられるように基礎力を養うことをその学びの目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育現場で用いられている楽曲を題材にしながら、音楽的な基礎知識を理解することができるようにします。</li> <li>2. 基礎知識を応用しながら、幼児用楽曲を簡易伴奏の形で編曲する技術を身につけることにより、こどもにリアルタイムで関わるのが可能となるようにします。</li> <li>3. 基礎知識を応用しながら、こどもと共に楽しむ事のできる音楽活動を、幼児用楽器の取り扱い方を知ることによって、それらを用いた楽器あそびが展開できるようにします。</li> <li>4. 保育の表現技術(音楽表現に関する知識や技術)を習得することができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	<p>こどもと音楽/茨木金吾著/豊岡短期大学 たのしく遊べるこどものうた[改訂版]/大山美和子・田中常雄・磯貝静江・茨木金吾著/すずき出版/2,300円+税</p>			
参考書	<p>楽しく遊べるこどもの音楽表現(手あそび・指あそび・歌あそび・絵かきうた)/田中常雄監修 茨木金吾・伏見千悦子・野口雅史著/大学図書出版/2,700円+税 幼稚園教育要領/文部科学省/フレーベル館 幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレーベル館 保育所保育指針/厚生労働省/フレーベル館 保育所保育指針解説書/厚生労働省/フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーベル館</p>			
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定期試験(音楽理論)・・・60%</li> <li>2. グループワーク授業への取り組み(楽器あそび)・・・30%</li> <li>3. 学習態度、意欲・・・10%</li> </ol> <p>上記に示した割合で評価します。</p>			
受講の心構えとセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各自、五線ノートとプリント保管用ファイルを用意してください。</li> <li>2. 時間があれば、楽曲を音読しましょう。</li> <li>3. 授業外での復習と予習(自主練習、自主学習)を怠らないでください。</li> <li>4. 授業への積極的な取り組みを期待します。</li> </ol>			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	<p>&lt;オリエンテーション&gt;          幼児のための音楽教育（音楽教育の目標、幼児教育における音楽の大切な役割と効果、そしてその影響）</p>
2 回	<p>&lt;音楽理論1&gt;          記譜法の基礎知識（五線・加線と加間・小節線、音部記号と譜表、音名、音符と休符、拍子、縦線と小節、拍子感の変化）</p>
3 回	<p>&lt;音楽理論2&gt;          音階（自然音階、移調法、長音階、短音階、半音階、特殊な音階）</p>
4 回	<p>&lt;音楽理論3&gt;          調（調の名称、調号、近親調）</p>
5 回	<p>&lt;音楽理論4&gt;          音程（全音と半音、度数、種類、全音階的音程、半音階的音程、単音程と複音程、転回音程、異名同音程、協和音程と不協和音程）</p>
6 回	<p>&lt;音楽理論5-(1)&gt;          和音（三和音、和音記号、主要三和音と副三和音）</p>
7 回	<p>&lt;音楽理論5-(2)&gt;          和音（転回和音、カデンツ、密集和声と開離和声）</p>
8 回	<p>&lt;音楽理論5-(3)&gt;          和音（七の和音、九の和音、その他の和音）</p>
9 回	<p>&lt;音楽理論6-(1)&gt;          コードネーム（三和音の構成）</p>
10 回	<p>&lt;音楽理論6-(2)&gt;          コードネーム（七の和音の構成、その他よく使用されるコード）</p>
11 回	<p>&lt;音楽理論7&gt;          記号と標語、音楽形式（記号と標語、装飾音、音楽形式）</p>
12 回	<p>&lt;音（楽音、自然音等）と親しむことについて&gt;          楽音だけでなく、身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ経験の重要性と保育の環境のあり方</p>
13 回	<p>&lt;幼児用楽器の取り扱い方&gt;          手拍子、膝打ち、足拍子、カスタネット、鈴、大太鼓、小太鼓、タンバリン、トライアングル、シンバルなど、こどもの身近な楽器と、その演奏方法</p>
14 回	<p>&lt;楽器あそび(1)&gt;          楽器あそびの構成の理解とそれら楽器を用いた指導案の作成</p>
15 回	<p>&lt;楽器あそび(2)&gt;          作成した指導案の発表とふりかえり（グループワーク）          「こどもと音楽」まとめ</p>
<p>【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無</p>	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもと器楽・うた		2年・前期	演習	30時間 (1単位)	茨木 金吾・田上栄美子 大江美歩子・大谷妃早子 松本 裕子
実務経験の概要					
授業概要	<p>これまで学んできた音楽に関する基本的な知識と技能を活かして、授業を展開します。こどもは、音楽表現活動を通して、身近な音に気付いたり仲間とともに表現する喜びや楽しさ等を体験します。こどもの感性を育む保育実践力を身に付けるために、音楽表現活動（歌う、奏でる、動く、つくる等）を通して、表現する楽しさや演奏する喜び等を体験します。主な内容は、ピアノ演奏、アンサンブル演奏、合奏、合唱等です。これらの学習の成果を、「卒業演奏会」で発表します。演奏曲の決定、パート分け、パート練習、発表の企画立案は、話し合い検討しながら進めます。</p>				
授業科目の目的	<p>こどもの音楽表現活動には、「聴く活動」「歌う活動」「奏でる活動」「動く活動」「つくる活動」があげられます。幼児教育に携わる保育者が、豊かな感性を磨くことが、こどもの豊かな音楽表現活動につながります。そこで、保育者に求められる資質・能力の向上を目的に、学生各人が、これまで学んできた音楽に関する基本的な知識と技能を活かして様々な表現活動に取り組み、豊かな感性を養います。さらに、この活動を通して、表現の楽しさを味わったり、友達とともに演奏する喜びや難しさなどを学びます。</p>				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分の課題を見つけ、それを解決しようと積極的に授業に臨む態度、意欲を養うことができるようになります。</li> <li>2. 「卒業演奏会」の企画を通して演奏会までの計画立案、計画推進の手順がわかるとともに、創意工夫して練習に取り組むことができるようになります。</li> <li>3. 自分の役割や立場を理解し、責任もって取り組む姿勢を身に付けることができるようになります。</li> <li>4. 「自分（たち）の感じる（イメージする）音楽表現を発表する。」ことを通して、達成感・成就感、仲間との連帯感、協働することの意義など、表現活動を通してたくさんのことを学ぶことができるようになります。</li> </ol>				
テキスト	必要に応じて、プリント配付します。				
参考書	必要な資料、楽譜等を紹介します。				
成績評価基準	<p>1～3を総合的に検討して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主体的に学習に取り組む態度（授業態度や日々の課題に対する関心や意欲等）：20%</li> <li>2. 思考力、判断力、表現力（演奏の創意工夫）：20%</li> <li>3. 知識・技能（演奏のできばえ、自分の受け持つパートを責任もって演奏する等）：60%</li> </ol>				
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の役割や受け持ったパートを責任もって行うために、練習は欠かせません。課題意識を持ち、意欲的に練習を進めましょう。</li> <li>・受け持ったパートを責任持って演奏することは、音楽表現活動の基本的な技能の向上につながります。</li> </ul>				
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で楽譜や資料等を適宜配付します。</li> <li>・楽譜等を綴じますので、ファイル（できれば、クリアーファイル、A4サイズ）を用意してください。</li> </ul>				

## 授業内容進行表

1 回	オリエンテーション (学習の目標、授業内容、学習方法等について) 企画立案 (1)合唱(パートを決める) (2)合奏(各楽器の担当を決める) (3)アンサンブル(グループ、演奏曲、各楽器の担当を決める) (4)連弾(演奏するペア、演奏曲を決める)
2 回	合唱曲【A】の練習1 (練習課題の確認→パート練習<階名唱、歌詞唱>→合唱) アンサンブル練習1 (練習課題の確認→パート練習→合奏)
3 回	合唱曲【A】の練習2 (練習課題の確認→パート練習<階名唱、歌詞唱>→合唱) 合奏曲【A】の練習1 (練習課題の確認→パート練習→合奏)
4 回	合唱曲【A】の練習3 (練習課題の確認→合唱→パート練習→合唱) アンサンブル練習2 (練習課題の確認→パート練習→合奏)
5 回	ピアノ(連弾)練習1 合奏曲【A】の練習2 (練習課題の確認→パート練習→合奏)
6 回	ピアノ(連弾)練習2 合奏曲【A】の練習3 (練習課題の確認→パート練習→合奏)
7 回	ピアノ(連弾)練習3 アンサンブル練習3 (練習課題の確認→パート練習→合奏)
8 回	合唱曲【A】の練習4 (練習課題の確認→パート練習→合唱) アンサンブル練習4 (練習課題の確認→パート練習→合奏)
9 回	ピアノ(連弾)練習4 合唱曲【B】の練習1 (練習課題の確認→パート練習<階名唱、歌詞唱>→合唱)
10 回	ピアノ(連弾)練習5 アンサンブル練習5 (練習課題の確認→パート練習→合奏)
11 回	合奏曲【A】練習5 (練習課題の確認→合奏) アンサンブル練習6 (発表)
12 回	ピアノ(連弾)練習6 アンサンブル練習7 (振り返りと練習)
13 回	合唱曲【B】の練習2 (練習課題の確認→パート練習<階名唱、歌詞唱>→合唱) 合奏曲【B】の練習1 (練習課題の確認→パート練習→合奏)
14 回	合唱曲【A】の発表 ピアノ(連弾)練習6
15 回	ピアノ(連弾)発表 合奏曲【B】の練習2 (練習課題の確認→パート練習→合奏) 活動のふりかえり
【定期試験】 有 ・ (無)	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもと器楽・うたⅡ		2年・後期	演習	30時間 (1単位)	茨木 金吾・田上栄美子 大江美歩子・大谷妃早子 松本 裕子
実務経験の概要					
授 業 概 要	<p>「こどもと器楽・うた」の授業等で学んできた「知識・技能」を活かして、さらに豊かな音楽表現をめざす授業を展開します。学生各人の感性を働かせて、音楽表現を工夫・創造する過程や音に対して心を配り、きれいな音、美しい音色を求める姿勢や態度等を体験します。また、授業は、複数（連弾は2人、アンサンブルはグループ、合唱や合奏等は全員）で表現活動に取り組みます。演奏を仲間と振り返ったり、課題を見つけ手立てを講じたりする等、対話と協働によってよりよいものを創り上げる過程を体験します。演奏する主な内容は、ピアノ演奏、アンサンブル演奏、合奏、合唱等です。これらの学習の成果を、「卒業演奏会」で発表します。</p>				
授 業 科 目 の 目 的	<p>こどもの音楽表現活動には、「聴く活動」「歌う活動」「奏でる活動」「動く活動」「つくる活動」があげられます。幼児教育に携わる保育者が豊かな感性を磨くことが、こどもの豊かな音楽表現活動につながります。そこで、保育者に求められる資質・能力の向上を目的に、学生各人が、「こどもと器楽・うた」等で学んできた「知識・技能」を活かし、感性や表現する力等を培い創造性を豊かにします。さらに、演奏における知識・技能の習得だけでなく、仲間とともに音楽づくりをする活動を通して表現の楽しさやおもしろさを味わったり、仲間とともに演奏する喜びや難しさなどを学びます。</p>				
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分の課題を見つけ、それを解決しようと積極的に授業に臨む態度、意欲を養うことができるようになります。</li> <li>2. 「卒業演奏会」を実施するためのプログラム構成、練習計画立案、計画推進等の手順等を体験することから実践への理解を図ることができるとともに、創意工夫して練習に取り組むことができるようになります。</li> <li>3. 自分の役割や立場を理解し、責任をもって取り組む等、主体的に学習に取り組む態度や姿勢を身に付けることが出来るようになります。</li> <li>4. 「自分(たち)の感じる(イメージする)音楽表現を発表する。」ことを通して、達成感・成就感、仲間との連帯感、協働することの意義など、多くのことを学ぶことが出来るようになります。</li> </ol>				
テ キ ス ト	必要に応じて、プリント配付します。				
参 考 書	必要な資料、楽譜等を紹介します。				
成 績 評 価 基 準	<p>1～3を総合的に検討して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主体的に学習に取り組む態度（授業態度や日々の課題に対する関心や意欲等）：20%</li> <li>2. 思考力、判断力、表現力（演奏の創意工夫）：20%</li> <li>3. 知識・技能（演奏のできばえ、自分の受け持つパートを責任をもって演奏する等）：60%</li> </ol>				
メ ッ ク の 心 構 え と セ ー ジ ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「こどもと器楽・うた」で創り上げた表現を吟味し、さらに豊かな表現を目指そうとする意識をもって取り組みましょう。そのためには、仲間と意見を出し合ったり工夫したりすることは、とても大切な活動です。自分の考えをもち、仲間の考えに耳を傾け、ともに作りあげようと取組む態度で臨みましょう。</li> <li>・学生一人一人が役割や受け持ったパートを責任もって行うために、課題意識を持ち意欲的に取組み、積極的に練習を進めましょう。</li> <li>・受け持ったパートを責任もって演奏することは、音楽表現活動の知識・技能の向上につながります。</li> </ul>				
そ の 事 項 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で楽譜や資料等を適宜配付します。</li> <li>・楽譜等を綴じますので、ファイル（できれば、クリアーファイル、A4サイズ）を用意してください。</li> </ul>				



## 授業内容進行表

1 回	オリエンテーション (学習の目標、授業内容、学習方法等について) アンサンブル練習1 (練習課題の確認→合奏) ピアノ(連弾)練習1
2 回	合唱曲【A・B】の練習1 (練習課題の確認→パート練習〈階名唱→歌詞唱〉→合唱) ピアノ(連弾)練習2
3 回	合唱曲【A・B】の練習2 (練習課題の確認→パート練習(成果発表)→合唱) ピアノ(連弾)練習3
4 回	合奏曲【A・B】の練習1 (練習課題の確認→パート練習→合奏) ピアノ(連弾)練習4
5 回	合奏曲【A・B】の練習2 (練習課題の確認→パート練習→合奏) ピアノ(連弾)練習5
6 回	アンサンブル練習2 (練習課題の確認→合奏) と成果発表 ピアノ(連弾)練習6
7 回	演奏会のプログラム構成について計画立案 総合練習1 (合唱・アンサンブル)
8 回	総合練習2 (合唱・合奏)
9 回	総合練習3 (合唱、合奏)
10 回	ピアノ(連弾)練習7
11 回	リハーサル1 (ピアノ〈連弾〉、合唱)
12 回	リハーサル2 (アンサンブル、合奏)
13 回	リハーサル3 (プログラム前半の通し練習) 成果発表 (アンサンブル)
14 回	リハーサル4 (プログラム後半の通し練習) 成果発表 (ピアノ演奏)
15 回	成果発表 (合唱) 活動のまとめとふりかえり
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと造形 I	2年・前期	演習	30時間 (1単位)	岩田 健一郎
実務経験の概要				
授業概要	<p>幼児造形の指導援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習します。それらを踏まえながらテーマをもとに色彩構成学習の実際を学び、あわせて用具や描画材について体験的に理解します。さらに、イメージの広がりから、また、素材の特性を活かし工夫する製作を展開します。具体的には保育現場の教材も視野に入れながら、壁面装飾を想定した製作をしていきます。</p>			
授業科目の目的	<p>保育内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して、造形感覚の基礎陶冶を図ります。また、乳幼児を含めた子どもの造形の指導援助者として、保育の中で取り扱う教材に必要な知識や技術の習得を目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育内容を理解し、子どもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識が理解できるようにします。</li> <li>2. 形や色、材質等の造形に関する基礎的な用語が説明でき、それらをもとに、えがく・つくるための材料や用具の取り扱いと製作活動を通して造形表現ができるようにします。</li> <li>3. 子どもの生活経験と造形表現活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術を関係づけることができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	<p>こどもと造形 I / 東山明 他 / 豊岡短期大学          こどもと造形表現 I / 東山明 他 / 豊岡短期大学</p>			
参考書	<p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 / 内閣府・文部科学省・厚生労働省 / フレーベル館          幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説 / 文部科学省 / フレーベル館          保育所保育指針・保育所保育指針解説書 / 厚生労働省 / フレーベル館          その他の参考書は授業の中で紹介します。</p>			
成績評価基準	<p>上記3つの学習成果について、受講姿勢、課題（作品等）の提出状況・内容60%、定期試験40%の割合で達成度を評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>えがく造形表現は表現技術の巧拙よりも素材の特性を理解し、色や形を工夫をする積極的な製作姿勢が大切です。この保育者としてえがく体験が子どもたちの表現の理解と共感する感性に繋がりますので、常に子どもの姿を浮かべながら思い切り元気よく製作してください。</p> <p>また、授業時間外の学習として、子どもの造形表現のありようを地域の子どもたち、幼稚園等の現場で造形物や遊ぶ姿を観察し、発達段階とえがく表現の関係を理解していくことも心がけてください。授業時間内で仕上がらない課題は授業時間外で製作してください。</p>			
その他事項	<p>絵具等を使用する授業回はエプロン等を準備してください。</p>			

## 授業内容進行表

1 回	<p>&lt;オリエンテーション&gt; 授業の目的と研究の観点について学ぶ</p> <p>&lt;子どもの造形活動と製作体験の意義&gt; えがく製作体験を通して視ることについて学ぶ</p>
2 回	<p>&lt;形態と色彩の原理について学ぶ&gt; ～形態・色彩・構成美の要素～</p> <p>&lt;形態と色彩について学ぶ1&gt; 色調について学ぶ(1)</p>
3 回	<p>&lt;形態と色彩について学ぶ2&gt; 色調について学ぶ(2)</p>
4 回	<p>&lt;形態と色彩について学ぶ3&gt; 色の感情について学ぶ(1)</p>
5 回	<p>&lt;形態と色彩について学ぶ4&gt; 色の感情について学ぶ(2)</p>
6 回	<p>&lt;形態と色彩について学ぶ5&gt; 色の感情について学ぶ(3)</p>
7 回	<p>&lt;形態と色彩について学ぶ6&gt; 色の感情について学ぶ(4)</p>
8 回	<p>&lt;形態・色彩等についての小テスト・振り返り&gt;</p> <p>&lt;造形表現を支える環境づくりについて学ぶ&gt;</p> <p>&lt;子どもの発達と表現手法・材料用具について学ぶ&gt;</p>
9 回	<p>&lt;えがく表現と表現手法について学ぶ1&gt; 描画材料と表現研究</p>
10 回	<p>&lt;えがく表現と表現手法について学ぶ2&gt; 版画手法による製作(1)</p>
11 回	<p>&lt;えがく表現と表現手法について学ぶ3&gt; 版画手法による製作(2)</p>
12 回	<p>&lt;えがく表現と表現手法について学ぶ4&gt; コラージュによる製作(1)</p>
13 回	<p>&lt;えがく表現と表現手法について学ぶ5&gt; コラージュによる製作(2)</p>
14 回	<p>&lt;えがく表現と表現手法について学ぶ6&gt; コラージュによる製作(3)</p>
15 回	<p>&lt;振り返り・まとめ&gt;</p>
<p>【定期試験】 (有) ・ 無</p>	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと造形Ⅱ	2年・後期	演習	15時間 (1単位)	岩田 健一郎
実務経験の概要				
授業概要	保育内容を理解し、紙と粘土を用いたつくる活動に主眼をおきます。それらの基礎知識をもとにして、材料や用具の取り扱いと、つくる・えがく活動等を通して造形感覚の基礎陶冶を図ります。乳幼児の造形活動の教材やそれら使って、保育者として活動を展開、援助するための知識や技能について、製作と振り返りを通して学習します。			
授業科目の目的	保育内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して、造形感覚の基礎陶冶を図ります。また、乳幼児を含めた子どもの造形の指導援助者として、「こどもと造形Ⅰ」で学習したことを踏まえ、造形表現で取り扱う教材とそれらに必要な知識や技術の習得を目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育内容を理解し、子どもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識を深めることができるようにします。</li> <li>2. 製作する手法等に関する基礎的な用語が説明でき、それらをもとに、えがく・つくるための材料や用具の取り扱いと製作活動を通して、造形表現ができるようにします。</li> <li>3. 子どもの生活経験と造形表現活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、新たに製作体験をする実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術の関係づけができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	こどもと造形Ⅰ／東山明 他／豊岡短期大学 こどもと造形表現Ⅰ／東山明 他／豊岡短期大学			
参考書	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針・保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 その他の参考書は授業の中で紹介します。			
成績評価基準	上記3つの学習成果について、課題に対しての取り組み方など受講姿勢、課題（作品等）の提出状況・内容60％、定期試験40％の割合で達成度を評価します。			
受講の心構えとメッセージ	つくる造形表現は表現技術の巧拙よりも素材の特性を理解し、色や形を工夫をする積極的な製作姿勢が大切です。この製作体験が子どもたちの表現の理解と共感する感性に繋がりますので、常に子どもの姿を浮かべながら思い切り元気よく製作してください。 また、授業時間外の学習として、子どものつくる造形表現のありようを地域の子どもたち、幼稚園等の現場で造形物や遊ぶ姿を観察し、発達段階と表現の関係を理解していくことも心がけてください。			
その他事項	テキスト、デザインセットは毎回持って来てください。その他の教材は準備します。 絵具等を使用する授業回はエプロン等を準備してください。			

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> <造形活動の素材と子どもの造形活動（遊び・手法）について考える> <紙による製作研究 紙の特性、種類、加工法について> <紙による製作> 花 (1)
2 回	<紙による製作> 花 (2) <段ボール紙による製作> お面づくり (1)
3 回	<段ボール紙による製作> お面づくり (2)
4 回	<段ボール紙による製作> お面づくり (3) <粘土による製作研究 粘土の特性、種類、加工法について>
5 回	<小麦粉粘土による製作> 食べ物をつくる（グループワーク）
6 回	<粘土（石塑）による製作> 手法と構想 <粘土（石塑）による製作> 成形 (1)
7 回	<粘土（石塑）による製作> 成形 (2)
8 回	<粘土（石塑）による製作> 彩色 <子どもの造形表現活動についてのまとめと今後の課題>
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと文学	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	和田典子
実務経験の概要				
授業概要	<p>幼児教育と関わりの深い児童文学作品について学びます。絵本、わらべ唄や唱歌・童謡の歴史、昔話・神話・民話の違いと代表作品、外国の児童文学との関わり、童話など小学校の国語の教科書掲載作品などを取りあげます。歴史的な流れに沿って学んでいき、作品背景となる思想や子どもの生活と照らし合わせながら作品の解釈を行います。</p> <p>また、実際に保育現場で、それらの作品がどのように子どもの生活と結びついて活躍しているか、今後の可能性についても考えていきます。世界での作家達の結びつきや作品紹介の現状も学びます。</p>			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育に関わりの深い児童文学作品を、歴史の流れに沿って学びます。</li> <li>2. 明治期は外国の児童文学との関わり、大正期は『赤い鳥』を中心とした児童雑誌の成果と影響、昭和期は戦争など激動する社会の中での子どもの生活との関わりを軸に学びます。</li> <li>3. 保育現場での児童文学作品の活用と、今後どのような形で子どもの未来につなげていくかという可能性について学びます。</li> <li>4. グローバル社会、情報化時代における世界の児童文学の現状や交流について知り、広い視野で考えられるようになります。</li> </ol>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの文学について歴史的な流れに沿って概観することができるようにします。</li> <li>2. 有名な作品の成立した時代背景や作家について説明することができるようにします。</li> <li>3. 文学作品を通して、子どもの現在及び未来に向けた生き方、希望、可能性に思いを馳せ、読み聞かせや児童文化財への応用することができるようにします。</li> <li>4. 世界との関わりの中で、児童のための文学や文化について考えられる視野を持つことができるようになります。</li> </ol>			
テキスト	<p>児童文学の教科書／川端有子／玉川大学出版部／2,300円＋税          保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館          幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館          幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館</p>			
参考書	<p>はじめて学ぶ 日本児童文学史／鳥越信編著／ミネルヴァ書房          保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館          幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館          幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>			
成績評価基準	<p>定期試験60％、提出物20％、課題に取り組む姿勢20％により総合的に評価します。</p>			
受講の心構えと メモの使い方	<p>まず、文学作品を楽しんでください。授業内で紹介できるのは、あらすじや一部分ですから、できれば作品の全文を読んでみてください。そこから、作者の思いや考え、時代背景や思想を読み取り考えて下さい。</p> <p>作品の一部を読み聞かせたり、お話ししたりすることは、子どもの発達にも良い影響を与えます。教材として使えるようになります。講義科目ですが、教材化への応用も考えますので、講義時間外のワークが必要となります。</p>			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	<p>&lt;日本と世界の児童文学&gt; ガイダンス 2000年の歴史をランダムに移入 翻訳作品概観</p>
2 回	<p>&lt;昔話・神話・民話の違い&gt; 昔話・神話・民話の違いについて 代表的な作品を読む 昔話絵本を使った教材（パワーポイント使用）の視聴と作成法</p>
3 回	<p>&lt;イソップ寓話、アンデルセン&gt; 寓話とは イソップの人と作品 アンデルセンの人と作品 日本への影響 教育とのつながりと教材化 実演</p>
4 回	<p>&lt;グリム童話、仙女物語&gt; グリム兄弟の人と作品 フランスの仙女物語の系譜 日本への影響 保育とのつながり 教材化と実演</p>
5 回	<p>&lt;『赤い鳥』について&gt; 『赤い鳥』誕生の背景 大正デモクラシーと児童中心主義と子どもの生活 主催者鈴木三重吉の人と願い 『赤い鳥』のモットー</p>
6 回	<p>&lt;『赤い鳥』の童話&gt; 『赤い鳥』童話：作家と作品鑑賞 子どもの生活と国語教育への影響</p>
7 回	<p>&lt;『赤い鳥』の童謡と童画&gt; 『赤い鳥』の童謡：作家と作品鑑賞 CD 視聴 童画という分野の開拓</p>
8 回	<p>&lt;『赤い鳥』の功績と影響&gt; 『赤い鳥』がもたらしたもの 類似雑誌と大正期の子ども文化 2世による昭和期への発展</p>
9 回	<p>&lt;宮沢賢治&gt; 人と作品 絵本、国語教科書掲載作品 DVD 視聴</p>
10 回	<p>&lt;ファンタジー作品&gt; イギリスのファンタジー作品の概略 日本への翻訳と影響 DVD 視聴</p>
11 回	<p>&lt;多様化する児童文学&gt; 戦後の児童文学の多様性 子どものアイデンティティー確立の問題と世界の児童文学</p>
12 回	<p>&lt;読み聞かせとお話し&gt; 読み聞かせやお話しの方法 実演（CD）を聞く 世界の作品を紹介する活動と作家のつながり</p>
13 回	<p>&lt;児童文学作品の教材化&gt; これまで学習した児童文学作品を自分なりに教材化する お話し（台本づくり）と構想 指導案（部分）を考える</p>
14 回	<p>&lt;発表と評価&gt; 児童文学作品を教材化して、その成果を発表する 相互評価や自己評価によって、問題点を考える</p>
15 回	<p>&lt;学習のまとめと振り返り&gt; これまでの講義のまとめ 整理プリント解答 振り返り</p>
<p>【定期試験】 (有) ・ 無</p>	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの保健 I	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	杉岡美佐子
実務経験の概要				
授業概要	こどもの成長過程を安全に、より健康的に手助けするために、こどもの発育や身体的・精神的特徴を理解し、こどもへの接し方について総合的に学習します。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解します。</li> <li>2. こどもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解します。</li> <li>3. こどもの心身の疾病等と適切な対応について理解します。</li> <li>4. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解します。</li> <li>5. こどもの精神保健とその課題等について理解します。</li> </ol>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できるようにします。</li> <li>2. こどもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解できるようにします。</li> <li>3. こどもの心身の疾病等と適切な対応について理解し、説明できるようにします。</li> <li>4. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解し、説明できるようにします。</li> <li>5. 救急時の対応や事故防止、安全管理について理解し、説明できるようにします。</li> <li>6. こどもの精神保健とその課題等について理解し、論じることができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	図解 こどもの保健 I 第2版/服部右子・大森正英/みらい			
参考書	「幼稚園教育要領」、「幼稚園教育要領解説」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 「保育所保育指針」、「保育所保育指針解説」 その他適宜紹介します。			
成績評価基準	授業態度・課題提出30%、定期試験70%により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学用語や表現が難しい面がありますが、健康な子どもの発達や成長過程をしっかりと理解してほしい。</li> <li>・常にこどもたちの姿を浮かべながら意欲的に授業に取り組んでほしい。</li> <li>・自分のこれからの育児や仕事に役立てる方向で取り組んでほしい。</li> <li>・テキストに沿って授業をすすめるため、必ずテキストを持参してほしい。</li> <li>・学びを深めるために、予習・復習に取り組んでほしい。</li> </ul>			
その他事項	必要に応じてプリントを配布します。			



## 授業内容進行表

1 回	こどもの健康とは
2 回	こどもの保健の意義と目的
3 回	身体の発育と保健
4 回	生理機能・運動機能の発達と保健
5 回	精神（こころ）の発達と保健
6 回	こどもを取り巻く生活環境と心身の保健1 家庭環境
7 回	こどもを取り巻く生活環境と心身の保健2 地域・自然環境
8 回	こども生活習慣と健康1 食 排泄 睡眠
9 回	こども生活習慣と健康2 清潔 衣類・寝具と健康
10 回	こどもの精神（こころ）の保健1 こころの健康
11 回	こどもの精神（こころ）の保健2 こどもの虐待
12 回	こどもの栄養1 乳児期の栄養
13 回	こどもの栄養2 幼児期の栄養
14 回	こどもの健康状態の評価
15 回	こどもにみられる主な症状と対処法
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもの保健Ⅱ		2年・後期	講義	30時間 (2単位)	杉 岡 美佐子
実務経験の概要					
授業概要	<p>こどもの成長過程を安全に、より健康的に手助けするために、こどもに多い病気を理解し、こどもへの接し方について総合的に学習します。</p> <p>また、こどものおかれている健康問題や地域保健活動を理解し、保護者支援についても学習していきます。</p>				
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどもの健康および安全に係る保健活動の計画及び評価を行うことができます。</li> <li>2. こどもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考えます。</li> <li>3. こどもの疾病やその予防及び適切な対応について具体的に学び、知識を獲得します。</li> <li>4. 救急時の対応や事故防止、安全管理について学びます。</li> <li>5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解します。</li> <li>6. 施設等におけるこどもの心身の健康および安全の実施体制について理解します。</li> </ol>				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 救急時の対応や事故防止について理解し、説明できるようにします。</li> <li>2. こどもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境が理解できるようにします。</li> <li>3. こどもの疾病やその予防及び適切な対応について具体的な理解ができるようにします。</li> <li>4. こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、説明できるようにします。</li> <li>5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解し、論じることができるようにします。</li> <li>6. 施設等におけるこどもの心身の健康および安全の実施体制について理解できるようにします。</li> </ol>				
テキスト	図解 こどもの保健Ⅰ 第2版/服部右子・大森正英/みらい				
参考書	<p>「幼稚園教育要領」、「幼稚園教育要領解説」</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」</p> <p>「保育所保育指針」、「保育所保育指針解説」</p> <p>その他適宜紹介します。</p>				
成績評価基準	授業態度・課題提出30%、定期試験70%により総合的に評価します。				
受講の心構えと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学用語や表現が難しい面がありますが、健康なこどもの発達や成長過程をしっかりと理解してほしいと思っています。</li> <li>・常にこどもたちの姿を浮かべながら意欲的に授業に取り組んでほしいと思っています。</li> <li>・自分のこれからの育児や仕事に役立てる意識を持ち、その方向で取り組んでほしいと思っています。</li> <li>・テキストに沿って授業をすすめるため、必ずテキストを持参し、予習・復習に取り組んでください。</li> </ul>				
その他	必要に応じてプリントを配布します。				

## 授業内容進行表

1 回	こどもと事故
2 回	事故防止
3 回	応急処置
4 回	こどもの病気1 先天性の病気 新生児期の病気
5 回	こどもの病気2 感染症
6 回	こどもの病気3 アレルギー 消化器
7 回	こどもの病気4 呼吸器 循環器 血液
8 回	こどもの病気5 精神 神経
9 回	こどもの病気6 泌尿器 内分泌 皮膚
10 回	こどもの病気7 運動器 目 耳 鼻 その他
11 回	こどもの病気の予防
12 回	母子保健行政1 母子保健の状況
13 回	母子保健行政2 母子保健対策と関係法規
14 回	母子保健行政3 母子保健行政の仕組み
15 回	母子保健行政4 母子保健対策における連携
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの保健Ⅲ	2年・後期	演習	30時間 (1単位)	杉岡美佐子
実務経験の概要				
授業概要	<p>講義と実技演習で実践に役立つ、知識と技術を習得できるように進めます。</p> <p>発達途上にある乳幼児の特徴を学び、発達の評価をするための身体計測の技術を演習します。安全を担保するための実技に重点をおき進めていきます。生活を守るための技術にも習熟するよう取り組みます。</p> <p>保育環境の安全を守り、病気や事故時の対応ができるよう応急手当や、救急処置ができるよう演習します。授業はグループワークを取り入れ、学生双方の学びと気づきを深めていきます。</p>			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育を行う上で必要なこどもの成長、発達の状態、健康状態を正しく把握するための方法と技術を演習から学びます。</li> <li>2. 健康と安全に関する保健活動について理解し、関係者とのコミュニケーションがとれるよう知識を深めます。</li> <li>3. 病気の早期発見や事故の予防、対応を正しく行えるよう応用能力と技術を演習し、また、家族との連携や記録の必要性を理解します。</li> <li>4. グループワークの授業でリーダーシップや発表態度を育てます。</li> </ol>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育施設での保健活動の計画立案ができるようにします。</li> <li>2. 日常生活に必要な養護技術が安全におこなえるようにします。</li> <li>3. 発育指標となる身体計測の実践と評価ができるようにします。</li> <li>4. 健康上の問題となる情報を把握し、情報の判断ができるようにします。</li> <li>5. こどもの疾病について予防や応急処置と急変時の対応と報告、連絡、記録ができるようにします。</li> <li>6. 安全を脅かすリスクが把握できるようします。</li> <li>7. 保育者間の連携を取る力を養い、母親への支援について自分の意見を持つことができるようになります。</li> </ol>			
テキスト	演習 子どもの保健Ⅱ 第2版/今井 七重/みらい			
参考書	保育所における感染症対策ガイドライン/厚生労働省 その他適宜紹介します。			
成績評価基準	<p>次の条件により総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習によるグループへの貢献度：10%</li> <li>・グループワークへの参加度：10%</li> <li>・実技テスト：20%</li> <li>・定期テスト：60%</li> </ul>			
受講の心構えとメッセージ	<p>保育者として重要な科目です。事前学習をしっかりと主体的参加をしてください。実技演習は何回でも繰り返し、自信が持てるようにしてください。グループワークでは他人の意見をよく聞き、まとめと発表の力をつけてください。予習・復習にも取り組んでください。</p>			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	保健活動の計画および評価
2 回	保育における健康観察 1 日常の観察
3 回	保育における健康観察 2 発育の観察
4 回	保育における健康観察 3 生理、感覚、運動、精神機能などの発達の観察と評価
5 回	こどもの生活習慣と心身の健康 1 規則正しい生活習慣 食事習慣 排泄習慣
6 回	こどもの生活習慣と心身の健康 2 清潔習慣
7 回	こどもの起こりやすい症状のケア 1 発熱 嘔吐 下痢 腹痛
8 回	こどもの起こりやすい症状のケア 2 咳 鼻汁 発疹 便秘
9 回	事故防止および健康安全管理
10 回	救急蘇生法
11 回	応急手当
12 回	感染症の予防と対策
13 回	保育の場で行う感染予防
14 回	園における健康管理の実際
15 回	関係機関との連携
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
精神保健	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	野口和也
実務経験の概要				
授業概要	<p>精神保健は、こころの健康の保持・増進を目指すものであり、精神医学、身体医学、心理学、社会福祉学といった多岐にわたる領域から成り立つ科目となります。とくに、よく見受けられるこころの問題について解説を行います。また、学生の基礎的な知識の獲得と定着がしっかりとできているか、確認しながら授業を展開したいと思っています。</p> <p>さらに、精神保健が取り扱う領域や内容について説明しながら、適切なアプローチ方法、周囲への対応など実践についても学んでいきます。</p>			
授業科目の目的	<p>精神保健では、保育者がその専門活動に従事する中で関わりを持つ他機関との連携や協働を念頭に置き、基礎的な知識、科学的なエビデンスから学びを進めていきます。精神保健の実践は、単なる個人的な経験や感覚的な事柄に依拠して理解されるものではなく、系統的かつ体系的な知識の獲得が不可欠なものとなっていきます。</p> <p>そこで、精神保健では、精神疾患をはじめとするこころの健康問題について幅広く学ぶ機会を設け、どのようなアプローチの方法があり、どのような周囲への対応があるのかについて、理解できるようになることを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心身の健康増進を図る精神保健活動の意義を説明することができるようにします。</li> <li>2. 子どもの精神機能の発達と、その保健について知識を獲得することができるようにします。</li> <li>3. 精神疾患とその予防・対応の視点を持ち、実践に応用することができるようにします。</li> <li>4. 養育者への援助と対応について、イメージを持ち技術を獲得することができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	随時配付します。			
参考書	<p>幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館  幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館  保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館  保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館  幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館  幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>			
成績評価基準	授業態度10%、レポート30%、定期試験60%により総合的に数量化して評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>こころの健康に関する問題は、特別なことではなく程度の差はあっても、誰もが抱える可能性があるものと言えます。また、自分自身は問題がなくても周囲の人がこころの健康を崩すこともあります。現代社会の中で保育の専門家として活動する際、精神保健の活動は重要な事柄になっていきます。ぜひとも、授業に真摯な姿勢で向き合い、子どもたちの精神保健だけでなく、養育者や周囲の人々の精神保健についても幅広く学びを深めていくことを期待しています。</p> <p>残念ながら、こころの健康にかかわる問題は、誤解した理解が多く、それにより人を傷つけてしまうこともあります。科学的な根拠に基づく知識を身につけられるように、予習・復習に取り組む真摯な姿勢を徹底し、さらに、こころの健康問題と、どのように向き合っていくかを考えてほしいと思います。</p>			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション 精神保健とは1> 精神保健のねらい
2 回	<精神保健とは2> こころの健康とはなにか／子ども達のメンタルヘルスと教育現場の取り組み
3 回	<精神保健とは3> こころの健康とストレス
4 回	<精神保健の基礎1> 生理学的背景・要因（脳・神経系の仕組みと機能）
5 回	<精神保健の基礎2> 心理社会的な背景・要因
6 回	<精神保健の基礎3> 精神症状を読み解く／精神症状の6つのグループ
7 回	<発達と精神保健1> 胎児期・乳児期、幼児期・児童期の発達と精神保健
8 回	<こころの問題1> 基本となる10の疾患(1)
9 回	<こころの問題2> 基本となる10の疾患(2)
10 回	<こころの問題3> 子どもの頃から現れやすい問題 神経性習癖 /分離不安
11 回	<こころの問題4> うつ症状・摂食障がい（子どもと大人との同じところ、違うところ）
12 回	<こころの問題5> 強迫性障がい・睡眠障がい
13 回	<精神保健活動1> 母子の精神保健：子育て支援とこころの健康づくり
14 回	<精神保健活動2> 地域精神保健活動と保育：様々な診断方法、検診
15 回	<精神保健活動3> 精神保健活動における保育者の役割
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもの食と栄養		2年・通年	演習	60時間 (2単位)	岡 崎 典 子
実務経験の概要					
授 業 概 要	現場の事例や演習を交え、自分の食生活も含めて食に対するあり方・態度を考えることのできる授業にしていきます。				
授 業 科 目 の 目 的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎栄養学をもとに、小児における栄養の特性と重要性を、現代社会における問題も含めて、理解します。</li> <li>2. 食育の重要性を理解し、食育の実践力のある保育士を養成します。</li> </ol>				
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 五大栄養素の栄養生理について理解することができるようになります。</li> <li>2. 小児にとって適切な食事の献立内容を理解し、作成することができるようになります。</li> <li>3. 小児の栄養生理について理解することができるようになります。</li> <li>4. 母乳の意義について理解することができるようになります。</li> <li>5. 離乳の意義・実際について理解し、料理作業に活かす力を養うことができるようになります。</li> <li>6. 幼児期の栄養の意義について理解し、献立作成調理の実践に活かす力を養うことができるようになります。</li> <li>7. 学童期・思春期の栄養意義について理解することができるようになります。</li> <li>8. 集団給食と献立について理解することができるようになります。</li> <li>9. 小児の特徴的な疾患の食の対応について理解することができるようになります。</li> <li>10. 障害を持つ子どもの特徴と食の対応について理解することができるようになります。</li> <li>11. 食育の重要性を理解し、積極的に進められる力をつけることができるようになります。</li> </ol>				
テキスト	子どもの食と栄養演習 4版／小川雄二編著／建帛社 新食品成分表フーズサポーター (CD-ROM)付／新食品成分表編集委員会／東京法令出版				
参 考 書					
成 績 評 価 基 準	小論文・レポート作成・定期試験・授業態度を総合的に判定する。定期試験55%、提出物25%、授業態度20%とする。				
メ 受 講 の セ ー 心 構 え と ジ ョ ー	小児における食べ方をめぐる問題は、その子の一生だけでなく次世代、その次の世代へ続く重要な問題です。また、食育基本法も施行され、社会的にも食に対する姿勢が大きく問われています。まず、自己の食生活を見つめ、指導の実践につなげられる力をしっかりつけられるよう真剣に学んでください。予習・復習にも取り組み学びを深めてください。				
の 其 他 項					



## 授業内容進行表

1 回	<栄養素・生理・代謝 1> 炭水化物の栄養・生理・代謝	16 回	<演習 離乳期の食事 1> 調乳および離乳食の調理実習
2 回	<栄養素・生理・代謝 2> 脂質の栄養・生理・代謝	17 回	<演習 離乳期の食事 2> 調乳および離乳食の調理実習
3 回	<栄養素・生理・代謝 3> 蛋白質の栄養・生理・代謝	18 回	<演習 幼児期の食事 1> 幼児のお弁当とおやつ調理実習
4 回	<栄養素の生理・代謝 4> 水とミネラル ビタミン	19 回	<演習 幼児期の食事 2> 幼児のお弁当とおやつ調理実習
5 回	<食をめぐる問題とこれからの課題 1> 災害編 地域における施設の役割	20 回	<特別な配慮を要する子どもの食と栄養 1> 体調不良と疾病
6 回	<食をめぐる問題とこれからの課題 2> 災害時の役割演習	21 回	<特別な配慮を要する子どもの食と栄養> 食物アレルギー
7 回	<栄養と食品に関する基礎的知識> 食事摂取基準と食品の基礎知識	22 回	<障害を持つ子どもの食事> 障害の特徴と食生活
8 回	<子どもの発育発達と栄養生理 1> 食欲の仕組み	23 回	<食をめぐる問題とこれからの課題 3> 家庭・地域環境
9 回	<子どもの発育発達と栄養生理 2> 味覚と嗜好の仕組みと発達	24 回	<食育の基本と内容 1> 食育基本法・保育所食事指針等
10 回	<子どもの発育発達と食生活 1> 授乳期の栄養	25 回	<食育の基本と内容 2> 食育における養護と教育・保護者支援
11 回	<子どもの発育発達と食生活 2> 離乳期の栄養	26 回	<食育の実際> 食育計画と評価
12 回	<子どもの発育発達と食生活 3> 幼児期の栄養	27 回	<食育演習 1> 食育だより
13 回	<子どもの発育発達と食生活 4> 学童期・思春期・妊娠期の栄養	28 回	<食育演習 2> 食育計画
14 回	<献立作成と調理の基本> 献立作成のための基礎知識	29 回	<食育演習 3> 食育指導媒体
15 回	<献立作成演習> 幼児期の献立	30 回	<食育演習 4> 食育指導発表と評価
		【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
地域ボランティア	1～2年・通年	演習	30時間 (1単位)	西村 豊
実務経験の概要				
授業概要	<p>地域における交流行事や福祉施設等における補助・援助、または各種団体・企業等において、30時間以上のボランティア活動を行います。</p> <p>まず初めに、1年前期の事前指導において留意事項、プライバシー・個人情報への配慮事項等について説明します。自分が参加したいと思う場所や日時、活動内容等を決め、実際に活動します。活動後は、所定の活動日誌をすみやかに作成・押印し、担当教員等の確認印を受けて提出します。</p> <p>その後、2年後期に、事後指導を受けながら活動の成果や課題について考察し、活動報告書を提出した上で、最終的に2年後期の終了時に単位認定をします。</p>			
授業科目の目的	<p>本学ではこれまで、課外活動や公開講座等を通じた地域交流や、社会福祉施設等における多種多様な学生のボランティアを奨励してきました。</p> <p>すなわち本授業では、社会の一員としての学生の「人間力」を培う活動に対し、また学生の努力に対してそれらに報いるために、これらの活動を単位として認定し、一層の推進を図ることをその目的としています。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティア活動を通じて、地域社会を担っていく力の育成を目指します。</li> <li>2. 他者や社会の利益のために活動することが学生自身の楽しさや喜びとなり、延いてはコミュニケーション能力を高める等の人間的成長となることを目指します。</li> </ol>			
テキスト	必要に応じてプリント教材を配付します。			
参考書	<p>ボランティア活動の基礎と実際／米山岳廣編著／文化書房博文社／2,052円</p> <p>ボランティア まるごとガイド／安藤雄太監修／ミネルヴァ書房／1,620円</p> <p>ボランティアのすすめー基礎から実践までー／岡本榮一監修／ミネルヴァ書房／2,592円</p>			
成績評価基準	ボランティア活動事前・事後指導の授業への「授業態度」10%、「ボランティア活動合計時間」70%、「活動最終報告書」20%により評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>「ボランティア」は誰か人のためにするものと思われがちです。それだけではなく、社会と関わることで初めて自分の中の新しい思いや感情に出会ったり、また今までとは違った自分に気づいたりするものです。「ボランティア活動」の経験は社会に出た時に大きな力になると確信しています。</p> <p>皆さんの自主的で楽しい活動を大いに期待しています。</p>			
その他事項	「活動日誌」はボランティア活動終了後、すみやかに担当者まで提出してください。			

## 授業内容進行表

1 回	<ボランティア活動事前指導1> ボランティア活動の「意義」と「定義」
2 回	<ボランティア活動事前指導2> ボランティア活動に関する「事例」・「活動日誌」
3 回	ボランティア活動（各自）
4 回	ボランティア活動（各自）
5 回	ボランティア活動（各自）
6 回	ボランティア活動（各自）
7 回	ボランティア活動（各自）
8 回	ボランティア活動（各自）
9 回	ボランティア活動（各自）
10 回	ボランティア活動（各自）
11 回	ボランティア活動（各自）
12 回	ボランティア活動（各自）
13 回	<ボランティア活動事後指導1> ボランティア活動の「感想」と「反省」
14 回	<ボランティア活動事後指導2> ボランティア活動の「報告書」の作成
15 回	<ボランティア活動事後指導3> ボランティア活動の「報告書」の発表および「まとめ」
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
特別研究Ⅰ	1年・通年	演習	60時間 (2単位)	担当教員
実務経験の概要				
授業概要	<p>保育者に求められる資質、能力が身に付くような授業内容を展開します。学生各人の経験を大切にするために、4グループ（演劇・舞踊・人形劇・大型絵本）に分け、複数の教員が各グループを担当し、子どもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得します。さらに、学習の成果を地域の子どもたちに「こどもフェスタ」を通して上演し交流を図ります。また、土曜日に集中講義形式で学外での自然体験学習も行い保育者として資質を高めます。</p>			
授業科目の目的	<p>1年生と2年生が協働での実践体験、さらに自然体験により、下記の保育者に必要な力をつけることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得します。</li> <li>2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ります。</li> <li>3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培います。</li> <li>4. 1年生、2年生そして教員など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養います。</li> <li>5. 自然を全身で感じとる体験の中で、様々な事象に興味や関心を持ち、保育者として自然に対して、知識と関わり等、実践的な力を身につけます。</li> </ol>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができるようにします。(関心・意欲・態度)</li> <li>2. 企画から発表に向けた計画を立てると共に実践することができるようにします。(思考・判断)</li> <li>3. 自分の役割を踏まえて、責任感と協調性を持って授業に臨むことができるようにします。(協調性)</li> <li>4. 課題に沿った製作物等を作ったり、演技などで表現したりすることができるようにします。(製作物や演技などの内容や発表)</li> </ol>			
テキスト	必要に応じてプリントします。			
参考書	各グループで必要な参考書を紹介します。			
成績評価基準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関心・意欲・態度（授業態度や日々の課題に対する意欲・関心など）：25%</li> <li>2. 思考・判断（企画力・創造力・実践力など）：25%</li> <li>3. 協調性（協力・責任感など）：25%</li> <li>4. 製作物や演技など内容や発表（製作・表現・発表力など）：25%</li> </ol>			
受講の心構えとセッション	<p>各自の役割を責任をもって実行することと、一人ではできない役割を主体性をもって仲間とともに創り上げ、協調性を身に付けましょう。</p> <p>そして意欲的に取り組み表現することで、保育者としての基本的な技能・技術を身に付けましょう。</p> <p>自然体験を通して、五感を通して感じ、保育と自然環境について学びましょう。</p>			
その他事項	自然体験学習を集中講義形式（土曜日に実施予定）で行うため、授業進行計画が変わりますので留意すること。			

## 授業内容進行表

1 回	オリエンテーション グループ分け (Aグループ：演劇、Bグループ：舞踊、Cグループ：人形劇、Dグループ：大型絵本)	16 回	各グループ：進捗状況の確認と後期の課題 A・Bグループ：衣装・道具の製作9 C・Dグループ：製作9
2 回	各グループで活動計画の設定 A・Bグループ：演技・製作内容の検討 C・Dグループ：内容の検討1	17 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作10 C・Dグループ：製作10
3 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作1 C・Dグループ：製作1	18 回	秋の自然体験 (調理含) (集中講義：土曜日実施予定)
4 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作2 C・Dグループ：製作2	19 回	秋の自然体験 (調理含) (集中講義：土曜日実施予定)
5 回	春の自然体験 (調理含) (集中講義：土曜日実施予定)	20 回	A・Bグループ：実演練習1 C・Dグループ：練習1
6 回	春の自然体験 (調理含) (集中講義：土曜日実施予定)	21 回	A・Bグループ：実演練習2 C・Dグループ：練習2
7 回	春の自然体験 (調理含) (集中講義：土曜日実施予定)	22 回	A・Bグループ：実演練習3 C・Dグループ：練習3
8 回	春の自然体験 (調理含) (集中講義：土曜日実施予定)	23 回	A・Bグループ：実演練習4 C・Dグループ：練習4
9 回	春の自然体験 (調理含) (集中講義：土曜日実施予定)	24 回	A・Bグループ：実演練習5 C・Dグループ：練習5
10 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作3 C・Dグループ：製作3	25 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」 オープニング、エンディングの練習1
11 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作4 C・Dグループ：製作4	26 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」 オープニング、エンディングの練習2
12 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作5 C・Dグループ：製作5	27 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」 オープニング、エンディングの練習3
13 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作6 C・Eグループ：製作6 Dグループ：作品の準備、練習4	28 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」 上演リハーサル
14 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作7 C・Dグループ：製作7	29 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」 にて上演
15 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作8 C・Dグループ：製作8 A・B・C・Dグループ：前期の振り返り	30 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」 記録映像の鑑賞と反省会 (活動の振り返り) A・B・C・Dグループ：報告集づくり
		【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
特別研究Ⅱ	1年・後期	演習	30時間 (2単位)	担当教員
実務経験の概要				
授業概要	<p>保育者に求められる資質、能力が身に付くような授業内容を展開します。学生各人の経験を大切にするために、4グループ（演劇・舞踊・人形劇・大型絵本）に分け、複数の教員が各グループを担当し、子どもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得します。さらに、学習の成果を地域の子どもたちに「こどもフェスタ」を通して上演し交流を図ります。また、土曜日に集中講義形式で学外での自然体験学習も行い保育者として資質を高めます。</p> <p>※後期から「特別研究Ⅰ」の継続内容で行います。</p>			
授業科目の目的	<p>1年生と2年生が協働での実践体験、さらに自然体験により、下記の保育者に必要な力をつけることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得します。</li> <li>2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ります。</li> <li>3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培います。</li> <li>4. 1年生、2年生そして教員など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養います。</li> <li>5. 自然を全身で感じとる体験の中で、様々な事象に興味や関心を持ち、保育者として自然に対して、知識と関わり等、実践的な力を身につけます。</li> </ol>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができるようにします。(関心・意欲・態度)</li> <li>2. 企画から発表に向けた計画を立てると共に実践することができるようにします。(思考・判断)</li> <li>3. 自分の役割を踏まえて、責任感と協調性を持って授業に臨むことができるようにします。(協調性)</li> <li>4. 課題に沿った製作物等を作ったり、演技などで表現したりすることができるようにします。(製作物や演技などの内容や発表)</li> </ol>			
テキスト	必要に応じてプリントします。			
参考書	各グループで必要な参考書を紹介します。			
成績評価基準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関心・意欲・態度（授業態度や日々の課題に対する意欲・関心など）：25%</li> <li>2. 思考・判断（企画力・創造力・実践力など）：25%</li> <li>3. 協調性（協力・責任感など）：25%</li> <li>4. 製作物や演技など内容や発表（製作・表現・発表力など）：25%</li> </ol>			
受講の心構えとセー	<p>各自の役割を責任をもって実行することと、一人ではできない役割を主体性をもって仲間とともに創り上げ、協調性を身に付けましょう。</p> <p>そして意欲的に取り組み表現することで、保育者としての基本的な技能・技術を身に付けましょう。</p> <p>自然体験を通して、五感を通して感じ、保育と自然環境について学びましょう。</p>			
その他事項	自然体験学習を集中講義形式（土曜日に実施予定）で行うため、授業進行計画が変わりますので留意すること。			

## 授業内容進行表

1 回	各グループ：進捗状況の確認と後期の課題 A・Bグループ：衣装・道具の製作9 C・Dグループ：製作9
2 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作10 C・Dグループ：製作10
3 回	秋の自然体験（調理含） （集中講義：土曜日実施予定）
4 回	秋の自然体験（調理含） （集中講義：土曜日実施予定）
5 回	A・Bグループ：実演練習1 C・Dグループ：練習1
6 回	A・Bグループ：実演練習2 C・Dグループ：練習2
7 回	A・Bグループ：実演練習3 C・Dグループ：練習3
8 回	A・Bグループ：実演練習4 C・Dグループ：練習4
9 回	A・Bグループ：実演練習5 C・Dグループ：練習5
10 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習1
11 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習2
12 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習3
13 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」上演リハーサル
14 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」にて上演
15 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」記録映像の鑑賞と反省会（活動の振り返り） A・B・C・Dグループ：報告集づくり
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
特別研究Ⅲ	2年・通年	演習	60時間 (2単位)	担当教員
実務経験の概要				
授業概要	<p>保育者に求められる資質、能力が身に付くような授業内容を展開します。学生各人の経験を大切にするために、4グループ（演劇・舞踊・人形劇・大型絵本）に分け、複数の教員が各グループを担当し、子どもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得します。さらに、学習の成果を地域の子どもたちに「こどもフェスタ」を通して上演し交流を図ります。また、土曜日に集中講義形式で学外での自然体験学習も行い保育者として資質を高めます。</p>			
授業科目の目的	<p>1年生と2年生が協働で、また上級生として責任感を持った実践体験活動、さらに自然体験により、下記の保育者に必要な力をつけることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得します。</li> <li>2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ります。</li> <li>3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培います。</li> <li>4. 1年生、2年生そして教員など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養います。</li> <li>5. 自然を全身で感じとる体験の中で、様々な事象に興味や関心を持ち、保育者として自然に対して、知識と遊び等の実践的な力を身につけます。</li> </ol>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上級生として下級生を指導する立場で積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができるようにします。(関心・意欲・態度)</li> <li>2. 企画から発表に向けた計画を立てると共に実践することができるようにします。(思考・判断)</li> <li>3. 自分の役割を踏まえて、責任感と協調性を持って授業に臨むことができるようにします。(協調性)</li> <li>4. 課題に沿った製作物等を作ったり、演技などで表現したりすることができるようにします。(製作物や演技などの内容や発表)</li> </ol>			
テキスト	必要に応じてプリントします。			
参考書	各グループで必要な参考書を紹介します。			
成績評価基準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関心・意欲・態度（授業態度や日々の課題に対する意欲・関心など）：25%</li> <li>2. 思考・判断（企画力・創造力・実践力など）：25%</li> <li>3. 協調性（協力・責任感など）：25%</li> <li>4. 製作物や演技など内容や発表（製作・表現・発表力など）：25%</li> </ol>			
受講の心構えとメッセージ	<p>各自の役割を責任をもって実行することと、一人ではできない役割を主体性をもって仲間とともに創り上げ、協調性を身に付けましょう。</p> <p>そして、2年生として、また昨年度の経験者として、1年生を指導していく立場で意欲的に取り組み表現することで、保育者としての基本的な技能・技術を身に付けましょう。</p> <p>自然体験を通して、五感を通して感じ、保育と自然環境について学びましょう。</p>			
その他事項	自然体験学習を集中講義形式（土曜日に実施予定）で行うため、授業進行計画が変わりますので留意すること。			



## 授業内容進行表

1 回	オリエンテーション グループ分け (Aグループ：演劇、Bグループ：舞踊、Cグループ：人形劇、Dグループ：大型絵本)	16 回	各グループ：進捗状況の確認と後期の課題 A・Bグループ：衣装・道具の製作10 C・Dグループ：製作9
2 回	各グループで活動計画の設定 A・Bグループ：演技・製作内容の検討1 C・Dグループ：内容の検討1	17 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作11 C・Dグループ：製作10
3 回	A・Bグループ：演技・製作内容の検討2 C・Dグループ：内容の検討2	18 回	秋の自然体験 (調理含) (集中講義：土曜日実施予定)
4 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作1 C・Dグループ：内容の検討3	19 回	秋の自然体験 (調理含) (集中講義：土曜日実施予定)
5 回	春の自然体験 (調理含) (集中講義：土曜日実施予定)	20 回	A・Bグループ：実演練習1 C・Dグループ：練習1
6 回	春の自然体験 (調理含) (集中講義：土曜日実施予定)	21 回	A・Bグループ：実演練習2 C・Dグループ：練習2
7 回	春の自然体験 (調理含) (集中講義：土曜日実施予定)	22 回	A・Bグループ：実演練習3 C・Dグループ：練習3
8 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作2 C・Dグループ：製作1	23 回	A・Bグループ：実演練習4 C・Dグループ：練習4
9 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作3 C・Dグループ：製作2	24 回	A・Bグループ：実演練習5 C・Dグループ：練習5
10 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作4 C・Dグループ：製作3	25 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」 オープニング、エンディングの練習1
11 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作5 C・Dグループ：製作4	26 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」 オープニング、エンディングの練習2
12 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作6 C・Dグループ：製作5	27 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」 オープニング、エンディングの練習3
13 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作7 C・Dグループ：製作6	28 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」 上演リハーサル
14 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作8 C・Dグループ：製作7	29 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」 にて上演
15 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作9 C・Dグループ：製作8 A・B・C・Dグループ：前期の振り返り	30 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」 記録映像の鑑賞と反省会 (活動の振り返り) A・B・C・Dグループ：報告集づくり
		【定期試験】 有 ・ (無)	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
特別研究Ⅳ		2年・通年	演習	60時間 (2単位)	担 当 教 員
実務経験の概要					
授業概要	<p>保育者に求められる資質、能力が身に付くような授業内容を展開します。学生各人の経験を大切にするために、4グループ（演劇・舞踊・人形劇・大型絵本）に分け、複数の教員が各グループを担当し、子どもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得します。さらに、学習の成果を地域の子どもたちに「こどもフェスタ」を通して上演し交流を図ります。また、土曜日に集中講義形式で学外での自然体験学習も行い保育者として資質を高めます。</p> <p>※「特別研究Ⅲ」と継続した授業で効率を上げます。</p>				
授業科目の目的	<p>1年生と2年生が協働で、また上級生として責任感を持った実践体験活動、さらに自然体験により、下記の保育者に必要な力をつけることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得します。</li> <li>2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ります。</li> <li>3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培います。</li> <li>4. 1年生、2年生そして教員など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養います。</li> <li>5. 自然を全身で感じとる体験の中で、様々な事象に興味や関心を持ち、保育者として自然に対しての知識と関わり等の実践的な力を身につけます。</li> </ol>				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上級生として下級生を指導する立場で積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができるようにします。(関心・意欲・態度)</li> <li>2. 企画から発表に向けた計画を立てると共に実践することができるようにします。(思考・判断)</li> <li>3. 自分の役割を踏まえて、責任感と協調性を持って授業に臨むことができるようにします。(協調性)</li> <li>4. 課題に沿った製作物等を作ったり、演技などで表現したりすることができるようにします。(製作物や演技などの内容や発表)</li> </ol>				
テキスト	必要に応じてプリントします。				
参考書	各グループで必要な参考書を紹介します。				
成績評価基準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関心・意欲・態度（授業態度や日々の課題に対する意欲・関心など）：25%</li> <li>2. 思考・判断（企画力・創造力・実践力など）：25%</li> <li>3. 協調性（協力・責任感など）：25%</li> <li>4. 製作物や演技など内容や発表（製作・表現・発表力など）：25%</li> </ol>				
受講の心構えとセージ	<p>各自の役割を責任をもって実行することと、一人ではできない役割を主体性をもって仲間とともに創り上げ、協調性を身に付けましょう。</p> <p>そして、2年生として、また昨年度の経験者として、1年生を指導していく立場で意欲的に取り組み表現することで、保育者としての基本的な技能・技術を身に付けましょう。</p> <p>自然体験を通して、五感を通して感じ、保育と自然環境について学びましょう。</p>				
その他事項	自然体験学習を集中講義形式（土曜日に実施予定）で行うため、授業進行計画が変わりますので留意すること。				

## 授業内容進行表

1 回	オリエンテーション グループ分け (Aグループ：演劇、Bグループ：舞踊、Cグループ：人形劇、Dグループ：大型絵本)	16 回	各グループ：進捗状況の確認と後期の課題 A・Bグループ：衣装・道具の製作10 C・Dグループ：製作9
2 回	各グループで活動計画の設定 A・Bグループ：演技・製作内容の検討1 C・Dグループ：内容の検討1	17 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作11 C・Dグループ：製作10
3 回	A・Bグループ：演技・製作内容の検討2 C・Dグループ：内容の検討2	18 回	秋の自然体験 (調理含) (集中講義：土曜日実施予定)
4 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作1 C・Dグループ：内容の検討3	19 回	秋の自然体験 (調理含) (集中講義：土曜日実施予定)
5 回	春の自然体験 (調理含) (集中講義：土曜日実施予定)	20 回	A・Bグループ：実演練習1 C・Dグループ：練習1
6 回	春の自然体験 (調理含) (集中講義：土曜日実施予定)	21 回	A・Bグループ：実演練習2 C・Dグループ：練習2
7 回	春の自然体験 (調理含) (集中講義：土曜日実施予定)	22 回	A・Bグループ：実演練習3 C・Dグループ：練習3
8 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作2 C・Dグループ：製作1	23 回	A・Bグループ：実演練習4 C・Dグループ：練習4
9 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作3 C・Dグループ：製作2	24 回	A・Bグループ：実演練習5 C・Dグループ：練習5
10 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作4 C・Dグループ：製作3	25 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」 オープニング、エンディングの練習1
11 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作5 C・Dグループ：製作4	26 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」 オープニング、エンディングの練習2
12 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作6 C・Dグループ：製作5	27 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」 オープニング、エンディングの練習3
13 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作7 C・Dグループ：製作6	28 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」 上演リハーサル
14 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作8 C・Dグループ：製作7	29 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」 にて上演
15 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作9 C・Dグループ：製作8 A・B・C・Dグループ：前期の振り返り	30 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ」 記録映像の鑑賞と反省会 (活動の振り返り) A・B・C・Dグループ：報告集づくり
		【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教 職 論	1年・前期 2年・前期	講義	30時間 (2単位)	原 田 敬 文
実務経験の概要				
授 業 概 要	<p>本授業は望ましい教職者（保育者）とは何かを希求し、その実現のために何を学び、理解し、身に付けなければならないかを主要なテーマとします。</p> <p>具体的な授業の内容は、教職者の資質、専門性、制度的位置付け、子ども理解、教職の内容と遊び、計画と相互的な指導、援助の在り方、教職者間の協働、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関・小学校との連携などでです。理論に基づいた実践、実践で確かめレベルアップされた教職理論の理解を深め、教職者としての意欲、態度、自覚を高める授業を展開します。</p>			
授 業 科 目 の 目 的	<p>現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職（保育）の意義、教職者（保育者）の役割・資質能力・職務内容等についての理解を深めます。さらに、教職（保育）は、子どもの成長発達に指導、援助する仕事であることを理解し、教育（保育）への課題に関心を持ち、授業に関わる専門性について学ぶとともに、あるべき教育（保育）のビジョンを明確にすることを主要なテーマにし、自分が目指す教職者像の確立を図ります。</p>			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職者（保育者）の役割と倫理について理解することができるようになります。</li> <li>2. 教職者（保育者）の専門性について理解することができるようになります。</li> <li>3. 幼児の発達と成長について理解することができるようになります。</li> <li>4. 教育・保育の目標・ねらい・内容について理解することができるようになります。</li> <li>5. 教育・保育の法的、制度的な位置づけについて理解することができるようになります。</li> <li>6. 家庭や小学校との連携について理解することができるようになります。</li> </ol>			
テ キ ス ト	教職論／豊岡短期大学			
参 考 書	<p>幼稚園教育要領解説（最新版）／フレーベル館</p> <p>保育所保育指針解説（最新版）／フレーベル館</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／フレーベル館</p>			
成 績 評 価 基 準	授業態度10%、レポート30%、定期試験60%により総合的に評価します。			
メ ッ ク の セ ー ジ ト	<p>本授業では、教職者（保育者）に求められる素質を中心に学ぶこととなります。この学びは、これから教育現場、保育現場で働く皆さんにとって、習得しておかなければならないことばかりです。</p> <p>また、本授業では、みなさんの考えを求めることも多くあります。自分の考えを整理して、わかりやすく伝えられるよう取り組んでください。</p> <p>みなさんが、本学を卒業する時は、「守られる人から守る人」へ変容できるように、覚悟を決めて学習しましょう。</p>			
の そ の 他	授業で配布するプリント類は、各自ファイルしておくこと。			

## 授業内容進行表

1 回	教職（保育）の意義・定義・教職者（保育者）とは何か
2 回	教職者（保育者）に求められる資質・能力
3 回	教職者（保育者）養成の歴史
4 回	教職者（保育者）の資質と役割
5 回	指導計画（保育のねらい・内容）
6 回	教職者（保育者）の仕事・義務・研修
7 回	教職者（保育者）の職場環境
8 回	教職者の制度的な位置付け
9 回	教職者の任用と服務
10 回	教育（保育）現場におけるこどもとの関わり（あそび・環境）
11 回	教育（保育）現場における家庭との連携・支援、地域との連携
12 回	教職（保育）観の変遷と教員（保育者）の役割
13 回	職員間の連携、保育園、幼稚園、小学校との連携（接続カリキュラム）
14 回	今日的な教育課題に対応するために（「チーム学校」等）
15 回	よい教職者（保育者）になるために（教育実習への心構え）
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
教 育 原 理		1 年・前期	講義	30時間 (2 単位)	稲 田 達 也
実務経験の概要					
授業概要	教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶことにより、どのように教育及び学校が生まれ、変遷してきたかを理解します。また、現代の学校教育に関する社会的及び制度的な仕組みを学ぶことにより、学校と地域の連携及び学校安全に関する意義や必要性を理解します。				
授業科目の目的	教育の思想とその作用、また我が国の教育制度・理念・歴史について学ぶことにより、教育の課題と可能性についての理解を深めること及び学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目標とします。				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 我が国の教育制度の歴史、理念を理解することができるようにします。</li> <li>2. 保育・教育の法制度、教育課程、教育方法についての基礎知識を習得することができるようにします。</li> <li>3. 保育・教育の課題と可能性について、自らの考えを伝えることができるようにします。</li> <li>4. 教育に関する現代的課題とその解決のための取り組みについて理解することができるようにします。</li> </ol>				
テキスト	教育原理～保育・教育の現場をよりよくするために～/石上浩美・矢野正 編著/嵯峨野書院/2018年				
参考書	幼児学用語集/小田 豊等監修/北大路書房/2013年 幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレーベル館 保育所保育指針解説書/厚生労働省/フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説書/フレーベル館				
成績評価基準	試験 (60%)、レポート (25%)、講義への参加の態度等 (15%) により総合的に評価する。				
受講の心構えとメッセージ	本授業では、保育・教育現場の基本的知識については講義形式で行いますが、保育・教育の今日的課題、今後の展望については、ディスカッションを多く取り入れます。 常に新聞やニュースなどをみて、保育や教育現場の動向にアンテナをはっておいてください。 学習内容に漏れが生じないように、予習・復習についても積極的に学習に取り組むようにしてください。				
その他事項	授業で配布するプリント類は、各自ファイルしておくこと。				

## 授業内容進行表

1 回	教育、教育原理の意義・目的・特性とこども家庭福祉等との関連性
2 回	世界の教育思想①ソクラテス～ルソーの思想・実践
3 回	世界の教育思想②ヘルバルト～デューイの思想・実践
4 回	日本の教育思想
5 回	子どもの発達と教育
6 回	子どもの権利
7 回	制度から見る保育所、幼稚園、認定こども園
8 回	内容から見る保育所、幼稚園、認定こども園
9 回	世界における教育の歴史の変遷
10 回	日本における教育の歴史の変遷
11 回	公教育制度、義務教育制度
12 回	教師という仕事、教授法
13 回	教育における今日的課題①学習指導要領の改訂に伴う幼児教育の変化
14 回	教育における今日的課題②危機・安全管理カリキュラム、アクティブラーニング
15 回	教育における今日的課題③学校外との連携
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
教育心理学		1年・後期	演習	30時間 (2単位)	野口和也
実務経験の概要					
授業概要	<p>教育心理学における発達と学習の領域を中心に、「教えること」「育てること」に関する心理学的な考え方を紹介する。「発達」では、幼児、児童期までの発達の特徴や遊びを通じた変化について、「学習」では、実験を基礎とした学習理論や、実際の教育現場での指導・評価の方法について解説する。現代に生きる子どもたちの保育・教育に関して心理学的な観点から考察を深めながら、基礎的知識とともに専門職業人として教育実践、発達援助に活かしていける力を身に付けていく。</p>				
授業科目の目的	<p>教育心理学は、教育や人の発達について心理学的に理解していく心理学のひとつの領域です。発達、学習・教授、性格、適応、測定・評価など教育心理学の基礎的知識の習得することを目指します。また、現代に生きる子どもたちの保育・教育に関して心理学の観点から考察を深めながら、基本的な知識をもとに専門家として保育実践、発達援助に生かしていける力量の担保を目的とします。</p>				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達の理解の意義を理解し説明することができるようにします。</li> <li>2. 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解し説明することができるようにします。</li> <li>3. 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解することができるようにします。</li> <li>4. 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解し説明することができるようにします。</li> <li>5. 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を説明することができるようにします。</li> </ol>				
テキスト	<p>随時配付します。</p>				
参考書	<p>幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館  幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館  保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館  保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館  幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館  幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館  学びと教えで育つ心理学－教育心理学入門－／小林芳郎編著／保育出版社／2011年</p>				
成績評価基準	<p>授業態度10%、レポート30%、定期試験60%により総合的に数量化して評価します。</p>				
受講の心構えとメッセージ	<p>子ども達が「学ぶこと」、そして「教えること」「育てること」は、「保育」「教育」に携わる人々にとって、とても身近でとても重要な活動になります。ぜひ、一緒に一歩ずつ、考えていければと思います。</p> <p>また、教育心理学で皆さんが学ぶ事柄は、日々の生活の中にも多くのことが含まれています。しっかりと実感を持ちながら、学んでほしいと願っています。</p> <p>保育・教育に限らず人生にきっと役立つことも含まれているはずで、毎回指示していく予習・復習に取り組み、実践に結びつく生きた知識を得てほしいと心から期待しています。</p>				
その他					



## 授業内容進行表

1 回	<p>&lt;教育心理学を学ぶ意義とは&gt; 教育心理学における発達、学習、適応、評価と測定／教育心理学の四大領域を学ぶ意義</p>
2 回	<p>&lt;生まれ育つとその理解とは&gt; 生涯発達心理学の概念／各段階における発達の特徴（言語、運動、認知、社会発達）</p>
3 回	<p>&lt;学びとる仕組みとは&gt; 連合説と認知説／様々な学習理論の応用</p>
4 回	<p>&lt;主体的な学びを支える「やる気」とは&gt; 内発的動機付けと外発的動機付け／学習性無力感と自己効力感</p>
5 回	<p>&lt;集団での学びとりとその評価とは&gt; 学習指導の形態／評価の仕方とその意義</p>
6 回	<p>&lt;動機付けからみる発見学習の仕組みとは&gt; 発見学習の手続き／発見学習により動機付けが高まる理由</p>
7 回	<p>&lt;教育心理学に基づく保育実践とは&gt; 発達に応じた保育援助</p>
8 回	<p>&lt;発達課題に応じたかかわりとは&gt; 各段階の発達の特徴／エリクソンの発達課題</p>
9 回	<p>&lt;子どもから大人の頭を使って考えるとは&gt; ピアジェの認知発達理論／思考発達段階ごとの特徴</p>
10 回	<p>&lt;学びを支える頭に入れる、覚えるとは&gt; 感覚記憶、短期記憶、長期記憶／単純記憶から複雑記憶への変化</p>
11 回	<p>&lt;子どもの学び育ちの姿とは&gt; 日常生活からみる学習の理論／オペラント条件付けを利用した保育実践</p>
12 回	<p>&lt;子どものやる気を引き出す指導の在り方&gt; 指導者の態度（ピグマリオン効果）／様々な学びの形態とその効果</p>
13 回	<p>&lt;子どもの遊びの重要性とは&gt; 遊びの変化／遊びを通した社会性の発達</p>
14 回	<p>&lt;子どもと道徳性と思いやりの育成とは&gt; 幼児期に迎える第一次反抗期と自立／道徳の指導方法</p>
15 回	<p>&lt;教育心理学を用いた環境づくりとは&gt; 子どもの学び育ちを見つめる確かな目／環境との相互作用で育む子ども</p>
<p>【定期試験】 (有) ・ 無</p>	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
発達心理学		1年・前期	講義	30時間 (2単位)	野口和也
実務経験の概要					
授業概要	はじめに、「心理学」とはどのような学問であるかを理解するところから始めていきます。生涯発達という視点に立ち、こころとからだ、ことば、考える力などの発達を学び、加えて保育実践を行う上で重要な話題を取り上げながら学びを深めていきます。また、子どもたちひとり一人に寄り添う、より良い保育を提供するために、子どもへの支援・援助、保育計画についても解説します。				
授業科目の目的	<p>保育において心理学という学問を扱う意味はどのようなものであるか、この授業では保育者として専門活動をする者として、心理学を学ぶ意義について理解していきます。</p> <p>発達心理学では、子どもと取り巻く環境との密接な相互のかかわりを通じて、発達が進んでいくことを理解することが要となります。そのために心理学における人や行動、ものの見方、考え方を学ぶことが目的となります。</p> <p>保育者として発達に見合った適切かつ確かな保育を行うために、生涯にわたり続いていくという観点から人間の発達の過程と特徴について理解していきます。</p>				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育にかかわる心理学の知識を習得し、保育実践と関連づけることができるようにします。</li> <li>2. 心理学的な理解を行うために人、行動、ものの見方、考え方を学び、それらを基礎として、子どもの発達を論じることができるようにします。</li> <li>3. 生涯発達の観点から、誕生から死までの人間の発達における人との相互作用の重要性について理解し説明することができるようにします。</li> </ol>				
テキスト	随時、配付します。				
参考書	<p>幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館</p> <p>幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館</p> <p>保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館</p> <p>保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p> <p>保育の心理学Ⅰ／柳生崇志・梅崎高行編著／大学図書出版／2013年</p>				
成績評価基準	授業態度10%、レポート30%、定期試験60%により総合的に数量化して評価します。				
受講の心構えとメッセージ	<p>発達心理学は、私たち誰もが歩んできた人生と重なり関係する話題が多く含まれる授業になります。そして、心理学という人のこころを学ぶ学問では、自分自身を振り返り考えを巡らし、“確かな学びを得る”ことが“かんじんかなめ”となります。</p> <p>授業では、私たち人の発達に関する、知識とともに各段階での特徴を提供していきます。幼少の頃などを思い返し、その時の感覚も再現させながら、一緒に学んでいきましょう。確かな学びの獲得に向けて、その都度、伝えていく予習・復習にしっかり取り組むことを忘れずに行ってください。</p>				
その他					

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 発達心理学とは／子どもを理解するとは
2 回	<保育と心理学> 保育における心理学の位置づけ／発達観
3 回	<初期経験の重要性> 子どもの育ち、気質と環境／文化
4 回	<基本的信頼感の獲得> 愛着とはなにか ホスピタリズム／愛着の発達と分類
5 回	<発達とは何か1> 誕生から乳幼児期まで
6 回	<発達とは何か2> 児童期から老年期まで
7 回	<生涯発達の諸理論> 心理社会的発達理論／発達課題
8 回	<こころの育ち1> 情動の発達と自我
9 回	<こころの育ち2> 自己の表出とこころの理論の発達
10 回	<からだの育ち> 身体発育／原始反射からはじまる運動発達
11 回	<考える力の育ち> ピアジェの認知発達理論／同化・調整・表象・操作
12 回	<ことばの育ち> 喃語・幼児語・共同注視と言語発達の臨界期
13 回	<発達心理学と教育学の関連> 子どものニーズの発見から学校適応
14 回	<保育実践の評価と心理学> 発達の最近接領域／発達段階の理解による計画・実践
15 回	<まとめ> 人の育ちと環境との相互作用の意義／振り返りから自分自身の発達を捉える
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと文化	1年・後期	演習	30時間 (2単位)	渡 瀬 茂
実務経験の概要				
授業概要	<p>時代の変化とともに、私たちの身のまわりからも、子どもたちのまわりからも、昔から親しまれてきた文化や行事が失われつつあります。しかし、現在の教育基本法では伝統と文化を尊ぶことが求められており、我が国と郷土も大切にすることが求められています。また、実際の教育でも、「伝統的な文化」を学ぶことが重視されています。この授業（演習）を通して、わたしたちの「伝統的な文化」を見つめ直したいと思います。</p>			
授業科目の目的	<p>この授業（演習）では、日本の伝統的な文化を学ぶとともに、子どもたちと関係の深い行事などを学び、子どもたちに親しまれてきた神話や伝説の物語を学びます。さらに、これらの行事や物語の背後にある、古代の日本や中国の人びとの考え方についても学びます。</p> <p>「古事記」や「竹取物語」に記された神話や伝説、物語は日本人に親しまれ、子どもたちにも絵本として親しまれてきました。このような物語を学ぶことが目的となります。</p> <p>日本の文化は季節の変化に敏感だと言われます。古来の日本人がどのように季節をとらえてきたのか、それがどのように表現されたのかを学び、現在の暦と昔の暦の違いを理解することも目的となります。</p> <p>また、季節は年中行事と深いかわりがあります。年中行事にはどのようなものがあり、どのような由来があるのかを学ぶことも目的となります。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的な神話や伝説、物語について知識があり、どのようなものかの説明することができるようになります。</li> <li>2. 日本の文化と季節の関係について理解しており、新暦と旧暦の違いを説明することができるようになります。</li> <li>3. 年中行事を理解するとともに、その由来についての知識があり、説明することができるようになります。</li> </ol>			
テキスト	授業時にプリントを配布する。			
参考書	保育所保育指針解説／フレーベル館			
成績評価基準	定期試験50%、発表と提出物40%、授業態度10%により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>この授業では、適宜に発表や絵本の読み聞かせなどを行います。積極的に参加してほしいと思います。また、提出物を課しますが、必ず提出してください。</p> <p>なお、発表資料の作成のために、カラーマーカー（廉価なもので良い）を用意してください。</p> <p>年中行事については、予習として各自のこども時代の記憶を思い出すことを求めることがあります。</p>			
その他事項	1回目の授業時に「保育所保育指針」を持ってきてください。			

## 授業内容進行表

1 回	<導入> 学校教育法と日本の伝統的な文化
2 回	<神話(1)> 国のはじまり
3 回	<神話(2)> すさのおとやまたのおろち
4 回	<神話(3)> おおくにぬしといなばのしろうさぎ
5 回	<神話(4)> うみさち・やまさち
6 回	<伝説> 古代の伝説・地域の伝説
7 回	<日本の四季> 四季と短歌・俳句
8 回	<五節句(1)> 桃の節句・端午の節句
9 回	<五節句(2)・中秋> たなばた お月見とかぐや姫
10 回	<かるた(1)> いろはかるた
11 回	<かるた(2)> かるた取り 百人一首かるた
12 回	<えと> 千支と十二支
13 回	<正月> お正月とお雑煮
14 回	<二十四節気> 節分と土用
15 回	<まとめ> 全体のまとめ
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育課程論	1年・前期 2年・前期	講義	30時間 (2単位)	宿南久美子
実務経験の概要	・幼稚園に40年間勤務した実務経験があります。 その間、クラス担任(30年)、教育委員会(4年)、園長(6年)に従事。			
授業概要	教育課程・保育課程とは、幼稚園・保育所・認定こども園が、何(教育・保育目標)を大切に、どのような方法(教育・保育方針)で、どのように(教育・保育内容)を、どの時期(教育・保育期間)にしていくかという全体計画であり、保育の羅針盤ともいえるものです。幼児教育・保育における教育課程・保育課程の意義と役割を明らかにしていきます。			
授業科目の目的	幼児教育・保育を理解するための基礎的・基本的な理念をしっかりと捉え、教育課程・保育課程とは何か、なぜ必要であるか、またどのような要素から構成されているのかを理解することを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育内容の充実と質の向上に資する教育課程・保育課程について理解することができるようにします。</li> <li>2. 教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について、具体的に習得することができるようにします。</li> <li>3. 編成・実践・点検・評価・改善の過程について、その全体構造を動的にとらえ理解することができるようにします。</li> <li>4. 保護者や関係機関との連携について学ぶことができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	必要に応じてプリントを配付します。			
参考書	幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館			
成績評価基準	授業態度・意欲30%、課題・レポート10%、定期試験60%により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	教育課程・保育課程は、教育・保育のあり方や内容を定めるものです。保育者としての意識をより高めるよう予習・復習を心がけるとともに、積極的・主体的な授業参加をしてください。			
その他事項	常に、「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を利用します。			

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 教育課程・保育課程編成の基本的な考え方
2 回	<教育（保育）課程の基礎理論> 教育（保育）課程の意義と必要性
3 回	<教育（保育）課程の構造> 教育（保育）課程編成の前提・基盤
4 回	<幼稚園の教育課程> 時代の変化に対応した幼稚園の教育課程の在り方・編成・評価
5 回	<保育所の保育課程> 保育課程の基本
6 回	<保育所保育の特性を踏まえて> 3歳未満児の発達と保育内容
7 回	<長期の指導計画> 園生活と長期の指導計画
8 回	<短期の指導計画> 短期指導計画の意義・作成・活用
9 回	<保育の計画と評価> 保育の実践と観点表
10 回	<幼・保・小連携カリキュラム> 学びをつなぐ幼・保・小連携のカリキュラム
11 回	<開かれた園生活のカリキュラム> 幼稚園を開く・拓く・幼稚園教育を啓く
12 回	<危機管理保育のカリキュラム> 危機管理保育カリキュラムの意義と必要性
13 回	<時代の変化と新たな保育内容 1> 多文化保育のカリキュラム
14 回	<時代の変化と新たな保育内容 2> 信頼される園づくりと学校評議員制度
15 回	<時代の変化と新たな保育内容 3> 育みたい資質・能力 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育内容総論	1年・前期	演習	30時間 (1単位)	宿南久美子
実務経験の概要	<p>・幼稚園に40年間勤務した実務経験があります。 その間、クラス担任(30年)、教育委員会(4年)、園長(6年)に従事。</p>			
授業概要	<p>保育内容総論は、領域別の授業で学んだ内容を、実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解します。 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な実践事例をもとに解説し、受講生が自分の意見を発表したり課題レポートを作成したりする場、またグループ討議の場を大切にしたいと考えています。</p>			
授業科目の目的	<p>保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「育ってほしい10の姿」と「保育の内容」の関連を理解することができるようにします。</li> <li>2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解することができるようにします。</li> <li>3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育内容の歴史の変遷を踏まえ、保育内容の基本的考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解することができるようにします。</li> <li>4. 保育の多様な展開について具体的に理解することができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	保育内容総論／豊岡短期大学			
参考書	<p>幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館  保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館  幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>			
成績評価基準	授業態度30%、課題・レポート等提出物10%、定期試験60%により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>各領域別の授業で学んできたことを、実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて考えてみましょう。グループ協議なども行います。皆さんの積極的な参加を望みます。</p>			
その他事項	<p>常に、「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を利用します。毎回忘れずに持参してください。</p>			



## 授業内容進行表

1 回	＜オリエンテーション・保育の基本と保育内容＞ 保育の基本及び保育の全体構造と保育内容の理解
2 回	＜保育内容の歴史的変遷＞ 明治・大正・昭和・平成の保育内容の変遷と今後の課題
3 回	＜改訂（定）された保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容のとらえ方＞
4 回	＜全体的な計画の作成と指導計画の作成 1＞ 全体的な計画の作成
5 回	＜全体的な計画の作成と指導計画の作成 2＞ 指導計画の作成手順と配慮
6 回	＜保育の評価と保育の記録 1＞ 子ども理解に基づく評価
7 回	＜保育の評価と保育の記録 2＞ 観察記録を書く意味と子ども理解
8 回	＜保育の基本を踏まえた保育内容の展開＞ 養護と教育が一体的に展開する保育
9 回	＜生きる力の基礎を育む保育内容 1＞ 環境を通して行う保育
10 回	＜生きる力の基礎を育む保育内容 2＞ 遊びによる総合的な保育
11 回	＜乳幼児期にふさわしい生活と保育内容＞ 園行事の意味と在り方
12 回	＜保育内容の現代的課題 1＞ 子育て支援の在り方
13 回	＜保育内容の現代的課題 2＞ 特別な配慮必要とする子どもに対する支援
14 回	＜小学校との接続 1＞ 保幼小の円滑な連携
15 回	＜小学校との接続 2＞ 保育の基本と幼児期に育みたい資質・能力 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの指導法「人間関係」	1年・後期	演習	15時間 (1単位)	原田敬文
実務経験の概要				
授業概要	<p>こどもたちを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりとおした人間関係の発達について実践のエピソードを取り上げ解説していく。</p> <p>また、保育者としてどのようにこどもの人とのかかわりを育てていくのか、保育者としてこどもとどのような関係性を築いていくのか、こども－養育者、こども－保育者、保育者－養育者、さらには保育者－保育者という様々な関係性について考察していく。</p>			
授業科目の目的	<p>近年わが国では、急速な情報化の進展によりインターネットや携帯電話等を利用した多様なコミュニケーションが頻繁になされるようになった。反面、かつて家庭や地域社会にあった対面での相互交流とおした豊かな人間関係を築いていく基盤が失われつつある。</p> <p>「ヒト」は人と人との豊かなかかわりをもてるようになることで「人間」になっていく。こどもたちが、人的物的環境にかかわり、主体的に活動をすることや、互いに支え合って生活をしていくことに喜びや充実感を感じるために、保育者の適切な援助方法や「人間関係」についての基礎の習得を目的とする。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取り扱いについて説明することができますようにします。</li> <li>2. 人間関係の発達や自立心・道徳性の発達など子どもを深く理解し、保育実践に応用することができますようにします。</li> <li>3. 養育者・保育者・地域の人々など、子どもを取り巻く人的環境における関係性について考察することができますようにします。</li> </ol>			
テキスト	授業中に適宜プリントを配付します。			
参考書	幼稚園教育要領解説（最新版）／フレーベル館 保育所保育指針解説（最新版）／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）／フレーベル館			
成績評価基準	定期試験（60％）、レポート（25％）、講義への参加の態度等（15％）により総合的に評価します。			
受講の心構えとセージ	<p>こどもの人間関係を学ぶには、普段からこどもの人間関係を観察し、記録にまとめておく必要があります。授業では、これらの事例をもとに授業を進めます。</p> <p>普段から、予習・復習を心掛け、常に学ぶ姿勢を持ち続けておいてください。</p>			
その他	授業で配布する資料は、各自ファイルに綴じておくこと。			

## 授業内容進行表

1 回	領域「人間関係」 ねらいと内容及びその取扱い ・ 保育者としての役割
2 回	保育者としての環境作りと評価 こどもの人間関係を見つめる目と環境設定（情報機器含む） 保育構想と指導案（模擬保育）
3 回	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助① 対人意識、自己概念の発達 自己理解と他者理解を支える保育者の工夫
4 回	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助② 個と集団の育ちの姿 ・ こどもの心の拠り所である保育者の工夫
5 回	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助③ 人とかかわりとこどもの心の揺れ動きを支える保育者の工夫 集団におけるこども同士の芽生え、調和を支える保育者の工夫
6 回	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助④ こどもの自己発揮・自己抑制を支える保育者の工夫 こどもの大切な育ちを捉える保育者の視点
7 回	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助⑤ こども同士を結び付ける保育者の遊びの役割 こども同士を結び付ける遊びの保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育）
8 回	地域の人々との多様なかかわりを導く保育計画及び小学校との交流を導く保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育）
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもの指導法「言葉」		1年・後期	演習	15時間 (1単位)	和田典子
実務経験の概要					
授業概要	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、言葉を育む保育者の言葉のあり方、関わり方などについて学習を深めるとともに、日本語の持つ美しさ、伝統の豊かさを知り、言語教材に生かす方法を学びます。乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探求します。				
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児期の言葉がどのような過程を経て獲得されるのかを学び、人とのふれ合いや環境をふまえ、より良い発達のための関わりを考察します。</li> <li>2. 子ども自らが言葉を発することの意味を保育者、友達、保護者との関係から認識し理解します。</li> <li>3. 乳幼児期の言葉を育む児童文化財（絵本・紙芝居・シアター類・お話し・言葉遊び・文字体験）などの特色や扱いを学びます。</li> <li>4. 子どもの表現や行動に表れる心情や思考をくみ取り、より良い発達をサポートできる方法を学びます。</li> <li>5. 言葉の障がい、外国にゆかりのある子どもについて問題点を認識し、配慮、支援のあり方を理解します。</li> </ol>				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児期の言葉の発達過程を学び、簡単に説明できるようにします。</li> <li>2. 子どもが経験したことや考えたことを楽しく会話し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育てるための関わり合い方を理解することができるようにします。</li> <li>3. 子どもが生活や遊びを通して、日本語の美しさや伝統の豊かさを感じ取れるようにする工夫を保育に生かせるようにします。</li> <li>4. 子どもの豊かな言葉を育む文化財の特色を知り、それらの用い方を理解し、実演することができるようにします。</li> <li>5. 言葉に問題があったり、遅れがあったりする幼児、また外国にゆかりのある子ども等について理解を深め、個々に応じた配慮、支援があることを知ります。</li> </ol>				
テキスト	新時代の保育双書 保育内容ことば 第3版/赤羽根有里子 編/みらい/2,000円+税 保育所保育指針（最新版）/厚生労働省/フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーベル館 幼稚園教育要領（最新版）/文部科学省/フレーベル館				
参考書	事例で学ぶ保育内容 領域言葉/無藤隆監修 宮里暁美編/萌林書林 保育所保育指針解説書（最新版）/厚生労働省/フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）/内閣府・文部科学省・厚生労働省/フレーベル館 幼稚園教育要領解説（最新版）/文部科学省/フレーベル館				
成績評価基準	定期試験50%、授業・課題、提出物に取り組む姿勢20%、提出物・実践30%により総合的に評価します。				
受講の心構えとメッセージ	言語獲得期の子どもにとって、そのモデルとなる保育者の言葉への感覚や表現は、極めて重大です。あなた自身が、日本語の美しさ、伝統の豊かさを知り、感性を磨くことが大切です。そして、子どもたちが心から会話を楽しみ、相手の話を聞こうとする意欲や態度を育み、それぞれの個性の違いに気づけるような心を育むにはどうすれば良いか考えてみてください。また、言葉を育む文化財を演じる時は、心から楽しんでください。積極的な授業参加を望みます。				
その他	授業の進行に関して、都合により入れ替えることがあります。				

## 授業内容進行表

1 回	<p>&lt;幼児教育と言葉&gt; 言葉とは何か。人間とことば。乳幼児期の言葉の発達と保育者の役割 領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり 生活と言葉（聞く、話す、読む、書く）、言葉環境としての保育者の言葉のあり方</p>
2 回	<p>&lt;乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価&gt; 領域「言葉」指導上の留意点と評価 0歳～5歳における言葉の発達、6歳の就学に向けた取り組み</p>
3 回	<p>&lt;言葉を豊かに育む活動(1)&gt; 言葉遊びに関する教材の活用（情報機器を利用した活用例の紹介を含む） わらべうた、なぞなぞ、しりとり、ごっこ遊び、劇遊び等、言葉遊びによる指導案作成 及び模擬保育体験と振り返り</p>
4 回	<p>&lt;言葉を豊かに育む活動(2)&gt; 言葉から文字へ、文字による環境 文字体験としてのカルタ・双六・絵カード等の制作（情報機器活用による制作例の紹介を含む） 及び模擬保育体験と振り返り</p>
5 回	<p>&lt;保育者と言葉のあり方&gt; 言葉の遅れや障がいをもつ乳幼児の捉え方と支援 外国の子どもとの対応</p>
6 回	<p>&lt;言葉を豊かに育む活動(3)&gt; 言語教材としての絵本の意義 絵本と、デジタル教材と保育現場の実際及び言語教材を用いた指導案について</p>
7 回	<p>&lt;言葉を豊かに育む活動(4)&gt; 絵本、お話等の指導法と情報機器の利用について 絵本、お話等の実践による指導案作成及び模擬保育体験と振り返り</p>
8 回	<p>&lt;言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携&gt; 学習のまとめ</p>
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
<p>【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無</p>	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもの指導法「リズム表現」		1年・前期	演習	15時間 (1単位)	茨 木 金 吾
実務経験の概要					
授業概要	<p>幼児にとって、音楽と身体は自己表現と切り離せないほど密接な関係にあります。本授業では幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を学習していきます。さらに、小学校以降の教科とのつながりを見通した授業構想を指導案作成と共に実践できるよう、指導援助者としてのあるべき姿を追求していきます。</p>				
授業科目の目的	<p>保育内容を理解し、表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とします。また、こどもの表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識をも併せて修得していきます。さらに、表現に関する知識や保育技術の修得と、実践を通じた感性や人間力の育成を目指します。</p>				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育要領、保育所指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」(特にリズム表現(含む身体表現))の位置づけと設定が理解できるようにします。</li> <li>2. 基礎リズムパターン(歩く、走る、スキップ、ギャロップなど)の理解とその指導法が習得できるようにします。</li> <li>3. 幼児のイメージを豊かにする指導法の実践を通して、それに必要な知識や技術が習得できるようにします。</li> <li>4. 童謡やわらべうた、動作カードを活用した多様な振付の実践及び手作り楽器の製作と活用を通して、幼児の表現したい気持ちを育む指導法が習得できるようにします。</li> <li>5. 領域「表現」と小学校教科等とのつながりが理解できるようにします。</li> <li>6. 模擬保育の実践を通して、保育構想を発展させることができるようになります。</li> <li>7. 表現への意欲と喜びを育むリズム遊びのあり方が実践を通して習得できるようにします。</li> </ol>				
テキスト	<p>たのしく遊べるこどものうた[改訂版]／大山美和子・田中常雄・磯貝静江・茨木金吾著／すずき出版  幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館  幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館  保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館  保育所保育指針解説書(厚生労働省、フレーベル館)  幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>				
参考書	<p>こどものうた [簡易伴奏曲付] / 田中常雄監修 平島美保・木村鈴代・小杉裕子編著 / 圭文社  楽しく遊べる子どもの音楽表現 手あそび・指あそび・歌あそび・絵かきうた / 田中常雄監修 茨木金吾・伏見千悦子・野口雅史著 / ㈱大学図書出版  1～5歳のかんたんリトミック / 神原雅之著 / ナツメ社  リズム&amp;ゲームにどっぷり！リトミック77選 / 神原雅之編 井上恵理・菅沼邦子・小見英晴・有谷英彰著 / 明治図書  乳幼児のダンス ABC / 猪崎弥生・山田悠莉著 / 一二三書房</p>				
評価基準	<p>授業態度 (10%)、定期試験 (50%)、実践課題の内容 (40%) により、総合的に数量化して評価します。</p>				
受講の心構えとメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 積極的に動き、グループ内での協調性を大切にしていき、保育者を目指して学習しているのだという目的意識を持って、授業に望むことが大切です。</li> <li>2. 学びを確実なものにするためにも学び得られたものを復習することはもちろんですが、次への学びを容易にするためにも、必ず予習をするなど次回へ繋がる取り組みをしてください。</li> <li>3. 7.5コマという短い授業時間数の中で、多くの内容を習得して行かなくてはならないことを自覚し、欠席、遅刻、早退することなく出席してください。</li> </ol>				
その他事項	<p>実践を通しての学びが多くなりますので、常に運動のできる服装で臨んでください。また、ホールを使用する場合は、上履きが必要になりますので準備しておいてください。</p>				

## 授業内容進行表

1 回	<p>&lt;領域「表現」についての基本的な考え方&gt;</p> <p>①古代から近代における幼児教育の歴史的系譜をもとに「表現」についての洞察</p> <p>②幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の指導において求められる表現の捉え方と評価及び小学校の教科等とのつながりについての理解</p>
2 回	<p>&lt;基礎リズム&gt;</p> <p>①歩く、走る、スキップ、ギャロップなどの基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点</p> <p>②幼児期の身体的・精神的発達をふまえた指導法の理解</p>
3 回	<p>&lt;基本動作&gt;</p> <p>①幼児の心情・認識・思考及び動き等をふまえた基本動作の実践</p> <p>②日常生活が表現につながる可能性に気づき、観察や模倣を通して幼児のイメージを豊かにする指導法の実践</p>
4 回	<p>&lt;多様な振り付けの実践と理解&gt;</p> <p>①童謡やわらべうた、動作カードを活用した多様な振付の実践</p> <p>②幼児の表現したい気持ちを育む指導法の実践</p>
5 回	<p>&lt;楽器の製作と活用&gt;</p> <p>①楽器の取り扱いと身近な素材を使ったオリジナル楽器の製作と活用</p> <p>②指導案作成の基礎を理解し、オリジナル楽器を使った指導案の作成</p>
6 回	<p>&lt;領域「表現」と小学校教科等のつながり&gt;</p> <p>①オノマトペ（擬態語・擬音語・擬声語）の表現方法について</p> <p>②領域「表現」と小学校教科等とのつながり</p>
7 回	<p>&lt;表現する力を育てるための保育者の役割と援助&gt;</p> <p>①絵本のストーリーを取り入れた模擬保育の実践</p> <p>②保育構想発展のための相互発表による振り返り</p>
8 回	<p>&lt;リズム遊び&gt;</p> <p>幼児が持つ表現への意欲と喜びを育むリズム遊びの創作と実践</p>
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
<p>【定期試験】 (有) ・ 無</p>	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもの指導法「音楽表現」		1年・通年	演習	60時間 (2単位)	國光みどり・田上栄美子 大江美歩子・大谷妃早子 松本 裕子
実務経験の概要		・國光……幼稚園に14年、幼保連携型認定こども園に2年勤務した実務経験があります。 その間、クラス持ち主任(2年)、専任の副園長(4年)、園長(2年)に従事。			
授業概要	領域「表現」は幼児期の終わりまでに獲得すべき「豊かな感性と表現」を育む重要な領域です。領域表現の「目標」を理解するとともに、音・音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解し、器楽における弾き歌いの実践に結び付けながら、こどもの音楽表現を育むための実践力を養います。 また、小学校における教科「音楽」とのつながりについても理解します。				
授業科目の目的	領域「表現」の「音楽表現」に視点を置き、領域「表現」の全体目標への到達を目指し、より具体的、実践的、対話的な保育実践の方法を習得します。				
学習成果	1. 感性と表現に関する領域「表現」を理解するとともに、保育における音楽表現の意義や役割を理解することができるようにします。 2. 保育現場において子どもの発達過程を素地としながら、子どもとの関りを大切にした音楽表現活動が実践することができるようになります。 3. 音楽表現活動において、必要な音楽的知識とピアノ技術を習得することができるようにします。 4. 小学校教育への接続と小学校1年生教科「音楽」への学びの連続性を視野に入れた保育が理解することができるようにします。				
テキスト	こどもと音楽表現／西野洋子著／豊岡短期大学 実践保育内容シリーズ5 音楽表現／一藝社／2,000円＋税 保育者のためのピアノでうたえる歌曲集 子どものうた村 保育の木／小川宣子編著／ドレミ楽譜／1,800円＋税				
参考書	幼稚園教育要領解説(最新版)／フレーベル館 保育所保育指針解説(最新版)／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)／フレーベル館				
成績評価基準	定期試験50%、成果発表40%、学習意欲10%により総合的に評価します。				
受講の心構えとメッセージ	・常に子どもが目の前にいる、という想定をしながら学習を進めてください。 ・ピアノの技術については学生のみなさん一人一人経験に差があります。それぞれが今をスタートラインと捉えて、子どもたちの感性を豊かに育むためのピアノ演奏ができるよう、精一杯の努力で練習を重ねてください。2年間の地道な努力は必ず素晴らしい実を結びます。頑張りましょう。 ・保育はチームワークです。グループワークの場では各自が主体的、積極的に取り組む姿勢をもち、学び合う場となるよう協働して進めていきましょう。				
その他					



## 授業内容進行表

1 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「表現」におけるねらいと内容の理解</li> <li>・表現活動を支える器楽伴奏についての基礎知識の修得と実践</li> </ul>	16 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実践における「歌」の理解と弾き歌いの指導法（季節の歌を通して）</li> <li>・日本における四季の移ろいをイメージする季節の歌と、その弾き歌いの実践</li> </ul>
2 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達過程に応じた音楽表現の理解（0、1、2歳児）</li> <li>・0、1、2歳児の表現活動における器楽伴奏の方法と実践</li> </ul>	17 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実践における「歌」の理解と弾き歌いの指導法（生活の歌を通して）</li> <li>・仲間と生活する様々な保育場面で歌う歌の理解と弾き歌いの実践</li> </ul>
3 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達過程に応じた音楽表現の理解（3、4、5歳児）</li> <li>・3、4、5歳児の表現活動における器楽伴奏の方法と実践</li> </ul>	18 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実践における「歌」の理解と弾き歌いの指導法（日本の文化・行事の歌を通して）</li> <li>・日本の節句・年の始まり・園の行事で歌う歌を理解するとともに弾き歌いの実践</li> </ul>
4 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像視聴による身近にある音風景「自然の音」や「身の周りの音」への気付きと表現方法</li> <li>・サウンドスケープや映像視聴などの実践と楽器による表現及び伴奏法</li> </ul>	19 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「表現」と他の領域とのかかわりの理解と応用</li> <li>・「身近な歌」「友達の歌」「遊具」「飼育動物・花など」をテーマにした歌</li> </ul>
5 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にある音風景「こどもの身の回りの音」の気付きと表現</li> <li>・保育の場面で使用する楽器を活かすための器楽伴奏法</li> </ul>	20 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の音楽環境と保育者の援助について（こどもの身の回りにおける幼児楽器とのかかわり）</li> <li>・簡単なリズム楽器を用いて楽しむ楽曲の理解と器楽伴奏法の実践</li> </ul>
6 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声の仕組み、乳幼児の歌唱能力など「歌う」表現活動</li> <li>・乳幼児の発達とその表現活動を促す器楽伴奏法</li> </ul>	21 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の音楽環境と保育者の援助についてこどもの身の回りにおける鍵盤楽器とのかかわり</li> </ul>
7 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像を活用した0、1、2歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践</li> <li>・乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法</li> </ul>	22 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画に基づいた指導案の作成のポイントと模擬保育の進め方</li> <li>・鍵盤ハーモニカを用いて楽しむ楽曲の理解と器楽伴奏法の実践</li> </ul>
8 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像を活用した3、4歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践</li> <li>・乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法</li> </ul>	23 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画に基づいた指導案の作成と実践過程の留意点</li> <li>・模擬保育での歌や曲の選曲及び教材研究と伴奏法の研究</li> </ul>
9 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像を活用した5歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践</li> <li>・乳幼児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法</li> </ul>	24 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬保育「いろいろな音を集めてあそぼう」の実践と指導案の討議</li> <li>・模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践</li> </ul>
10 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わらべうた」や伝承遊びなどに親しむための指導法</li> <li>・乳幼児の伝承遊びと器楽における簡単な即興演奏の実践</li> </ul>	25 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬保育「わらべうた・伝承遊びを楽しむ」の実践と指導案の討議</li> <li>・模擬保育でのわらべうた・伝承遊びの弾き歌いと伴奏法の実践</li> </ul>
11 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の「伝統的な遊び歌」などに親しむための指導法</li> <li>・5音階（ペンタトニック）の理解とそれに基づく器楽伴奏及び即興演奏の実践</li> </ul>	26 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬保育「自然物や身近な素材を活かして楽器あそびをしよう」の実践と指導案の討議</li> <li>・模擬保育での弾き歌い及び楽器あそびの教材研究と伴奏法の実践</li> </ul>
12 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各国の「遊び歌」などに親しむための指導法</li> <li>・各国の遊びを伴う「遊び歌」の歌唱とその器楽伴奏法の実践</li> </ul>	27 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬保育の振り返りと評価</li> <li>・模擬保育における伴奏法のまとめ</li> </ul>
13 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の意味を理解しながら「歌を歌う」活動</li> <li>・歌詞の意味を伝え、表情豊かに歌う弾き歌いの実践</li> </ul>	28 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポートフォリオなどの作成方法</li> <li>・音楽表現活動の実践を豊かにする音楽とその器楽伴奏の実践</li> </ul>
14 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージを共有して「歌を歌う」活動</li> <li>・遊びや生活での経験からイメージを広げ仲間と共有しながら「歌う」活動を支える器楽伴奏法</li> </ul>	29 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポートフォリオなどを使用して模擬保育の振り返り「保育の可視化」の実践と発表</li> <li>・ポートフォリオを見ながら「思い出の活動を音楽でつづる」器楽伴奏法の実践</li> </ul>
15 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間の声を聴きながら「歌を歌う」活動について</li> <li>・仲間と声を合わせる響きの美しさや楽しさを感じられる器楽伴奏法の実践</li> </ul>	30 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校への接続と学びの連続性についての理解と学習のまとめ</li> <li>・成果発表会（弾き歌い）</li> </ul>
		【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
教育方法論		1年・前期 2年・前期	講義	30時間 (2単位)	原 田 敬 文 大 塚 貴 之 稲 田 達 也
実務経験の概要					
授業概要	<p>教育方法とは何か、その定義と意義などについての知識を習得したのちに、教育方法の歴史的変遷を概観することを通して、先人がどのような思想のもとに教育方法を展開してきたのかを考察します。さらに、教育に活用できる情報機器、教材・教具についての理解を深めたのちに学習指導の理論と授業の方法、および評価について理解し、それらをもとに授業づくりを構想していきます。後半では、幼児教育（保育）の方法、並びに小学校教育との連続について考察します。最後に教育方法の課題と今後の展望について検討していきます。</p>				
授業科目の目的	<p>教育方法の定義、意義などの基本的知識を習得し、教育目標、教育内容、評価の関係性についての理解を深めるとともに、教育（保育）現場における様々な課題を解決する手立てとなる教育（保育）方法とその活用についての理解を深め、幼稚園教諭として必要な資質を養うことを目的とします。</p>				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育方法の定義、意義、守備範囲などの概念についての基本的知識を理解することができるようにします。</li> <li>2. 教育方法の歴史的変遷について理解できるようにします。</li> <li>3. 授業についての概要を知り、学習指導の形態と方法について理解することができるようにします。</li> <li>4. 教育技術の革新について理解するとともに情報機器の活用を説明することができるようにします。</li> <li>5. 生徒指導の原理と方法及びその実際について知り、学習指導と生徒指導の関係について理解することができるようにします。</li> <li>6. 幼児の発達と幼児教育（保育）の方法について理解することができるようにします。</li> </ol>				
テキスト	保育ライブラリー 幼児教育の方法／民秋言 他著／北大路書房				
参考書	幼児学用語集／小田 豊等監修／北大路書房 保育所保育指針および解説書／フレーベル館 幼稚園教育要領および解説書／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説書／フレーベル館				
成績評価基準	定期試験（60％）、レポート（25％）、講義への参加の態度等（15％）により総合的に評価します。				
受講の心構えと メモのとり方	<p>本授業では、こどもの成長に合わせた、教育方法について考えます。また、保幼小の連携も視野に入れた学びの連続性についても考える機会とします。そのため、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について、事前に熟読して理解しておくようにしておいてください。</p> <p>授業では、プリントを配布しての学習が多くなりますので、各自ファイルして、整理しておくようにしてください。</p> <p>また、保育や教育系の雑誌などを読み、常に、自身の情報量を増やすよう、心がけてください。</p>				
その他	授業で配布するプリント類は、各自ファイルしておくこと。				

## 授業内容進行表

1 回	教育方法の定義・意義と守備範囲
2 回	教育方法の歴史的展開 1 (西欧の教育方法)
3 回	教育方法の歴史的展開 2 (近・現代の教育方法)
4 回	教育方法の歴史的展開 3 (日本の教育方法)
5 回	教育技術の革新と情報機器の活用
6 回	教材・教具の活用
7 回	特色ある授業実践
8 回	教育現場における授業技術
9 回	授業分析と授業評価
10 回	授業展開の構想
11 回	幼児の理解と幼児教育（保育）の方法（生徒指導との関係も踏まえて）
12 回	近代以降の幼児教育（保育）方法
13 回	幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領
14 回	幼児教育（保育）内容と小学校の教育内容
15 回	教育方法の課題と展望
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
社会的養護Ⅱ		1年・後期	演習	30時間 (1単位)	室 谷 雅 美
実務経験の概要					
授業概要	子どもを育むことは一義的には親の責任であるが、それが果しにくい状況にある家庭が増えていることが現代社会の課題となっており、多くの子どもに社会的養護が必要になってきています。施設で暮らす子どもたちにどのような援助がおこなわれているかを学び、福祉に関わる実践力を身につけます。				
授業科目の目的	社会的養護の全体像を把握し、養護を要する子どもの自立支援のための知識、技能の習得を目的とします。				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解することができるようにします。</li> <li>2. 施設養護及び家庭養護の実際についてすることができるようにします。</li> <li>3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解することができるようにします。</li> <li>4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解することができるようにします。</li> <li>5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解することができるようにします。</li> </ol>				
テキスト	新・基本保育シリーズ 社会的養護Ⅱ／相澤 仁・村井美紀・大竹 智編集／中央法規				
参考書	授業内で紹介します。				
成績評価基準	定期試験（60％）、提出物（25％）、講義への参加の態度等（15％）により総合的に評価します。				
受講の心構えとメッセージ	社会的養護内容は、子どもの最善の利益を追求し、社会がどのような支援ができるかについて学ぶ授業です。本来、子ども達は、家庭で養育されることが望ましいですが、様々な要因により、施設の支援を必要とする子どもも多くいます。そのような、子どもの最善の利益とは、どのようなものかについて、具体例を交えて紹介していきます。実習での体験につながるよう、しっかり理解してください。施設で生活する子ども達をどのように支援していくべきなのか、みなさん自身もしっかり考えるようにしてください。				
その他					

## 授業内容進行表

1 回	<社会的養護の内容> 子どもの権利擁護
2 回	<社会的養護における子どもの理解> 子どもの理解を深める
3 回	<社会的養護の内容①> 日常生活支援
4 回	<社会的養護の内容②> 心理的支援
5 回	<社会的養護の内容③> 自立支援
6 回	<施設養護の生活特性及び実際①> 乳児院等
7 回	<施設養護の生活特性及び実際②> 障害児施設等
8 回	<家庭養護の生活特性及び実際> 家庭養護とは
9 回	<アセスメントと個別支援計画の作成> アセスメントと個別支援計画
10 回	<記録及び自己評価> 記録の意義と役割
11 回	<社会的養護に関わる専門的技術> 社会的養護における保育の専門性
12 回	<社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践> 相談援助の定義
13 回	<社会的養護におけるソーシャルワーク> ソーシャルワークにおける支援
14 回	<社会的養護における家庭支援> 家庭支援をするとはどういうことか
15 回	<今後の社会的養護の課題と展望> 社会的養護の展望
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育内容総論	2年・後期	演習	30時間 (1単位)	宿南久美子
実務経験の概要	・幼稚園に40年間勤務した実務経験があります。 その間、クラス担任(30年)、教育委員会(4年)、園長(6年)に従事。			
授業概要	保育内容総論は、領域別の授業で学んだ内容を、実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解します。 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な実践事例をもとに解説し、受講生が自分の意見を発表したり課題レポートを作成したりする場、またグループ討議の場を大切にしたいと考えています。			
授業科目の目的	保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「育ってほしい10の姿」と「保育の内容」の関連を理解することができるようにします。</li> <li>2. 保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解することができるようにします。</li> <li>3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育内容の歴史的変遷を踏まえ、保育内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解することができるようにします。</li> <li>4. 保育の多様な展開について具体的に理解することができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	保育内容総論／豊岡短期大学			
参考書	幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館			
成績評価基準	授業態度30%、課題・レポート等提出物10%、定期試験60%により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	各領域別の授業で学んできたことを、実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて考えてみましょう。グループ協議なども行います。皆さんの積極的な参加を望みます。			
その他事項	常に、「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を利用します。毎回忘れずに持参してください。			

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション・保育の基本と保育内容 1> 保育所保育指針に基づく保育の基本及び保育内容の理解
2 回	<保育の基本と保育内容 2> 保育の全体構造と保育内容
3 回	<保育内容の歴史的変遷> 幼稚園教育要領と保育所保育指針の変遷にみる特徴と課題
4 回	<保育内容と子ども理解 1> 子どもの発達の特性と保育内容
5 回	<保育内容と子ども理解 2> 個と集団の発達と保育内容
6 回	<保育内容と子ども理解 3> 保育における観察と記録
7 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開 1> 養護と教育が一体的に展開する保育
8 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開 2> 環境を通して行う保育
9 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開 3> 遊びによる総合的な保育
10 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開 4> 生活や発達の連続性に考慮した保育
11 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開 5> 家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育
12 回	<保育の多様な展開 1> 乳児保育
13 回	<保育の多様な展開 2> 長時間保育・多文化共生の保育
14 回	<保育の多様な展開 3> 特別な支援を必要とする子どもの保育
15 回	<幼児期に育みたい資質・能力 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿>
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと造形表現Ⅱ	2年・前期	演習	15時間 (1単位)	岩田 健一郎
実務経験の概要				
授業概要	「こどもと造形表現Ⅰ」での学びをもとに、乳幼児の表現活動の発達過程に合わせて指導法を深める学習を行います。乳幼児の遊びとモノとの関わりから、「えがく」「つくる」「造形あそび」等の活動と援助のあり方について、製作体験と関連づけながら学習をします。			
授業科目の目的	保育内容を理解し、乳幼児を含めた子どもの造形の指導者として、子どもの発達と保育中に取り扱う教材に必要な知識をもつことを目的とします。「こどもと造形表現Ⅰ」で学習したことを踏まえ、新たな教材について、実践を通じた保育技術の獲得を目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等にもとづいた保育の基本を理解し、深めることができるようになります。</li> <li>2. 発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴及び乳幼児の表現活動の大切さを理解し、深めることができるようになります。</li> <li>3. 乳幼児の造形の表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が幅広く習得できるようにします。</li> </ol>			
テキスト	こどもと造形Ⅰ／東山明 他／豊岡短期大学 こどもと造形表現Ⅰ／東山明 他／豊岡短期大学 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針・保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館			
参考書	授業の中で紹介します。			
成績評価基準	上記3つのについて、受講姿勢、レポート・課題（作品等）の提出状況・内容40％、定期試験60％の割合で評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>乳幼児がモノに触れ、操作していく表現活動は、子どもたちの豊かな育ちのために重要かつ不可欠なことです。皆さんは乳幼児がこれからの時代を生きていくための思考力・判断力・表現力の土台になる力を育むことを理解し、保育者として子どもの姿を現実的にイメージし、実践できる力を貪欲に身に付けてください。</p> <p>また、授業時間外の学習として、幼稚園、保育所等の現場での造形物や遊ぶ姿を観察し、発達段階と表現の関係を深めていくことも心がけてください。</p>			
その他				



## 授業内容進行表

1 回	<p>&lt;オリエンテーション&gt; 学習の進め方と心構えについて</p> <p>&lt;子どものつくる・造形あそびによる表現について&gt; 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「感性」と「表現」（つくる活動の視点から）</p>
2 回	<p>&lt;つくる活動の乳幼児期の発達区分と造形活動の特徴と領域について&gt;</p> <p>&lt;子どものつくる活動の環境づくりと援助について&gt; おおむね1歳未満児から3歳児 おおむね4歳児から6歳児</p>
3 回	<p>&lt;振り返り・小テスト&gt;</p> <p>&lt;教材研究：教材と指導援助について1&gt; 講義とつくる活動による実践的な学習1 （自然物による製作）</p>
4 回	<p>&lt;教材研究：教材と指導援助について2&gt; 講義とつくる活動による実践的な学習2 （廃材による製作）</p>
5 回	<p>&lt;教材研究：教材と指導援助について3&gt; 講義とつくる活動による実践的な学習3 （動く玩具の製作）</p>
6 回	<p>&lt;教材研究：教材と指導援助について4&gt; 講義と園の行事に合わせた実践的な学習1 （紙による製作）</p>
7 回	<p>&lt;教材研究：教材と指導援助について5&gt; 講義と園の行事に合わせた実践的な学習2 （紙による製作）</p>
8 回	<p>&lt;振り返り・まとめ&gt;</p>
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
<p>【定期試験】 (有) ・ 無</p>	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもと言語表現		2年・前期	演習	30時間 (1単位)	和田典子
実務経験の概要					
授業概要	<p>子どもの言語発達を促す児童文化財（絵本・紙芝居・シアター類・ことば遊び・子どもの歌など）について学び、文化財の作製や扱いが上手にできる技術を身に付けます。子どもの年齢（月齢）に即した言語表現を知り、その表現をより良く発展させられる保育の構築を目指すための基本姿勢を学びます。自らが作品を創り、楽しみ、言語による表現ができるようになります。</p>				
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童文化財（絵本・紙芝居・シアター類・伝承遊び・子どもの歌など）の特徴と演じ方を学びます。</li> <li>2. 子どもの年齢（月齢）に即した言語表現を知り、適した文化財の使用や表現法を学び、実演してみます。</li> <li>3. 情報機器の使用によって新しい児童文化財の創作の幅を広げ、保育に役立つ方法を考えます。</li> <li>4. 児童文化財を創作し、表現するための指導</li> </ol>				
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの言語表現についての知識を学び、児童文化財の必要性、特色が説明でき、演じられるようになります。</li> <li>2. 一つの教材を多面的に捉え、工夫、創作することから、こどもの言語表現活動に役立つ力が身につくようになります。</li> </ol>				
テキスト	<p>保育者のための言語表現の技術（第2版）／古橋和夫編著／萌文書林／2,000円＋税  幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館  幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館  幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館</p>				
参考書	<p>ことばと表現力を育む児童文化／川勝泰介、浅岡靖央、生駒幸子編著／萌文書林  演習 児童文化－保育内容としての実践と展開／小川清美編／萌文書林  うたってかんたん パネルシアター／古宇田亮純監修／ひかりのくに  保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館  幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>				
成績評価基準	<p>定期試験30％、授業・課題、提出物に取り組む姿勢20％、課題・提出物、レポート30％、実践20％により総合的に評価します。</p>				
受講の心構えとメッセージ	<p>単に児童文化財を作製して演じるだけでなく、同じ絵人形を使いながらも子どもの年齢（月齢）ごとの言語表現に合わせた言葉選びや表現ができるようになります。</p> <p>できるだけ、時間がかからない絵人形制作の工夫や、情報機器や便利グッズを使った作製方法を紹介しますので、柔軟な発想で制作に取り組み、楽しく演じて表現してください。</p>				
その他	<p>制作のためにハサミ、油性マジック、アクリル絵の具、筆、色紙、画用紙、端切れ、廃材などが必要になります。文具・材料費500円程度を心づもりしておいてください。Pパーパーやパネルシアター舞台などは大学で用意します。</p>				

## 授業内容進行表

1 回	<p>&lt;授業ガイダンス&gt;                      &lt;子どもの言語獲得の過程と言語表現&gt;                      子どもの身体的発達と言語獲得の筋道</p>
2 回	<p>&lt;言語前期の子どものための児童文化財&gt;                      発音を覚える時期のおもちゃと手遊び、わらべ唄                      児童文化財とは。児童文化財を使った指導案の作成</p>
3 回	<p>&lt;1～2歳児の言語獲得の過程と言語表現&gt;                      物の名前と結びついたマグネット人形の作製 情報機器の利用                      さまざまな絵人形や指人形を使った語彙増加と表現への育み</p>
4 回	<p>&lt;3歳児の言語獲得の過程と言語表現&gt;                      想像力と言語表現を豊かにするごっこ遊び教材の作製</p>
5 回	<p>&lt;絵本の種類と特色、屏風絵本の作成&gt;                      絵本の種類と特色、読み方                      屏風絵本を楽しむ 屏風絵本に適した作品を考える</p>
6 回	<p>&lt;さまざまな児童文化財&gt;                      紙芝居とシアター型の児童文化財 さまざまな絵人形作製の基礎                      情報機器を使ったシアターの作製法</p>
7 回	<p>&lt;ペープサート&gt;                      ペープサートの特色と演技方、作製の方法 DVDの視聴</p>
8 回	<p>&lt;パネルシアター&gt;                      パネルシアターの特色と演技方、作製の方法                      子どもが手にとって遊ぶパネルシアターのバリエーション</p>
9 回	<p>&lt;遊び歌を使ったシアター型文化財の作製&gt;                      歌を使ったパネルシアター、ペープサートを作製する                      構想、指導案を考える。情報機器を使って演じる方法</p>
10 回	<p>&lt;絵本を使ったシアター型文化財の作製&gt;                      絵本を使ったパネルシアター、ペープサートを作製する                      構想、指導案を作成する。台本を書く</p>
11 回	<p>&lt;児童文化財の作製&gt;                      歌や絵本を使ったパネルシアター、ペープサートの絵人形や背景を作る 演じる練習</p>
12 回	<p>&lt;演じる、評価する&gt;                      屏風絵本、ペープサート、パネルシアターなどを演じ、自己評価、相互評価する</p>
13 回	<p>&lt;児童文化財の演技方を年齢別に応用する&gt;                      自分の作製した絵人形を使って、年齢別に演技分ける工夫を考える                      言葉を引き出す語りかけや、表現への感性を磨く方法を知る</p>
14 回	<p>&lt;文字環境を整える児童文化財&gt;                      伝統的な言葉遊びを学ぶ 運筆表や文字カードを作製する                      小学校国語への連携を学ぶ</p>
15 回	<p>&lt;こどもの言語表現における課題&gt;                      障害を持つ子どもへの児童文化財の工夫を学ぶ                      グローバル化、情報化社会を生きる子どもの保育における課題を学ぶ                      振り返り</p>
<p>【定期試験】 (有) ・ 無</p>	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと音楽表現	2年・通年	演習	60時間 (2単位)	國光みどり 田上栄美子
実務経験の概要	・國光……幼稚園に14年、幼保連携型認定こども園に2年勤務した実務経験があります。 その間、クラス持ち主任(2年)、専任の副園長(4年)、園長(2年)に従事。			
授業概要	領域「表現」は幼児期の終わりまでに獲得すべき「豊かな感性と表現」を育む重要な領域です。領域表現の「目標」を理解するとともに、音・音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解し、器楽における弾き歌いの実践に結び付けながら、こどもの音楽表現を育むための実践力を養います。 また、小学校における教科「音楽」とのつながりについても理解します。			
授業科目の目的	領域「表現」の「音楽表現」に視点を置き、領域「表現」の到達目標を目指して、保育の現場でより具体的・実践的な保育活動を展開できるようにします。			
学習成果	1. 領域「表現」における保育のねらいや内容を理解し、子どもが生活の中で喜びをもって主体的に環境にかかわり、表現を生み出す過程で求められる保育者としての感性を養うことができるようにします。 2. 子どもの発達過程を理解した感性を育む音楽表現活動を実践する力を養うことができるようにします。 3. 子どもの歌・童謡曲等の弾き歌い、簡易伴奏付けの技能等を習得することができるようにします。			
テキスト	こどもと音楽表現／西野洋子著／豊岡短期大学 幼児のための音楽教育／教育芸術社／2,000円＋税 保育者のためのピアノの基礎／朝日出版社／1,600円＋税			
参考書	幼稚園教育要領解説(最新版)／フレーベル館 保育所保育指針解説(最新版)／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)／フレーベル館			
成績評価基準	保育内容を理解し、適切な演奏ができる技能および知識と理解がなされているかを下記に示した割合で総合的に評価します。 1. 定期試験 60％ 2. 成果発表 30％ 3. 意欲・態度 10％			
受講の心構えとメッセージ	・ピアノの練習の第一歩は、まず楽譜を正しく読み、正しい運指で正確に弾けるようにすることです。最初から全曲を弾こうとせず、1小節ずつ確実に弾きこなせるように毎日の練習に励みましょう。 ・様々な教材曲に共通する事柄(和声進行、リズムパターン、フレーズ構造)などに注目し、記憶に留めておく習慣をつけましょう。演奏力だけでなく保育現場で役立つ初見奏や伴奏法の向上にもつながります。 ・地道に学びの積み上げを行えば、習得した音楽に関する基本的な知識や技能は、今後、保育で行う豊かな音楽表現活動に必ず活きるものです。 ・子どもは音楽表現活動が大好きです。私たちが皆さんと一緒により、音楽表現活動を楽しみたいと思っています。笑顔で、明るい声で、体いっぱい表現活動しましょう。			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「表現」における目標と「ねらい」及び「内容」の理解 ガイダンス</li> <li>・表現活動を支える伴奏についての基礎知識の修得と実践</li> </ul>	16 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コードを鍵盤から覚え、自然な発声で童謡や唱歌を弾き歌いする1</li> <li>・課題成果発表会（ピアノ演奏、弾き歌い）</li> </ul>
2 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解</li> <li>・表現活動における伴奏の方法と実践</li> </ul>	17 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コードを鍵盤から覚え、自然な発声で童謡や唱歌を弾き歌いする2</li> <li>・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い1</li> </ul>
3 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にある環境音である「自然の音」や「身の周りの音」への気付きと表現解</li> <li>・サウンドスケープに基づく聴取実践と聴取した音の楽器による表現及び伴奏法</li> </ul>	18 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コードを使って伴奏しながら、自然な発声で童謡や唱歌を弾き歌いする1</li> <li>・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い2</li> </ul>
4 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声の仕組み、「歌う」表現活動の理解</li> <li>・乳幼児の発達とその表現活動を促す伴奏法</li> </ul>	19 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コードを使って伴奏しながら、自然な発声で童謡や唱歌を弾き歌いする2</li> <li>・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い3</li> </ul>
5 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0、1、2歳児の声の発達と表現活動の理解と実践</li> <li>・乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法</li> </ul>	20 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コードを使って伴奏しながら、自然な発声で童謡や唱歌を弾き歌いする3</li> <li>・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い4</li> </ul>
6 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3、4、5歳児の声の発達と表現活動の理解と実践</li> <li>・幼児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法</li> </ul>	21 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コードを使って伴奏しながら、自然な発声で童謡や唱歌を弾き歌いする4</li> <li>・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い5</li> </ul>
7 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わらべうた」や「伝承あそび」などの知識と実践</li> <li>・「わらべうた」や「伝承あそび」などに親しむための指導法</li> </ul>	22 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コードを使って伴奏しながら、自然な発声で童謡や唱歌を弾き歌いする5</li> <li>・成果発表会（ピアノ演奏、弾き歌い）</li> </ul>
8 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「表現」と他の領域とのかかわりについての理解と応用</li> <li>・他の領域と関連した生活や行事などをテーマにした音楽の理解と弾き歌いの実践</li> </ul>	23 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児と楽器-奏でる活動の指導のポイント</li> <li>・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い6</li> </ul>
9 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル指導案による保育の理解と指導計画の確認（グループ討議）</li> <li>・保育実践での歌や曲の選曲とその伴奏・効果音等の研究</li> </ul>	24 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児のおもちゃと楽器との出会い</li> <li>・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い7</li> </ul>
10 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル指導案による保育実践の過程と指導の留意点の検討</li> <li>・環境構成の検討と保育者の役割・援助の確認及び伴奏法の実践</li> </ul>	25 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲に合わせてリズム伴奏をしながら歌う1</li> <li>・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い8</li> </ul>
11 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル指導案「わらべうた」「伝承あそび」を楽しもうにおける模擬保育の実践</li> <li>・模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践</li> </ul>	26 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲に合わせてリズム伴奏をしながら歌う2</li> <li>・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い9</li> </ul>
12 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル指導案「わらべうた」「伝承あそび」を楽しもうにおける模擬保育の実践</li> <li>・模擬保育での「わらべうた」「伝承あそび」の弾き歌い・伴奏法の実践</li> </ul>	27 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉やリズムのアンサンブルをつくって表現する1</li> <li>・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い10</li> </ul>
13 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル指導案「自然物や身近な素材を活かして音あそびをしよう」における模擬保育の実践・模擬保育での弾き歌い、楽器あそびを展開する器楽伴奏法の実践</li> </ul>	28 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉やリズムのアンサンブルをつくって表現する2</li> <li>・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い11</li> </ul>
14 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポトフォリオなどを活用した「音楽表現の可視化」の実践と「学びの振り返り」の理解</li> <li>・保育活動を音楽表現で構成する手法と伴奏法の実践</li> </ul>	29 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本のこどもの歌の歴史の理解</li> <li>・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い12</li> </ul>
15 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校1年生、教科「音楽」への接続と学びの連続性についての理解とまとめ</li> <li>・成果発表会（ピアノ演奏・弾き歌い）</li> </ul>	30 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>成果発表会（ピアノ演奏、弾き歌い）</li> <li>「こどもと音楽表現」の学習のまとめ</li> </ul>
		【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育相談	2年・後期	講義	30時間 (2単位)	原田敬文
実務経験の概要				
授業概要	相談支援の究極的な目的は、こどもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学びます。また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深めていきます。			
授業科目の目的	子どもを理解するために、乳幼児の発達及び学び並びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理について学びます。また、その対応の一つの幼児教育（保育）現場における相談支援を学び、子どもが自己理解を深め、好ましい人間関係を築き、集団生活の中で適応できる力を育むことを支援できることを目指します。そのために、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動の在り方について、こどもの発達の状況に即した支援ができるよう、心理的特質や教育的課題を捉える力を身につけるとともに、本人またはその親や保育者などに助言、指導、そして場合によってはカウンセリングを行えるようになることを目指します。この授業では、より良い教育の方向を求めて指導助言ができる基礎理論と実際について学びます。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育の課題と家庭との連携の在り方、心理アセスメントの活用について理解することができるようになります。</li> <li>2. カウンセリングの基本と心理アセスメントの活用、保・幼・小及び家庭との連携が理解することができるようになります。</li> </ol>			
テキスト	保育カウンセリングへの招待／富田久枝・杉原一昭／北大路書房			
参考書	幼稚園教育要領解説」(最新版)／フレーベル館 保育所保育指針解説」(最新版)／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)／フレーベル館			
成績評価基準	定期試験（60％）、レポート（25％）、講義への参加の態度等（15％）により総合的に評価します。			
受講の心構えとセージ	この授業では、子どもの発達をどのように理解するか、また、子どもと子どもに関わる人（保護者、友人）などに対して、どのような支援をしていくかを学びます。ここで、必要なことは、普段から子どもを取り巻く諸問題に対して、常に関心をもつということです。 講義にのぞむにあたっては、予習、復習と合わせ、ニュースや新聞から子どもの問題について、事例を集めるように心がけてください。			
その他事項	授業中に配布するプリント類は、各自ファイルに綴じておくこと。			

## 授業内容進行表

1 回	こどもの実態に応じた発達や学びの把握（こどもの理解の意義、養護保育の一体的展開、幼児理解を深める教師の基礎的な態度）
2 回	相談支援の基本 相談支援の基本・カウンセリングの基本（意義・理論）とカウンセリングの基本的な方法（受容的態度と共感、傾聴）
3 回	こどもを理解する視点①（こどもの生活や遊び、保育の人的環境、こども相互の関わり、集団における経験）
4 回	こどもを理解する視点②（葛藤やつまずき、保育環境の理解と構成、環境の変化や移行）
5 回	こどもを理解する方法①（知能検査・発達検査・行動観察法、他）
6 回	こどもを理解する方法②（観察・記録・省察・評価）
7 回	こどもを理解する方法③（職員間の情報共有、保護者との情報共有）
8 回	こどもの自己理解を進める技法 こどもの自己表現と自己理解の発達
9 回	幼児・こども理解とカウンセリング・マインド（実際のカウンセリングと教師の行う相談支援の違いを理解する・教師の行う相談支援の理解を深める）
10 回	幼稚園・保育園における園児への心理的援助及びその保護者との相談支援
11 回	小学校における児童への心理的援助及びその保護者との相談支援
12 回	相談支援の実際①（発達障害、知的障害、自閉・情緒障害、特別な配慮を要するこどもたち）
13 回	相談支援の実際②（不登園・不登校、いじめ、虐待・非行と小・中学生の心理アセスメント）
14 回	相談支援と家庭・学校・地域との連携と相談支援（幼・小の連携、親との連携）
15 回	相談支援の課題と対応（教育相談における校内支援体制、相談支援計画の作成）
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	



教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
乳 幼 児 保 育		2 年・前期	演習	30時間 (2 単位)	國 光 みどり
実務経験の概要		・國光……幼稚園に14年、幼保連携型認定こども園に2年勤務した実務経験があります。 その間、クラス持ち主任(2年)、専任の副園長(4年)、園長(2年)に従事。			
授 業 概 要	<p>乳幼児保育の歴史の変遷や現代における乳幼児保育の現状など、乳幼児保育の基本的な知識を身に付けます。また、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と、安全管理・保育現場における具体的取組や連携などの運営体制を学びます。さらに、保護者との連携や子育て支援への理解を深め、保育者として様々な人間関係構築の方法や重要性を学びます。</p> <p>乳幼児期は大人と子どもの愛着関係を築くなど人としての人格の基礎を培う最も重要な時期です。保育者としてその時期の乳幼児に関わることへの深い意義や具体的な保育のあり方、心構えについても解説します。</p>				
授 業 科 目 の 目 的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歴史とともに変遷を重ねてきた乳幼児保育を概観しながら、現代における乳幼児保育の重要性やそのあり方についての理解を広げていきます。</li> <li>2. 多様な乳幼児保育の実際を学び、保育所以外での乳幼児保育に携わることのできる柔軟な保育者としての資質を身につけます。</li> <li>3. 乳幼児の心身の発達を学び、応答的・感性的なかかわりの実際とその重要性を実践を踏まえながら理解します。</li> <li>4. 乳幼児の保育にあたり、園内外における様々な連携の実態を学び、実践に活かすことができるように知識を広げます。</li> </ol>				
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児保育の理念と歴史の変遷及び乳幼児保育の役割について、現代社会の保育と関連付けて考えることができるようにします。</li> <li>2. 保育所・乳幼児院等多様な保育の場における乳幼児保育の現状と課題について理解することができるようにします。</li> <li>3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた実践的な保育内容のポイントを理解することができるようにします。</li> <li>4. 乳幼児保育における職員間の連携・協働及び地域の関連機関との連携のあり方と重要性を実践に結びつけて考えられるようにします。</li> </ol>				
テ キ ス ト	乳幼児保育 I / 國光みどり・山中ます子他著 / 豊岡短期大学 / 2019 保育所保育指針解説 / 厚生労働省編 / フレーベル館				
参 考 書	授業の中でプリント、資料を配布します。				
成 績 評 価 基 準	定期試験60%、レポート提出物30%、授業態度10%により総合的に評価します。				
メ ッ セ ー ジ	<p>新しい保育制度の中で、乳児・1歳以上3歳未満児の保育の重要性が改めて強調されています。乳幼児保育では、保育者の心のこもった養護と、心と心のふれあいを通して乳幼児の情緒が安定し、人への信頼感が育まれていきます。それはやがて社会性の育ちへとつながります。保護者以外で乳幼児の最も身近な存在である保育者のかかわりが、乳幼児の人格形成に大きな影響を与えるといたっても過言ではありません。子どもにとって重要な時期を担う保育者になることを自覚し、真摯な気持ちで受講してください。</p> <p>保育者になる喜びや乳幼児にかかわることの意義が実感できる授業となるよう、実践等も行いながら学びます。一緒に頑張りましょう。</p>				
の 事 項 他	沐浴等の実践を行う際は、動きやすい服装で受講してください。(実習着着用が望ましい)				



## 授業内容進行表

1 回	＜オリエンテーション＞ 「乳幼児保育」とは何か
2 回	＜乳幼児保育の意義・目的と役割＞ 乳幼児保育の意義・役割と歴史的変遷
3 回	＜乳幼児保育の現状と課題 1＞ 乳幼児保育及び子育て支援をめぐる社会的状況と課題
4 回	＜乳幼児保育の現状と課題 2＞ 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）、家庭的保育における乳幼児保育
5 回	＜3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 1＞ 3歳未満児の生活と環境
6 回	＜3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 2＞ 3歳児未満児の遊びと環境
7 回	＜3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 3＞ 3歳以上児の保育に移行する時期の保育
8 回	＜3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 4＞ 保育士等による援助・関わり、保育における配慮（子どものアレルギー）
9 回	＜3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 5＞ 乳幼児保育における計画・記録・評価とその意義
10 回	＜乳幼児保育における連携・協働＞ 職員間の連携・協働、保護者との連携・協働、自治体や地域の関係機関等との連携・協働
11 回	＜実践 1 附属こども園観察＞ 3歳未満児のあそび環境 —おもちゃ環境を中心に— （こうのとりに認定こども園）
12 回	＜実践 2 手作りおもちゃ制作＞ 手作りおもちゃ制作
13 回	＜実践 3 手作りおもちゃ制作＞ 手作りおもちゃの発表と評価
14 回	＜実践 4 育児の実際と援助のポイント＞ おむつ交換・沐浴・調乳と哺乳
15 回	＜環境及び衛生管理・危機管理＞ 保育環境、食中毒、事故防止及び安全対策
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
社会的養護内容	2年・前期	演習	15時間 (1単位)	室谷雅美
実務経験の概要				
授業概要	子どもを育むことは一義的には親の責任であるが、それが果しにくい状況にある家庭が増えていることが現代社会の課題となっており、多くの子どもに社会的養護が必要になってきている。施設で暮らす子どもたちにどのような援助がおこなわれているかを学び、福祉に関わる実践力を身につけます。			
授業科目の目的	社会的養護の全体像を把握し、養護を要する子どもの自立支援のための知識、技能の習得を目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設で暮らす子どもについて理解ができるようにします。</li> <li>2. 施設で暮らす子どもたちにどのような援助が必要かを理解し、援助技術を身につけることができるようにします。</li> <li>3. 子どもの理解を支える業務上の技術を身につけることができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	児童の福祉を支える<演習>社会的養護内容 第3版/吉田 眞理 編著/萌文書林			
参考書	保育者養成シリーズ 社会的養護/林邦雄・谷田貝公昭 監修/一藝社			
成績評価基準	試験 (60%)、レポート (25%)、講義への参加の態度等 (15%) により総合的に評価する。			
受講の心構えとメッセージ	社会的養護内容は、こどもの最善の利益を追求し、社会がどのような支援ができるかについて学ぶ授業です。本来、こども達は、家庭で養育されることが望ましいですが、様々な要因により、施設の支援を必要とするこどもも多くいます。そのような、こどもの最善の利益とは、どのようなものかについて、具体例を交えて紹介していきます。実習での体験につながるよう、しっかり理解してください。施設で生活するこども達をどのように支援していくべきなのか、みなさん自身もしっかり考えるようにしてください。			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	<子どもの権利擁護> 子どもの最善の利益、生存と発達保障、権利擁護の仕組み
2 回	<倫理および責務> 支援者としての資質と倫理、バーンアウトと共依存の予防
3 回	<施設養護の特性と実際1> 児童養護の体系と児童福祉施設の概要
4 回	<施設養護の特性と実際2> 児童養護施設の暮らし、乳児院と母子生活支援施設の暮らし、医療型障害児入所施設の暮らし、治療的支援と児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設の暮らし
5 回	<支援の計画・記録・評価> 個別支援計画・日常支援に関する事例分析
6 回	<施設養護の特性と実際3> 福祉型障害児入所施設の暮らし、里親制度の特徴とその実際
7 回	<今後の課題と展望> 施設の小規模化と地域連携、地域住民と施設
8 回	<ソーシャルワークに関わる知識・技術とその応用> ソーシャルワークの活用、基本的日常生活支援
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
教 育 実 習		1年・後期～ 2年・前期	実習	160時間 (4単位)	宿 南 久 美 子
実務経験の概要		・幼稚園に40年間勤務した実務経験があります。 その間、クラス担任 (30年)、教育委員会 (4年)、園長 (6年) に従事。			
授 業 概 要	<p>保育現場で幼児との関わりを数多く経験しながら幼児理解を深め、実践力を養い、幼稚園教諭の役割を理解します。</p> <p>このとり認定こども園で、1年次 2～3月に4日間の実習を経験し、それを基に2年次 4月～7月にA・Bクラスに分かれて7日間の実習をします。さらに、9月に学外幼稚園(認定こども園)で2週間の実習をします。</p>				
授 業 科 目 の 目 的	<p>実習は、幼児や保育に関して習得した知識や理論を保育の実際の場で確認し、体験的に学ぶ機会です。「実習で何を学びたいか」という明確な目的や課題をもち、保育者をめざそうとする心構えで積極的に臨むとともに、教員としての能力・適性についての自覚を得ることが目的となります。</p>				
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児の観察や関わりを通して、幼児への理解を深めることができますようにします。</li> <li>2. 幼稚園教諭の専門性と職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解することができますようにします。</li> <li>3. 幼稚園教諭としての自己課題を明確化することができますようにします。</li> </ol>				
テ キ ス ト	幼稚園教育実習事前・事後指導／豊岡短期大学				
参 考 書	幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説／文部科学省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館				
成 績 評 価 基 準	各実習園からの評価90%、実習日誌等提出物の状況10%により総合的に評価します。				
メ ッ ク の セ ー ジ と 心 構 え と	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育現場では、学生であっても保育者としての自覚をもち、わきまえのある態度で臨んでください。また、保育者としての身だしなみを考え、常に自己責任を意識してください。</li> <li>・幼児をさまざまな視点から観る目と、感性を養う努力をしてください。先生が楽しければ幼児も楽しいのです。何よりも保育の楽しさを見つけましょう。</li> </ul>				
の 其 他 項					

## 授業内容進行表

### 実習期間

実習期間は、以下の予定です。ただし、実習先の状況により変更する場合があります。

#### ○平成30年度入学生

[このとり認定こども園での実習]

平成31年2月5日(月)～3月14日(木)のうち4日間

平成31年4月8日(月)～7月22日(月)のうち7日間

(A・Bクラスに分かれ、隔週の金曜日に実習をする)

[学外幼稚園(認定こども園)での実習]

平成31年9月2日(月)～9月14日(土)2週間

#### ○平成31年度入学生

[このとり認定こども園での実習]

平成32年2月4日(月)～3月11日(木)のうち4日間

平成32年4月6日(月)～7月20日(月)のうち7日間

(A・Bクラスに分かれ、隔週の金曜日に実習をする)

[学外幼稚園(認定こども園)での実習]

平成32年9月7日(月)～9月19日(土)2週間

教 科 名		開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
教育実習事前・事後指導		1年・後期～ 2年・通年	演習	45時間 (1単位)	宿 南 久 美 子
実務経験の概要		・幼稚園に40年間勤務した実務経験があります。 その間、クラス担任 (30年)、教育委員会 (4年)、園長 (6年) に従事。			
授 業 概 要	教育実習は、学生の立場から幼児を導く立場に立って考える機会です。1年次2月～3月・2年次前期に行われるこのとり認定こども園での実習、さらに9月の学外幼稚園 (認定こども園) での実習に向けて、実習の意義・目的を理解し、保育についての知識・技能、態度等を総合的に学びます。				
授 業 科 目 の 目 的	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学びます。また、幼児の発達の特性や発達過程を踏まえ、観察の視点と方法、指導案の作成等を習得することを目的とします。 また実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にすることを目指します。				
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育の基礎理論を学ぶことができますようにします。</li> <li>2. 実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶことができますようにします。</li> <li>3. 保育者の専門性と職業倫理について学ぶことができますようにします。</li> <li>4. 観察や幼児との関わりを通して、幼児への理解を深め記録することができますようにします。</li> <li>5. 幼児理解や教師の援助の方法、環境構成等について学び、指導案を作成することができますようにします。</li> <li>6. 事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができますようにします。</li> </ol>				
テ キ ス ト	幼稚園教育実習事前・事後指導／豊岡短期大学				
参 考 書	幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説／文部科学省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館				
成 績 評 価 基 準	授業態度・意欲40%、観察記録・指導案等の提出物60%により総合的に評価します。				
メ ッ ク の セ ー ジ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習で保育の楽しさを体験するために、事前指導で大切なことをしっかり学びましょう。</li> <li>・このとり認定こども園での実習記録のコピーを、毎回必ず提出してください。実習を積み重ね、幼児理解・保育者の役割等を深めていきましょう。</li> </ul>				
の 事 項 他					

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 幼稚園教育の特質・実習の意義と目的	16 回	<指導案の作成 3> 4歳児の指導案立案
2 回	<保育者としての倫理> 実習生としての心構え・守秘義務	17 回	<指導案の作成 4> 5歳児の指導案立案
3 回	<実習の内容と方法> 観察・参加・責任実習	18 回	<責任実習の振り返り 1> 自己評価と課題
4 回	<幼児理解と保育> 幼稚園・認定こども園の役割	19 回	<責任実習の振り返り 2> 自己評価と課題
5 回	<教育課程・指導計画> 長期指導計画・短期指導計画	20 回	<責任実習の振り返り 3> 自己評価と課題
6 回	<保育観察 1> 環境構成 ・幼児理解	21 回	<学外実習 直前指導> 実習生としての心構え・準備物 身だしなみ等の確認
7 回	<実習日誌の記録方法 1> 環境構成 ・幼児理解	22 回	<学外実習の振り返り 1> 実習体験発表
8 回	<保育観察 2> 環境構成 ・幼児理解 教師の援助の在り方	23 回	<学外実習の振り返り 2> 自己評価と課題・実習体験集作成
9 回	<実習日誌の記録方法 2> 環境構成 ・幼児理解 教師の援助の在り方	24 回	
10 回	<実践的演習 1> 幼児に即した歌・手遊び	25 回	
11 回	<実践的演習 2> 絵本・紙芝居等の導入からの方法	26 回	
12 回	<オリエンテーション> こうのとりの認定こども園での実習に向けての 心構え	27 回	
13 回	<1年次の実習の振り返り> 報告会と自己評価	28 回	
14 回	<指導案の作成 1> 指導案とは何か	29 回	
15 回	<指導案の作成 2> 3歳児の指導案立案	30 回	
		【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習Ⅰ	1年・通年	実習	160時間 (4単位)	栗岡 あけみ 西村 重喜
実務経験の概要	<p>・栗岡……幼稚園に33年勤務した実務経験があります。 その間、クラス持ち主任（6年）、専任の副園長（2年）、園長（9年）に従事。</p>			
授業概要	<p>保育実習Ⅰは、保育所実習と施設実習からなります。実際に保育所、福祉施設において乳幼児（利用者）とかかわり、保育士の仕事に助手的な形で携わることを通して、授業で学んだ内容と実践の統合を図る科目です。</p>			
授業科目の目的	<p>保育現場の実際に接し、子ども（利用者）の観察やかかわりを通して、子ども（利用者）への理解を深めます。そして、実習施設の役割や機能、保育士の役割や職務内容を具体的に理解することが目的です。</p>			
学習成果	<p>【保育実習Ⅰ（保育所）】（2単位）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の生活に参加し、保育所及び乳幼児理解を確かなものにすることができるようになります。</li> <li>2. 保育所の機能と保育士の職務内容や職業倫理、チームワークについて理解することができるようになります。</li> <li>3. 生活や遊びの一部分を担当し、保育技術を身につけることができるようになります。</li> </ol> <p>【保育実習Ⅰ（保育所以外の児童福祉施設）】（2単位）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 居住型児童福祉施設の生活に参加し、居施設及び利用者とその家族について理解を深めることができるようになります。</li> <li>2. 居住型児童福祉施設の機能とそこでの保育士の職務について理解し身につけることができるようになります。</li> <li>3. 生活や援助の一部分を担当し、養護技術を習得することができるようになります。</li> </ol>			
テキスト	<p>保育実習指導／豊岡短期大学 保育所保育指針解説書／フレーベル館</p>			
参考書	<p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書／フレーベル館</p>			
成績評価基準	<p>実習簿の内容 20%、各実習園による評価（実習態度、保育所理解、施設理解、乳幼児・児童の理解等）80%で総合評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>実習はこれまでの講義や演習で得られた知識や技能をもとに、多くの学びが得られるものです。そのためにも、以下のことに注意し実習に臨んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場でどんなことを知りたいのか、自分の課題を最初に立てておきましょう。</li> <li>・記録はとても大切です。自分の考えや感想などを文章で適切に表現できるようにしましょう。</li> <li>・体調管理をしっかりと行い、諸注意を厳守し、責任を持って行動しましょう。</li> </ul>			
その他				



## 授業内容進行表

### 実習期間

以下はおおよその日程です。実習先の状況により前後する場合があります。

#### 【保育実習Ⅰ（保育所実習）】 12日間（80時間）

前期

平成31年8月19日（月）～ 9月14日（土）のうち6日間観察実習

後期（下記の1～4のいずれか6日間）

- 1 平成31年12月23日（月）～ 12月28日（土）の6日間参加実習
- 2 平成32年1月6日（月）～ 1月11日（土）の6日間参加実習
- 3 平成32年2月12日（水）～ 2月18日（火）の6日間参加実習
- 4 平成32年2月19日（水）～ 2月25日（火）の6日間参加実習

#### 【保育実習Ⅰ 居住型児童福祉施設等における実習】 おおむね10日間（80時間）

平成32年2月中旬～ 3月下旬 観察実習・参加実習

＜履修上の注意事項＞

保育実習指導Ⅰの履修が必要です。実習の詳細については、保育実習指導Ⅰで提示します。

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習指導Ⅰ	1年～ 2年・前期	演習	60時間 (2単位)	栗岡 あけみ 西村 重喜
実務経験の概要	・栗岡……幼稚園に33年勤務した実務経験があります。 その間、クラス持ち主任(6年)、専任の副園長(2年)、園長(9年)に従事。			
授業概要	保育実習指導Ⅰでは、1年次に実施される保育実習Ⅰ(保育所・施設)の事前学習を行います。児童福祉法に規定される施設(保育所2週間(80時間)、乳児院・児童養護施設・障害者支援施設など(80時間))の実習において要求される事前手続きから、基礎的な知識や社会人としてのマナー、実習生としての配慮などを学びます。			
授業科目の目的	児童福祉施設における保育実習を円滑かつ効果的に進めるために、実習の意義、目的、方法などを明確にし、保育士の専門性について理解を深めます。また、保育所の子どもや施設の利用者の理解を深め、保育士の役割や仕事について学習します。 その上で、実習の結果について自己評価を行い、今後の保育士としての自己課題を明確にします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習の意義と目的、内容を認識し、保育所・施設実習に必要な専門知識、援助技術を理解し、実習に生かすことができるようになります。</li> <li>2. 保育実習への基本姿勢、実習に必要な書類や手続き等について理解することができるようにします。</li> <li>3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解できるようにします。</li> <li>4. 実習計画、実践、観察、記録、評価の方法について具体的に文章で記述することができるようにします。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を自分の言葉で説明したり文章に記したりすることができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	保育実習指導／豊岡短期大学 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館			
参考書	授業の中でプリント、資料を適宜配付します。ファイル(授業で渡されたプリントなどを整理できるもの)を必ず持参すること。			
成績評価基準	受講態度・学習への関心30%、提出物(身上書、ワクチン接種済み書など)、課題(指導案、製作物など)の取り組み40%、発表態度や内容など30%を総合して評価します。 ただし、実習意欲が感じられないと判断される者は、実習先に迷惑がかかるため、実習を取り止めることがあります。授業には緊張感をもって臨んでください。			
受講の心構えとメッセージ	実際に子どもたちと共に生活する実習では、机上の学びでは体験できない出会いや、感動がたくさん待ち受けていることでしょう。同時に自分が試されたり、揺らぎを感じたりすることもあります。子どもの傍らにある保育者として、共感すること、子どもを受け止めることとはどういうことかを一緒に考えていきましょう。実りある実習にするために、基本的な知識を身につけながら、自身の保育観を養ってください。そのためには、テキストや保育所保育指針解説書を読み、予習することが大切です。心構えがあれば、楽しい授業に自ら作り上げられます。是非、学びを深めてください。			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	＜オリエンテーション・実習の意義＞ 実習の目的と概要	16 回	＜指導案を立てるときの基本2＞（保育所） 指導案を立てるときのポイント
2 回	＜保育所保育の理解＞ 保育所保育の目的と特徴	17 回	＜施設実習に向けて、実習の意義と目的＞ 施設実習の性格と内容・意義
3 回	＜保育所生活の理解＞ 保育所の1日の流れと保育士の仕事内容	18 回	＜指導案を立てるときの基本3＞（保育所） 保育計画に基づく指導案の作成
4 回	＜実習内容と心構えの理解＞（保育所） 実習の形態と方法 守秘義務と子どもの人権尊重	19 回	＜施設実習、施設の実際＞ 実習施設の機能と役割
5 回	＜保育所実習の課題の明確化＞ 自己課題の明確化と諸手続きについて	20 回	＜保育所実習課題の明確化＞ 後期実習課題の設定
6 回	＜実習簿の書き方1＞（保育所） 実習簿の意義・記入上の諸注意	21 回	＜後期保育所実習直前指導＞ まとめ 準備事項の確認
7 回	＜実習簿の書き方2＞（保育所） 記録の取り方・記入方法	22 回	＜施設実習、実習の心構え＞ (1) 実習前の自覚 (2) 実習中・実習後の心構え
8 回	＜保育所見学＞ 環境構成・子どもの姿	23 回	＜施設実習、実習簿の書き方＞ (1) 記録の取り方 (2) 実習簿への記入の仕方
9 回	＜保育所見学のまとめ＞ 保育内容と保育環境の理解（見学記録を通して）	24 回	＜施設実習直前指導＞ (1) まとめ (2) 準備事項の確認（施設）
10 回	＜前期保育所実習直前指導＞ 準備事項の確認	25 回	＜実習体験の振り返り1＞（施設） 体験発表と記録に基づく自己評価
11 回	＜前期保育所実習を終えて＞ 報告会 記録に基づく省察	26 回	＜実習体験の振り返り1＞（保育所） 体験発表と記録に基づく自己評価
12 回	＜後期保育所実習について＞ 実習日誌の書き方理解	27 回	＜実習体験の振り返り2＞（施設） 施設 専門職としての保育士の役割理解
13 回	＜オリエンテーション＞ (1) 施設実習の心構え (2) 観察実習を通した子ども理解	28 回	＜実習体験の振り返り2＞（保育所） 専門職としての保育士の役割理解
14 回	＜指導案を立てるときの基本1＞（保育所） 実習における指導案	29 回	＜全体総括＞（施設） 保育実習課題の明確化
15 回	＜施設実習の課題の明確化＞ 児童福祉施設における保育士	30 回	＜全体総括＞（保育所） 保育実習課題の明確化
		【定期試験】 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習Ⅱ	2年・前期	実習	80時間 (2単位)	栗岡 あけみ
実務経験の概要	<p>・幼稚園に33年勤務した実務経験があります。 その間、クラス持ち主任(6年)、専任の副園長(2年)、園長(9年)に従事。</p>			
授業概要	<p>社会の状況が変化し「子育て・子育て」の課題が複雑化する中、支援の拠点として保育所はこれまで以上に重要な存在となっています。そこで活躍する保育士の役割も多岐にわたり、より高い専門性が求められています。保育士をめざす者は、各教科で学んだ内容を結びつけ、保育の実践現場で活用したり応用したりできるような学びが求められます。そこで、「保育実習Ⅱ」では、各教科で習得した知識や技能の内容と「保育実習Ⅰ」における保育現場での学びをもとに実習を進めていきます。</p>			
授業科目の目的	<p>保育実習Ⅱは、保育実習Ⅰを基礎とした指導実習です。保育所の生活に参加し、乳幼児の内面理解と保育所機能を深めるとともに、子育て支援や保護者との連携など保育士の職務について学ぶことを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>積極的に保育実践に参加し、保育に必要な知識や技術を習得することができるようになります。</li> <li>既習学習の内容を活かしながら保育の計画を立て、自ら実践することができるようになります。</li> <li>指導計画の作成、実践、観察、評価、を行い、その重要性を説明することができるようになります。</li> <li>子どもの個人差やニーズについて理解し、その対応について説明することができるようになります。</li> <li>保育士の職務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて説明することができるようになります。</li> <li>保育士としての自己課題を自分の言葉で説明することができるようになります。</li> </ol>			
テキスト	保育実習指導／豊岡短期大学			
参考書	<p>保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館  保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館  保育用語辞典／ミネルヴァ書房  幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館  幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>			
成績評価基準	<p>実習園による評価(実習態度・保育所理解・幼児理解など)80%、保育実習簿の内容(字の丁寧さ・ねらいと内容の理解・保育の考察力・内省力など)20%を総合して評価します。</p>			
受講の心構えとセージ	<p>実習はこれまでの講義や演習で得られた知識や技術をもとに、多くの学びが得られるものです。そのためにも、以下のことに注意し実習に臨んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現場ではどんなことが知りたいのか、自分の課題を最初立てておきましょう。</li> <li>記録はとても大切です。自分の思いや考えなど文章で適切に表現できるようにしましょう。</li> <li>体調管理をしっかりと行い、諸注意を厳守し、責任をもって行動しましょう。</li> </ul>			
その他	<p>本実習科目を履修するにあたっては、保育実習Ⅰ(保育所)及び保育実習Ⅰ(施設)を履修していることが必要です。</p>			

## 授業内容進行表

### 実習期間

以下はおおよその日程です。実習先の状況により前後する場合があります。

### 【保育実習Ⅱ（保育所実習）】 12日間（80時間）

平成31年8月16日（金）～ 8月29日（木） ・ 観察実習・参加実習・指導実習

### 実習計画

- ・〈保育全般への参加と保育技術の習得〉
- ・〈子どもの個人差理解と対応方法の習得〉  
発達の違いや生活環境にともなう子どものニーズ理解とその対応
- ・〈指導計画の立案と実践〉
- ・〈子どもの家族とのコミュニケーション方法の習得〉
- ・〈地域社会（保護者）に対する理解と連携方法〉
- ・〈子どもの最善の利益への配慮〉
- ・〈保育士としての職業倫理理解〉
- ・〈保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己課題の明確化〉

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習指導Ⅱ	2年・通年	演習	15時間 (1単位)	栗岡 あけみ
実務経験の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園に33年勤務した実務経験があります。</li> <li>その間、クラス持ち主任(6年)、専任の副園長(2年)、園長(9年)に従事。</li> </ul>			
授業概要	<p>保育実習指導Ⅱは、保育所実習の準備と事後学習のためのものです。「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」の継続性を理解し、指導実習に必要な保育指導案の立て方について学んでいきます。また、保育所実習全体を通して、子ども、家庭、地域への理解を深め、子育て支援の必要性や内容を学習します。実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく授業です。</p>			
授業科目の目的	<p>保育実習Ⅱの学びを深めることを目的にした科目です。保育実習Ⅰにおける学びや反省を踏まえ自己の課題を明確にして主体的に学びます。観察・参加・指導実習のなかで子どもや保育の理解を深められるよう、子ども理解の方法、指導計画作成の実際について学びます。</p> <p>また、子ども・保護者・同僚とのコミュニケーション能力を身につけ実践力を養い、家庭や地域を理解することも学びます。実習後は、実習を丁寧に振り返り、自己評価、グループ演習などを通して自己課題を明確化することが目的です。</p>			
学習成果	<p><b>【事前指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習Ⅰとの違いと保育実習Ⅱの内容を理解し、自己課題をもち積極的に実習に臨むことができるようにします。</li> <li>・子どもの最善の利益を理解したうえで、個々の発達を踏まえた指導計画を立てることができようにします。</li> <li>・観察、記録、自己評価などの方法について具体的に理解し、実習簿に記述できようにします。</li> </ul> <p><b>【事後指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習先での学習を客観的に振り返ることができるようにします。</li> <li>・自身の今後に繋がる成果と課題を明らかにし、文章化することができようにします。</li> </ul>			
テキスト	<p>保育所保育指針解説書／フレーベル館          幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書／フレーベル館          一年次に購入したテキストを継続して使用します。</p>			
参考書	<p>必要に応じて随時紹介します。          授業の中でプリント、資料を配付します。(リングファイルを準備しておくこと)</p>			
成績評価基準	<p>受講態度30%、提出物とレポート40%、発表態度と内容30%を総合して評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>保育士を目指すためには、子ども、家庭、地域への理解まで求められます。「専門職になる」という意識を常に持ち、授業に出席してください。これからの授業の学びと実体験を繋げていきましょう。先輩保育士から学ぶ謙虚な姿勢で臨み、積極性と意欲をもって多くを吸収してもらいたいです。</p> <p>また、子どもの良いモデルとなれるよう言葉遣い、態度、所作に日頃から注意しましょう。予習は、次回の授業の内容を読み、持ち物や提出物を整えることです。復習は、授業で出された課題を完成させ、提出できるようにすることです。</p>			
その他	<p>実習意欲が感じられないと判断される者は、実習先に迷惑がかかるため、実習を取り止めることがあります。授業には緊張感をもって臨んでください。</p>			

## 授業内容進行表

1 回	<保育実習における総合的な学び> 保育実習Ⅱの心構え（子どもの最善の利益） 諸手続きについて
2 回	<子どもの保育と保護者支援> 保護者支援の基本とコミュニケーション 職業倫理
3 回	<保育の実践力の育成1> 実習日誌の記入方法 総合（全日）実習（遊びと教材研究）
4 回	<保育の実践力の育成2> 事前訪問について（実習先の理解） 指導計画の立案・作成について
5 回	<保育実践力の育成3> 子どもの状態に応じた適切なかかわり 表現技術を生かした保育実践
6 回	<実習直前指導> 実習課題の明確化と礼状の書き方
7 回	<事後指導における実習の総括と評価1> 実習の総括と自己評価
8 回	<事後指導における実習の総括と評価2> 自己課題の明確化
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習Ⅲ	2年・前期	実習	80時間 (2単位)	西村重喜
実務経験の概要				
授業概要	保育所以外の児童福祉施設実習であり、8月中旬～下旬に10日間(80時間以上)の実習を行います。1年次からのすべての学びと実習の経験を生かし、さらに専門性の高い実習を行います。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して理解します。</li> <li>2. 家庭と地域の生活実態に触れて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援こに対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識・技術・判断力を習得します。</li> <li>3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解します。</li> <li>4. 実習における自己課題を理解します。</li> </ol>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して理解できるようにします。</li> <li>2. 施設における支援の実践について理解できるようにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設利用児の生活や思いを把握し、その背景もふまえた援助を実践できるようにします。</li> <li>・多様な専門職との連携について理解を深め実践できるようにします。</li> <li>・地域との連携や家庭への支援の実態について認識を具体化できるようにします。</li> </ul> </li> <li>3. 保育士の多様な業務と職業倫理について実践を通して説明できるようにします。</li> <li>4. 保育士としての自己課題を認識できるようにします。</li> </ol>			
テキスト	保育実習指導／豊岡短期大学			
参考書	保育所保育指針解説書／厚生労働省編／フレーベル館			
成績評価基準	実習施設評価(実習態度・実習内容)80%、実習日誌の内容(文字の丁寧さ・ねらいと内容の理解・考察力など)20%で総合評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>福祉の現場で実習の機会をいただくことに感謝し、誠実かつ意欲的に取り組みましょう。利用者の心に寄り添い、より良い支援ができるよう努力を重ねることが必要です。一生懸命な姿勢がなにより大切です。</p> <p>体調管理には十分に気をつけ遅刻や欠席は絶対にしないこと、身だしなみを整えること、諸注意を厳守し各自が責任をもって行動することが望まれます。自立した人間としての強い自覚の上、職業実習として捉えることが望まれます。</p>			
その他事項	本実習科目を履修するにあたっては、保育実習Ⅰ(保育所)及び保育実習Ⅰ(施設)を履修していることが必要です。			



## 授業内容進行表

「保育実習Ⅲ」は、8月中旬～下旬の10日間で80時間以上の実習を行います。

実習の概要は次に示しますが、具体的には、各施設の指示によって実施していきます。

1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能
2. 施設における支援の実際
  - (1) 受容し、共感する態度
  - (2) 個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解
  - (3) 個別支援計画の作成と実践
  - (4) 子ども（利用者）の家族への支援と対応
  - (5) 各施設における多様な専門職との連携・協働
  - (6) 地域の子育てへの支援など、地域社会との連携・協働
3. 保育士の多様な業務と職業倫理
4. 保育士としての自己課題と今後の目標の明確化

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習指導Ⅲ	2年・通年	演習	15時間 (1単位)	西村重喜
実務経験の概要				
授業概要	児童福祉施設における保育士の役割について理解を深め、実践力を高めます。支援計画に基づいた援助のあり方について理解し、指導計画を立案し、実践できる力を高める。事後学習においては、発表や文章化を通して、自らの課題や目標を認識します。			
授業科目の目的	「保育実習指導Ⅰ」の学びを基に、施設保育士の職務と専門性を理解し、施設で生活する児童への支援と保護者・家庭への援助について理解します。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設利用児の生活や思いを把握し、養育背景を理解した援助を実践することができるようにします。</li> <li>2. 保育士の職務と多職種との連携、関係機関との連携について総合的に理解することができるようにします。</li> <li>3. 観察、記録、自己評価、実習簿の記録の充実に向けて理解することができるようにします。</li> <li>4. 事後学習では、自らの実習内容を客観的に振り返り、今後の目標と課題を明確することができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	保育実習指導／豊岡短期大学 必要に応じて、プリントを配布します。			
参考書	保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館			
成績評価基準	<p>受講態度・学習への関心30%、提出物（身上書、ワクチン接種済み書など）、課題（指導案、製作物など）の取り組み40%、発表態度や内容など30%を総合して評価します。</p> <p>ただし、実習意欲が感じられないと判断される者は、実習先に迷惑がかかるため、実習を取り止めることがあります。授業には緊張感をもって臨んでください。</p>			
受講の心構えとメッセージ	施設実習実施のための必須科目であることを自覚してください。授業では、施設保育士の業務を理解し実践力を高めるために、事例討議や課題学習への積極的な取り組みを期待します。この科目の提出物は、実習施設に提出する大切なものが多く、期限を守り、確実に提出することが必要です。実習に向けて、自らの体調管理に努めるとともに、社会人としての自覚を高め、諸注意を厳守して行動することの必要性を認識し、より良い実習ができるよう学びましょう。実習では利用者とともに生活させていただくので、普段から社会で暮らしていく基本的な生活習慣について、考えながら行動していきましょう。			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
2 回	<子どもの保育と保護者支援> 実習施設の概要と保育士の職務の理解
3 回	<子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり> 施設の利用児と家庭的な背景、支援のあり方についての理解
4 回	<保育の知識・技術を活かした保育実践> 実習目標の設定、保育士と多職種との連携・地域との連携についての理解
5 回	<保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践> 実習計画と事前書類の作成、部分実習計画立案
6 回	<保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善> 実習簿の意義と記入の充実、提出書類のまとめ、実習中の自己評価
7 回	<実習の総括と自己評価>
8 回	<自己課題の明確化>
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育・教職実践演習 (幼稚園)	2年・後期	演習	30時間 (2単位)	宿南久美子 國光みどり
実務経験の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿南・・・幼稚園に40年間勤務した実務経験があります。 その間、クラス担任(30年)、教育委員会(4年)、園長(6年)に従事。</li> <li>・國光・・・幼稚園に14年、幼保連携型認定こども園に2年勤務した実務経験があります。 その間、クラス持ち主任(2年)、専任の副園長(4年)、園長(2年)に従事。</li> </ul>			
授業概要	<p>これまでの授業や実習などで形成してきた教師・保育者としての資質能力を確認し、これからの自己の課題の自覚と克服に努めます。</p> <p>さらに、専門職業人としての円滑なスタートができるように、保育・教育現場に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス等を通して、実践的指導力を身につけます。</p>			
授業科目の目的	<p>本授業では、幼稚園教諭・保育士の養成課程で学んできた知識と保育・教育実習等で得られた実践力の統合を図り、教師・保育士としての使命感や責任感のある実践的指導力を身につけていきます。また、専門職業人としての研修の必要性和自己研鑽に努める自覚をもち、人を教える専門家としての生活の円滑なスタートを目指すことを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教師・保育士としての資質・能力とは何か、また教員として働く意味や使命感・責任感について再確認し高めることができるようにします。</li> <li>2. 教師・保育士に求められる社会性や対人関係力を高めることができるようにします。</li> <li>3. 教師・保育士としての実践的な指導力を保育カンファレンス等を通して身につけることができるようにします。</li> </ol>			
テキスト	保育・教職実践演習／上長 然・國光みどり／豊岡短期大学			
参考書	幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館			
成績評価基準	定期試験60%、授業態度・グループワークへの参加状況40%で、総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>本授業は、教職課程の総まとめに位置づけられています。</p> <p>本授業を通して自らの状況を把握し、克服すべき点を意識し、さらに習得すべき点は習得し、よりよい教員になるための授業にしていきたいと思います。予習・復習を心がけ意欲的に参加してください。</p>			
その他				

## 授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 授業の概要と到達目標の確認、学生自身による自己目標の設定
2 回	<教師という職業1> 教職の意義、教師にもとめられる資質と能力
3 回	<教師という職業2> 「教師」「保育者」になる
4 回	<保育者としての学級経営1> 学級とは、学級担任の役割
5 回	<保育者としての学級経営2> 課題のある子どもへの対応
6 回	<保育者としての学級経営3> 発達に遅れのある子どもへの対応
7 回	<保育者としての学級経営4> 保育者と保護者
8 回	<保育者としての学級経営5> 人権教育の観点から保育—子どもの権利条約—
9 回	<特別支援への理解と対応> 特別支援教育と教師・保育者における役割と支援
10 回	<保育カンファレンス1> 生きる力を育てる保育—まなび—
11 回	<保育カンファレンス2> 生きる力を育てる保育—かかわり—
12 回	<保育カンファレンス3> 生きる力を育てる保育—いのち—
13 回	<信頼される保育者> 危機管理と危機対応
14 回	<保幼小連携> 幼保小のなめらかな接続のために
15 回	<学習のまとめ> 自己の振り返り、今後に向けての課題
【定期試験】 (有) ・ 無	

